

坂出市在宅介護実態調査 結果報告書

**令和8年8月
坂出市 かいご課**

目次

I	在宅介護実態調査の概要	1
1	アンケート調査の目的	1
2	アンケート調査の実施概要	1
	(1) 対象者と期間	1
	(2) 調査の方法・手順・見方	1
3	集計・分析における留意点	2
II	単純集計結果	3
1	基本調査項目（A票）	3
	(1) 世帯類型	3
	(2) 家族等による介護の頻度	4
	(3) 主な介護者の本人との関係	5
	(4) 主な介護者の性別	6
	(5) 主な介護者の年齢	7
	(6) 主な介護者が行っている介護	8
	(7) 介護のための離職の有無	10
	(8) 保険外の支援・サービスの利用状況	11
	(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス	12
	(10) 施設等検討の状況	13
	(11) 本人が抱えている傷病	14
	(12) 訪問診療の利用の有無	16
	(13) 介護保険サービスの利用の有無	17
	(14) 介護保険サービス未利用の理由	18
2	主な介護者様用の調査項目（B票）	20
	(1) 主な介護者の勤務形態	20
	(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況	21
	(3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援	23
	(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識	25
	(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護	26
3	要介護認定データ	28
	(1) 年齢	28
	(2) 性別	29
	(3) 二次判定結果（要介護度）	30
	(4) サービス利用の組み合わせ	31
	(5) 訪問系サービスの合計利用回数	32

(6) 通所系サービスの合計利用回数	33
(7) 短期系サービスの合計利用回数	34
(8) 障害高齢者の日常生活自立度	35
(9) 認知症高齢者の日常生活自立度	36
II クロス集計結果	37
I 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討	37
1.1 集計・分析の狙い	37
1.2 集計結果の傾向	37
(1) 要介護度・世帯類型別の施設等検討の状況	37
(2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う主な介護者が不安に感じる介護	39
(3) サービス利用組み合わせ別の主な介護者が不安に感じる介護	41
(4) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴うサービス利用の組み合わせ	43
2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討	46
2.1 集計・分析の狙い	46
2.2 集計結果の傾向	46
(1) 就労状況別の主な介護者等の基本属性	46
(2) 就労状況別の主な介護者が行っている介護と就労継続見込み	50
(3) 就労状況、就労継続見込み別の介護保険サービスの利用状況と主な介護者が不安に感 じる介護	53
(4) 就労状況別のサービス利用の組み合わせの状況	56
(5) 就労状況別の保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況	56
(6) 就労状況別の介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援	58
3 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討	62
3.1 集計・分析の狙い	62
3.2 集計結果の傾向	62
(1) 世帯類型別の保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス	62
(2) 世帯類型×要介護度×保険外の支援・サービスの利用状況	64
(3) 世帯類型×要介護度×在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス	68
(4) 認知症自立度×在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス	72
4 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討	73
4.1 集計・分析の狙い	73
4.2 集計結果の傾向	73
(1) 世帯類型別の要介護度	73
(2) 世帯類型別の家族等による介護の頻度	74
(3) 要介護度別・認知症自立度別の世帯類型別のサービス利用の組み合わせ	74
5 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討	78
5.1 集計・分析の狙い	78
5.2 集計結果の傾向	78
(1) 要介護度別の主な介護者が行っている介護	78

(2) 世帯類型別、要介護度別の訪問診療の利用割合	80
(3) 訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ	81
(4) 要介護度別の抱えている傷病	82
(5) 訪問診療の利用の有無別の抱えている傷病	83
6 サービス未利用の理由など	84
6.1 集計結果の傾向	84
(1) 要介護度別のサービス未利用の理由	84
IV 独自設問	85

I 在宅介護実態調査の概要

1 アンケート調査の目的

本アンケート調査（以下、本調査）は、在宅で生活する要介護者及びその家族介護者の生活実態や介護サービスの利用状況、介護負担等を把握し、在宅生活の継続に必要な支援や地域課題を明らかにすることを目的として実施したものです。調査結果は、第10期介護保険事業計画の策定において、介護サービス基盤の整備、地域包括ケアシステムの充実、介護予防・生活支援及び家族介護者支援等の施策を検討するための基礎資料として活用します。

2 アンケート調査の実施概要

(1) 対象者と期間

本調査の対象は、在宅で生活している要支援・要介護者のうち対象期間に「要支援・要介護認定の更新申請・区分変更申請」を行い、認定調査を受けた人です。

したがって、医療機関に長期入院している人、特別養護老人ホーム・老人保健施設・介護療養型医療施設・特定施設・グループホーム・地域密着型特定施設・地域密着型特別養護老人ホームに入所または入居している人は、調査の対象とはなっていません。

なお、特定施設入居者生活介護または地域密着型特定施設入居者生活介護の指定を受けていない有料老人ホーム、ケアハウス、サービス付き高齢者向け住宅などの入居者は在宅として、本調査の対象としています。

【対象者と回収状況】

対象者	対象者件数	回収件数	回収率
要支援・要介護認定者 (更新・変更申請)	458 件	239 件	52.2%

(2) 調査の方法・手順・見方

(1) の対象者のかたが、要介護認定の訪問調査を受ける際に、認定調査員が、主として認定調査の概況調査の内容を質問しながら、本調査の調査票に関連内容を転記する方法で調査を行いました。なお、主な介護者が認定調査に同席している場合は、主な介護者からも聞き取りを行いました。

【調査方法・手順】

STEP 1	・認定調査の訪問時に、本調査を同時に実施し、回答票に記入する。
STEP 2	・回答票をデータ化する
STEP 3	・認定調査終了後は、通常の認定事務のプロセスで処理を行い審査会の二次判定を経て、認定結果を認定ソフト 2021 から CSV ファイルで出力する。
STEP 4	・アンケート調査の結果と認定調査の結果を「被保険者番号」で関連付けて、両データを合わせた詳細な分析を行う。

3 集計・分析における留意点

本集計・分析では、介護保険サービスの利用回数・利用の組み合わせ等に着目した集計・分析を行うため、介護保険サービスを大きく「訪問系」、「通所系」、「短期系」の3つに分類して集計しています。なお、介護保険サービスの中には、介護予防・日常生活支援総合事業を通じて提供される「介護予防・生活支援サービス」も含まれます。

それぞれ、用語の定義は以下のとおりです。

【サービス利用の分析に用いた用語の定義】

用語		定義
未利用		・「住宅改修」、「福祉用具貸与・購入」のみを利用しているかたについては、未利用としています。
訪問系		・（介護予防）訪問介護、（介護予防）訪問入浴介護、（介護予防）訪問看護、（介護予防）訪問リハビリテーション、（介護予防）居宅療養管理指導、夜間対応型訪問介護を「訪問系」として集計しています。
通所系		・（介護予防）通所介護、（介護予防）通所リハビリテーション、（介護予防）認知症対応型通所介護を「通所系」として集計しています。
短期系		・（介護予防）短期入所生活介護、（介護予防）短期入所療養介護を「短期系」として集計しています。
その他	小規模多機能	・（介護予防）小規模多機能型居宅介護を「小規模多機能」として集計しています。
	看護多機能	・看護小規模多機能型居宅介護を「看護多機能」として集計しています。
	定期巡回	・定期巡回・随時対応型訪問介護看護を「定期巡回」として集計しています。

【サービス利用の分析に用いた用語の定義】

用語		定義
未利用		・上表に同じ
訪問系のみ		・上表の「訪問系」もしくは「定期巡回」のみの利用を集計しています。
訪問系を含む組み合わせ		・上表の「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「通所系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「短期系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「通所系」＋「短期系」、「小規模多機能」、「看護多機能」の利用を集計しています。
通所系・短期系のみ		・上表の「通所系」、「短期系」、「通所系」＋「短期系」利用を集計しています。

Ⅱ 単純集計結果

Ⅰ 基本調査項目（A票）

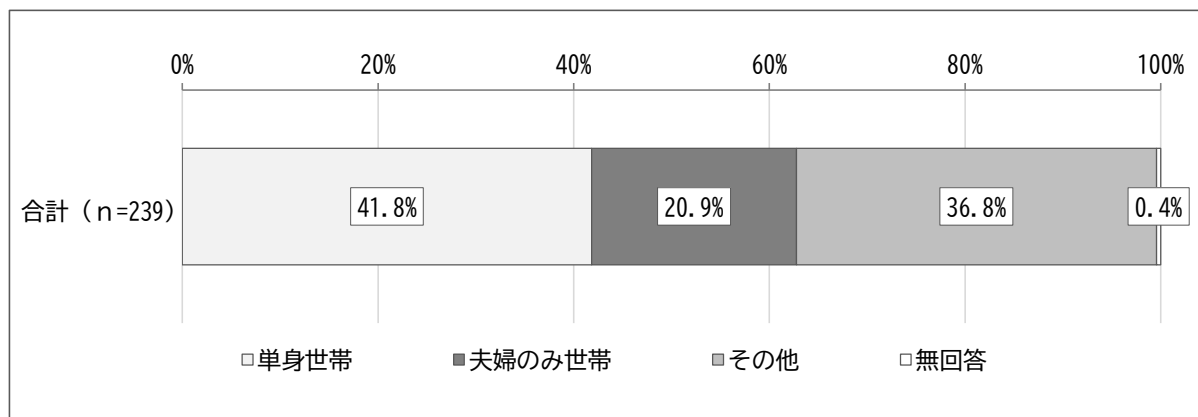
（Ⅰ）世帯類型

「単身世帯」が41.8%と最も割合が高くなっています。次いで、「その他」が36.8%、「夫婦のみ世帯」が20.9%となっています。

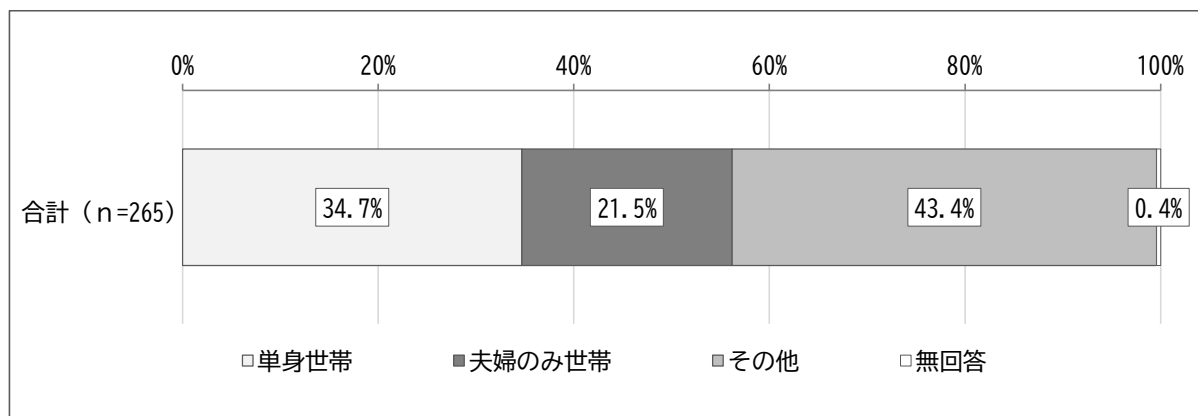
令和5年度調査と比較すると、「単身世帯」の割合が7.1ポイント増加し、「その他」が6.6ポイント減少しています。

図表 1-1 世帯類型（単数回答）

【令和8年度調査】



【令和5年度調査】



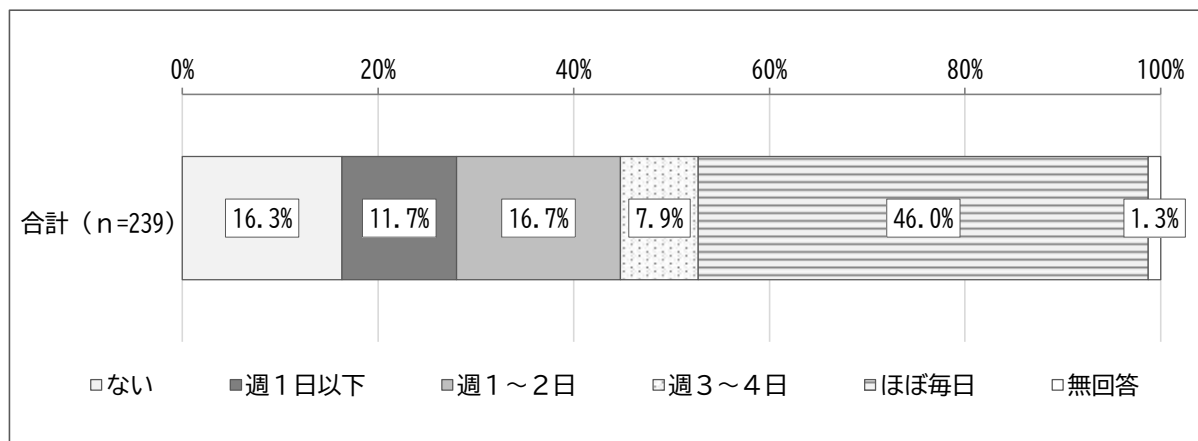
(2) 家族等による介護の頻度

「ほぼ毎日」が46.0%と最も割合が高くなっています。次いで、「週1～2日」が16.7%、「ない」が16.3%となっています。

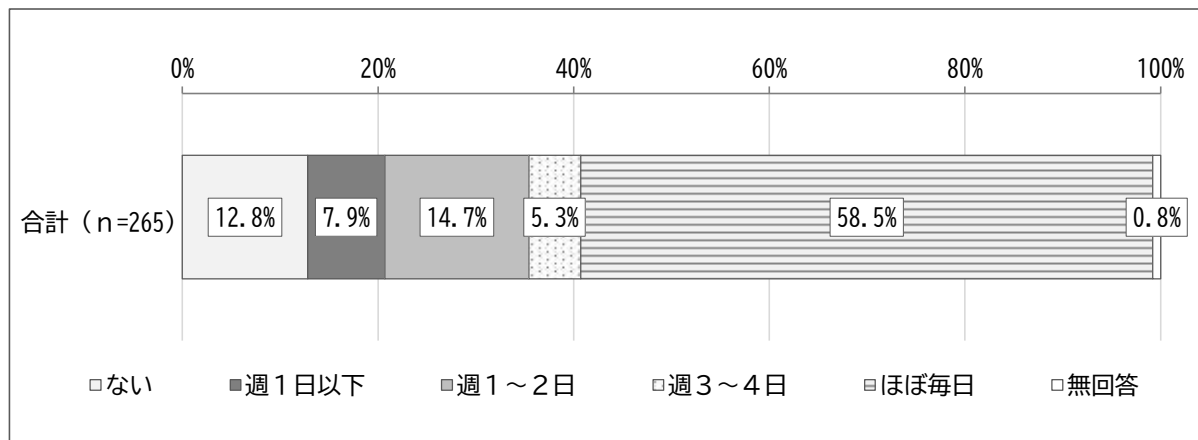
令和5年度調査と比較すると、「ほぼ毎日」が12.5ポイント減少しています。

図表 1-2 家族等による介護の頻度（単数回答）

【令和8年度調査】



【令和5年度調査】



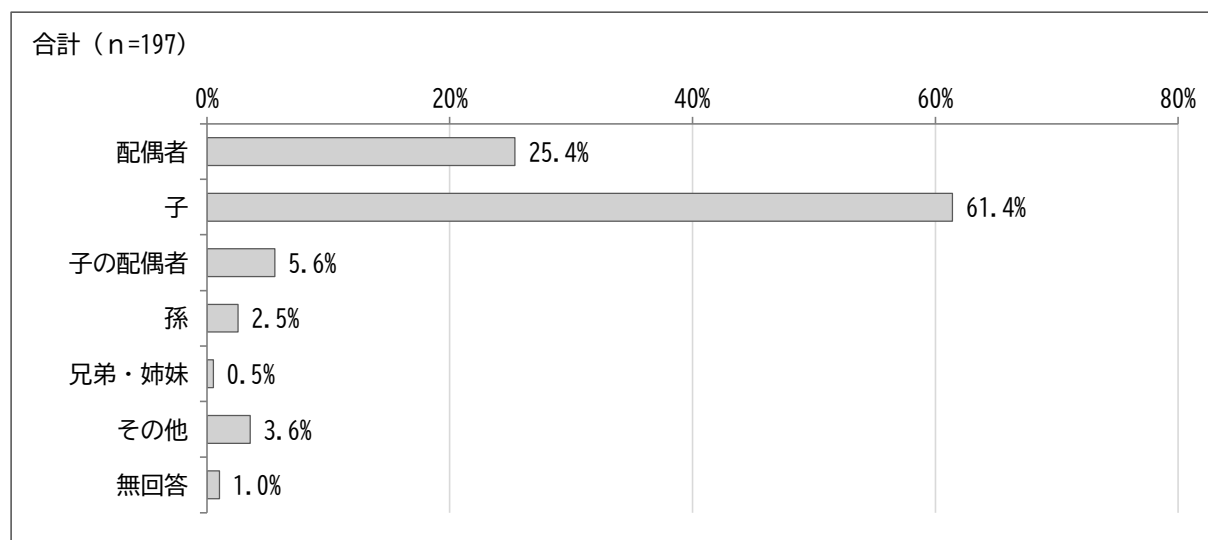
(3) 主な介護者の本人との関係

「子」が61.4%と最も割合が高くなっています。次いで、「配偶者」が25.4%、「子の配偶者」が5.6%となっています。

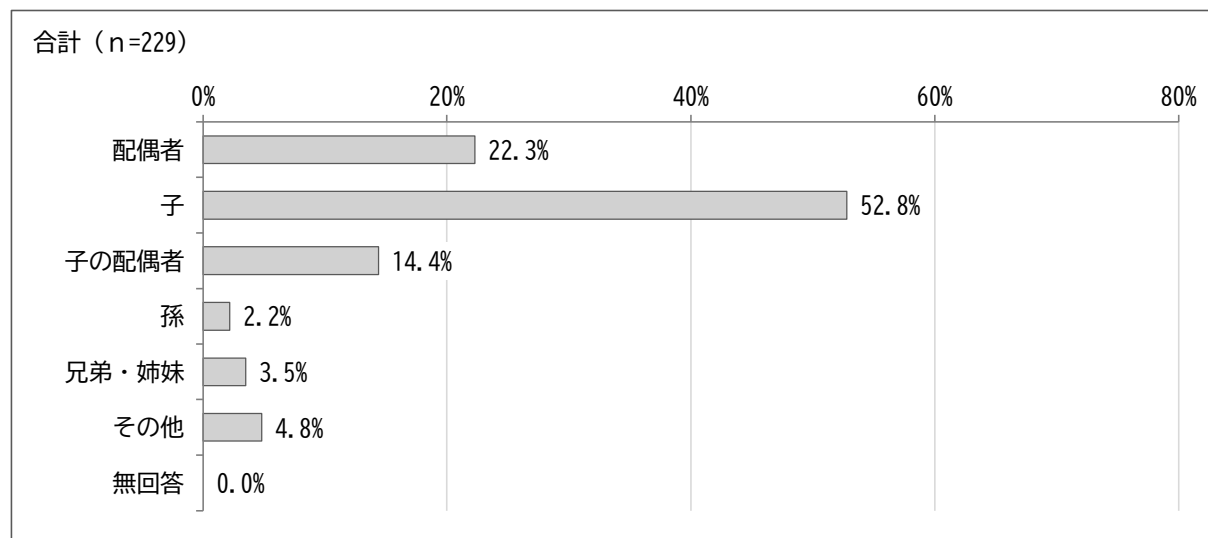
令和5年度調査と比較すると、「子」が8.6ポイント増加し、「子の配偶者」が8.8ポイント減少しています。

図表 1-3 主な介護者の本人との関係（単数回答）

【令和8年度調査】



【令和5年度調査】



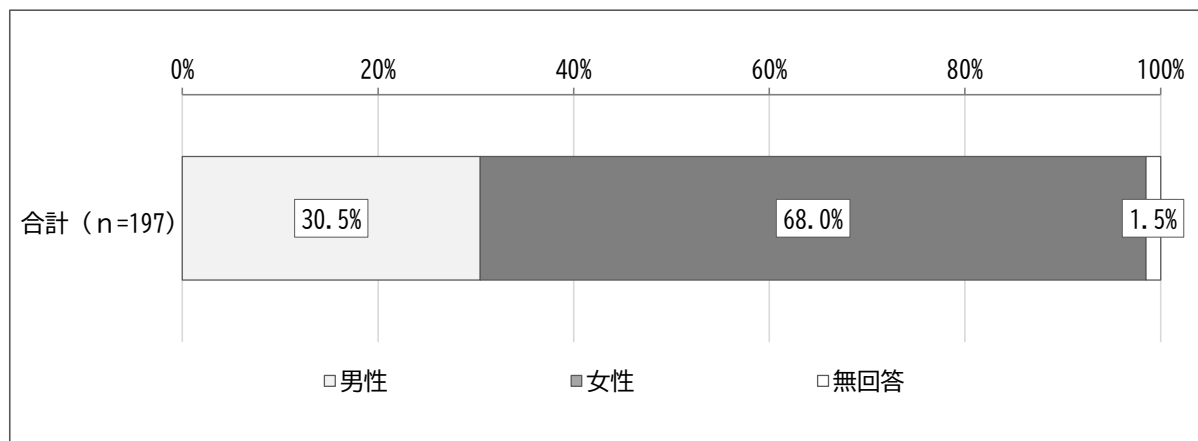
(4) 主な介護者の性別

「女性」が68.0%と最も割合が高くなっています。次いで、「男性」が30.5%となっています。

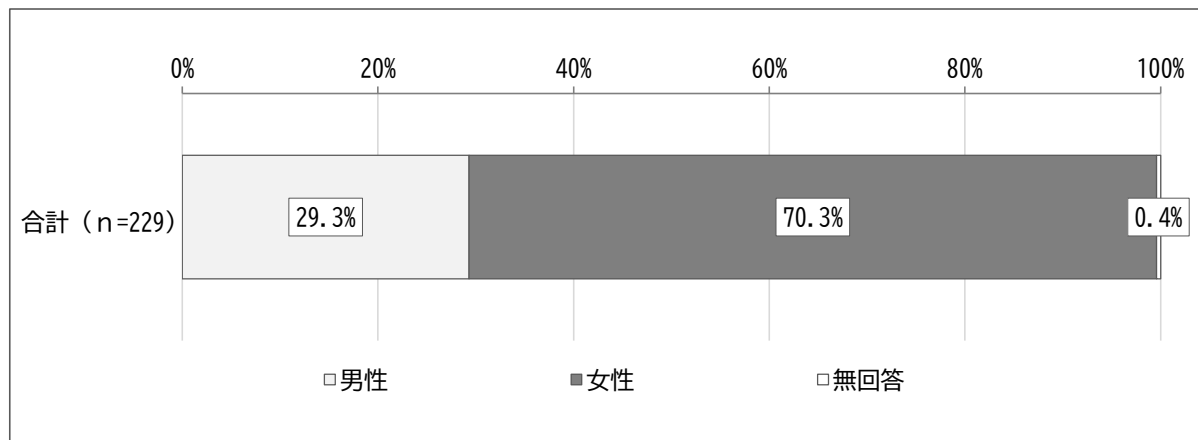
令和5年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表 1-4 主な介護者の性別（単数回答）

【令和8年度調査】



【令和5年度調査】



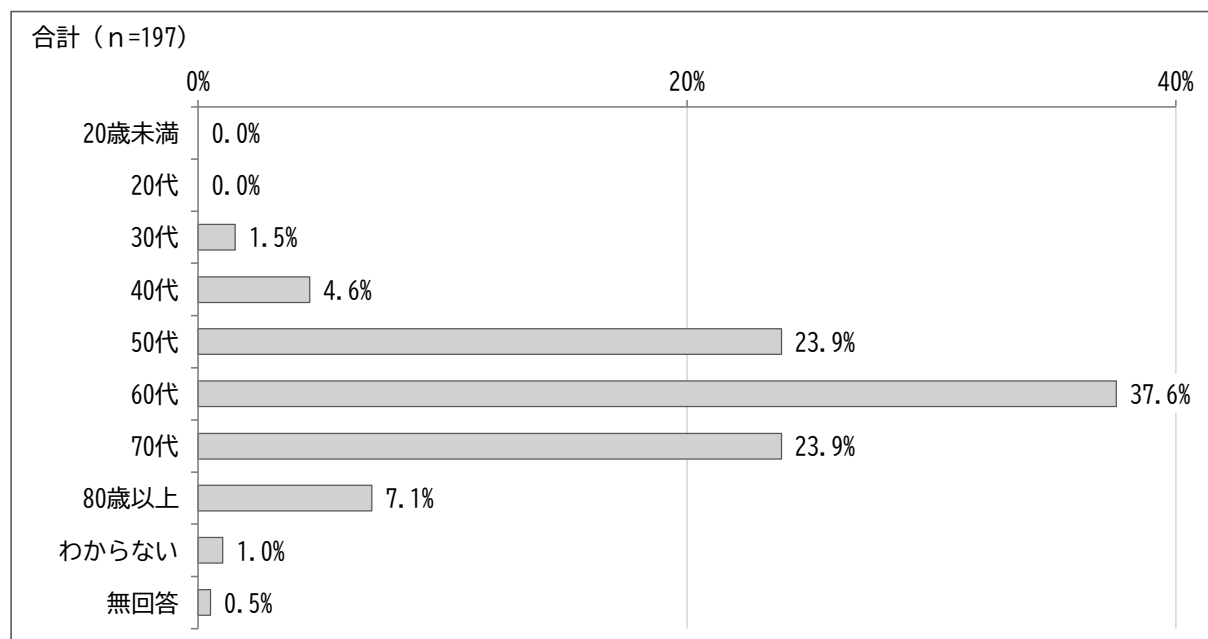
(5) 主な介護者の年齢

「60代」が37.6%と最も割合が高くなっています。次いで、「50代」・「70代」が23.9%、「80歳以上」が7.1%となっています。

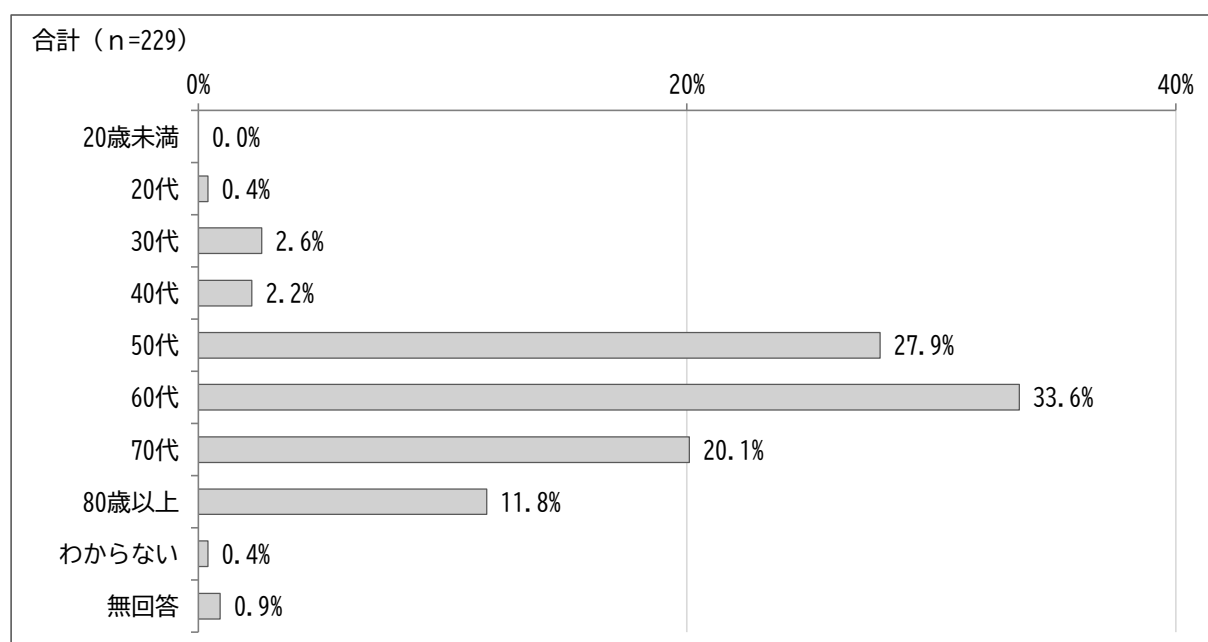
令和5年度調査と比較すると、「50代」が4.0ポイント、「80歳以上」が4.7ポイント減少し、「70代」が3.8ポイント増加しています。

図表 1-5 主な介護者の年齢（単数回答）

【令和8年度調査】



【令和5年度調査】



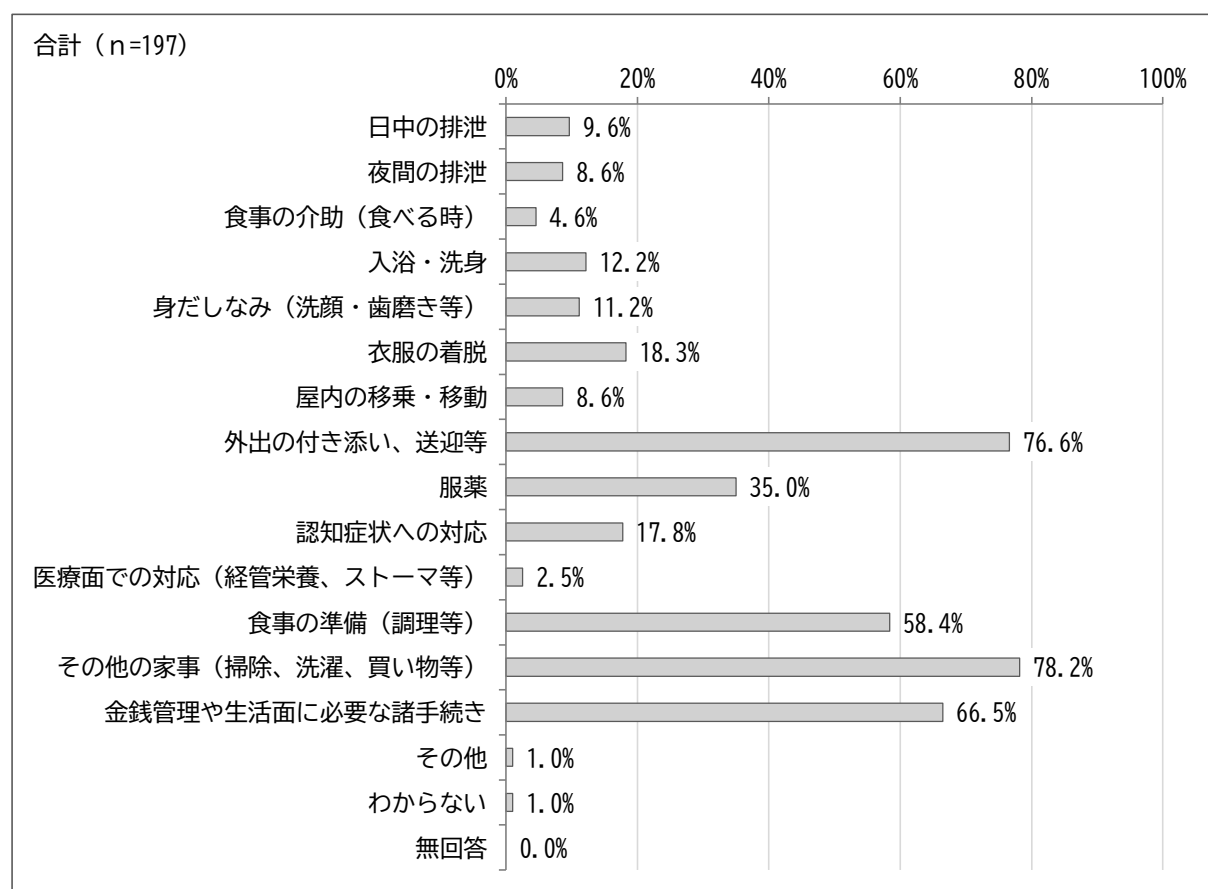
(6) 主な介護者が行っている介護

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が78.2%と最も割合が高くなっています。次いで、「外出の付き添い、送迎等」が76.6%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が66.5%となっています。

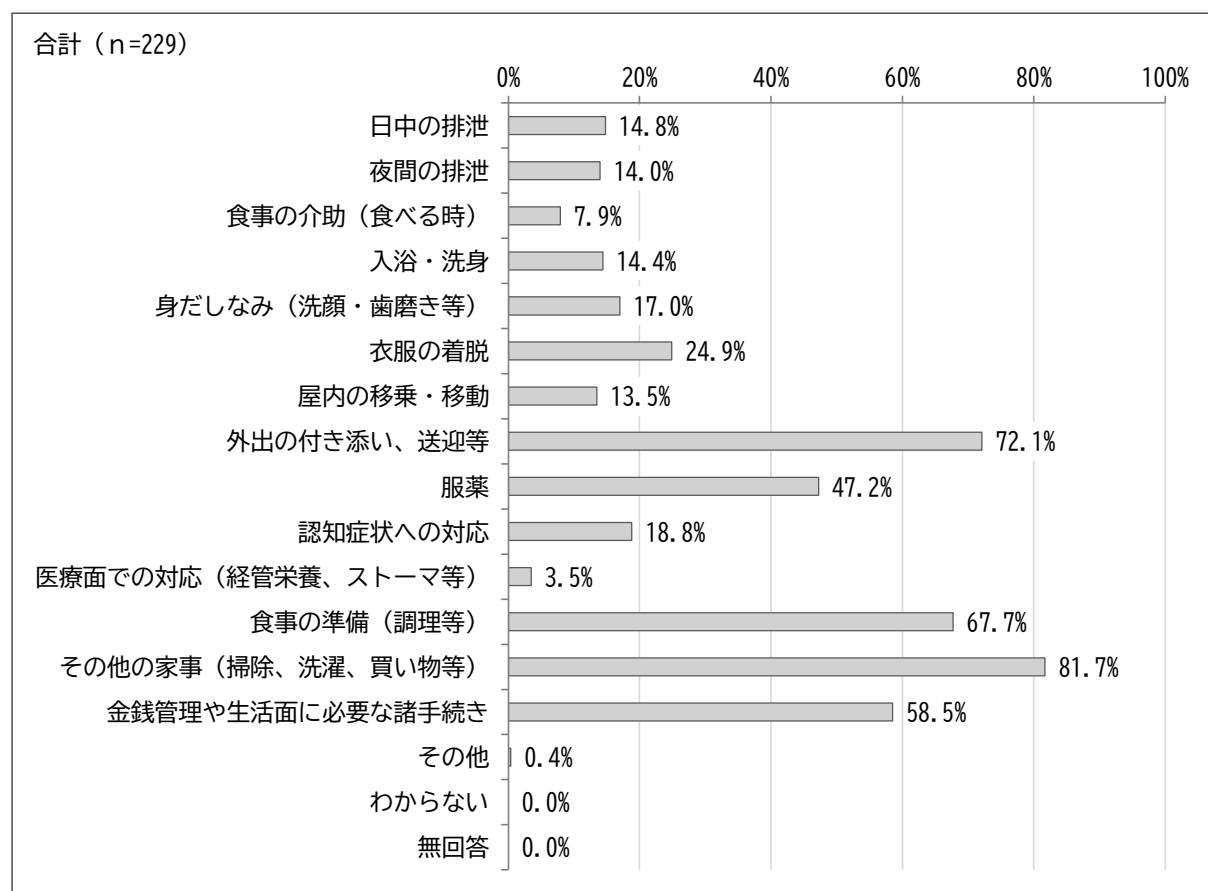
令和5年度調査と比較すると、「服薬」が12.2ポイント、「食事の準備（調理等）」が9.3ポイント減少し、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が8.0ポイント増加しています。

図表 1-6 主な介護者が行っている介護（複数回答）

【令和8年度調査】



【令和5年度調査】



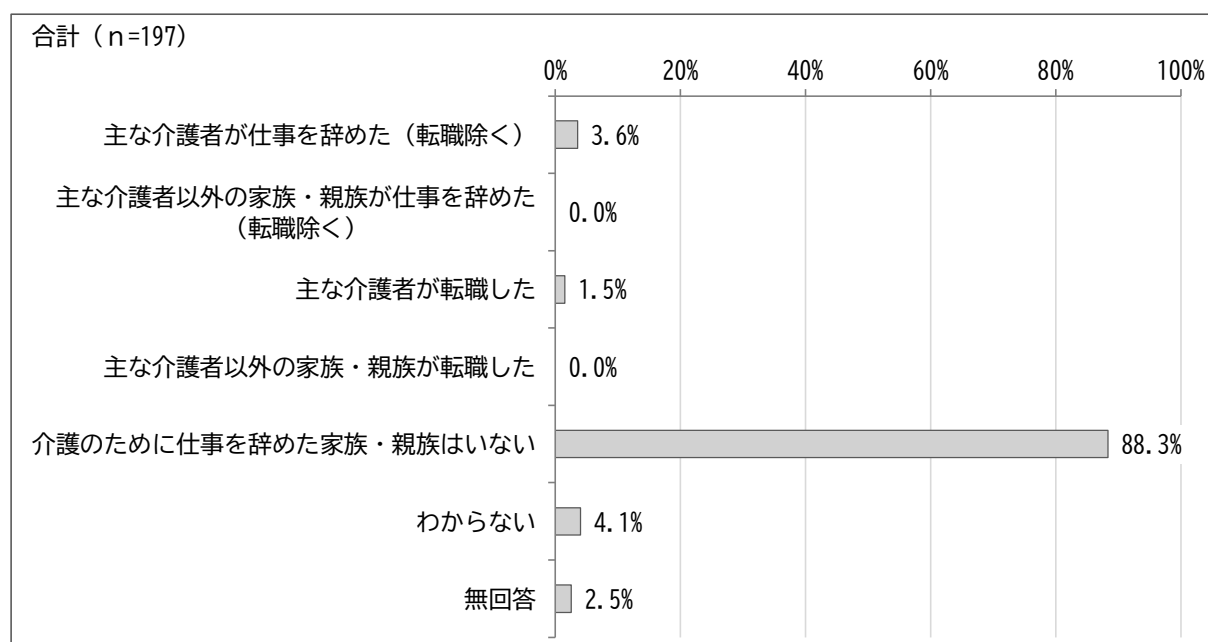
(7) 介護のための離職の有無

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が88.3%と最も割合が高くなっています。次いで、「わからない」が4.1%、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が3.6%となっています。

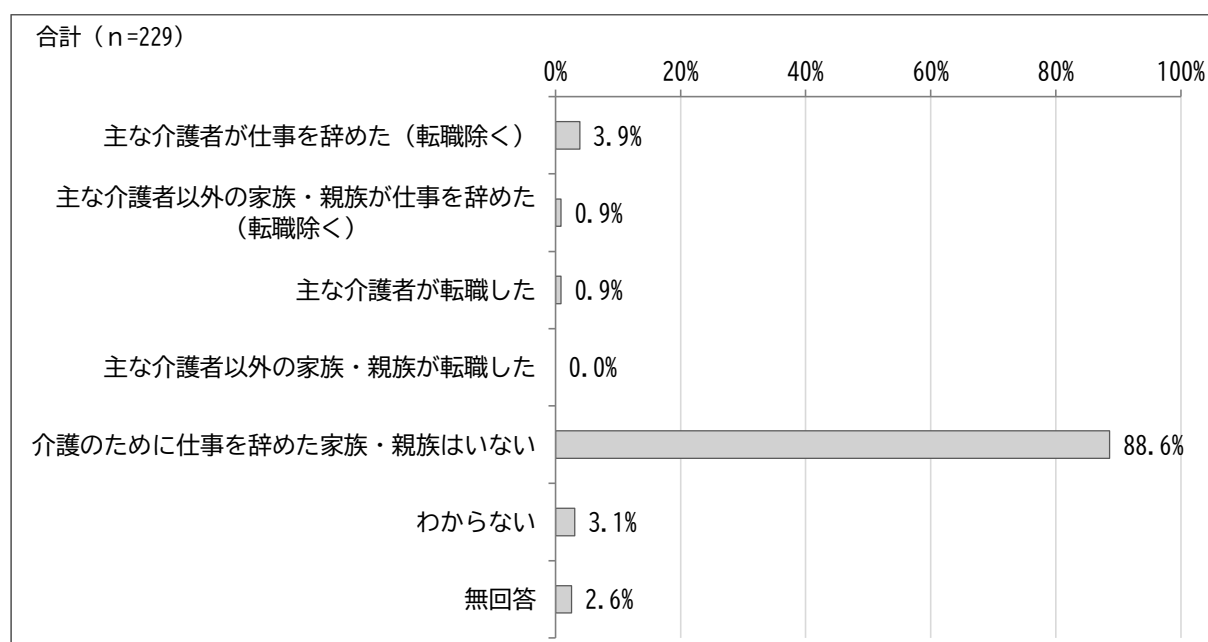
令和5年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表 1-7 介護のための離職の有無（複数回答）

【令和8年度調査】



【令和5年度調査】



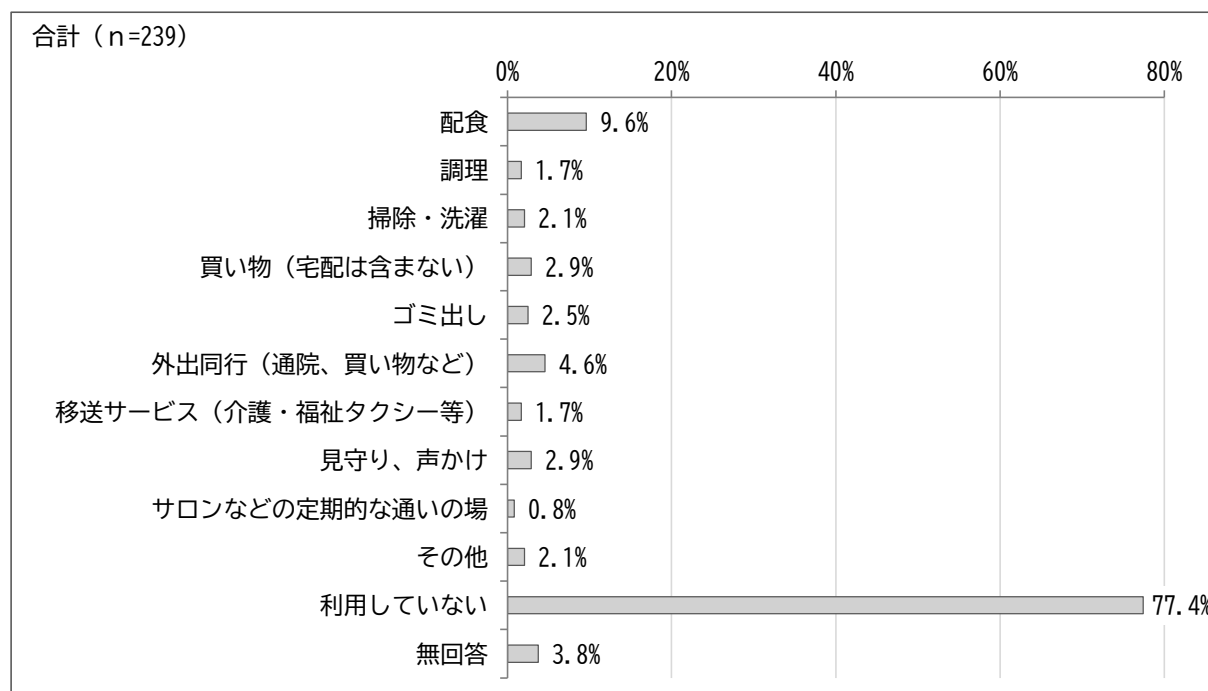
(8) 保険外の支援・サービスの利用状況

「利用していない」が77.4%と最も割合が高くなっています。次いで、「配食」が9.6%、「外出同行（通院、買い物など）」が4.6%となっています。

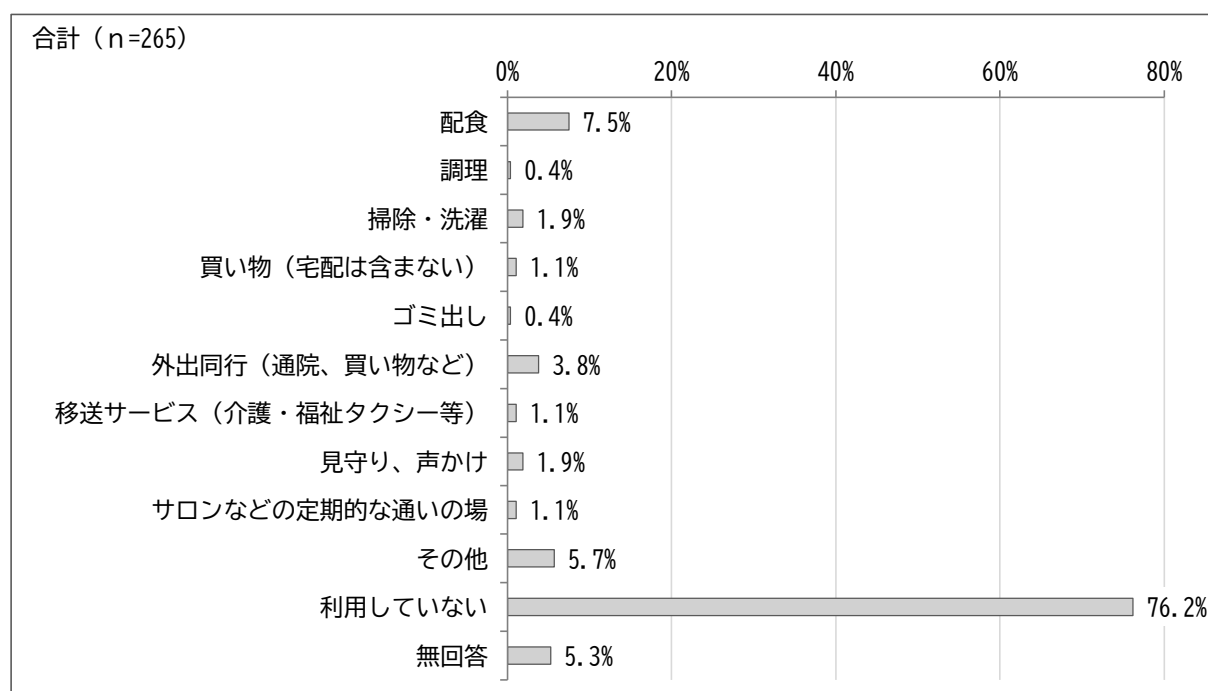
令和5年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表 1-8 保険外の支援・サービスの利用状況（複数回答）

【令和8年度調査】



【令和5年度調査】



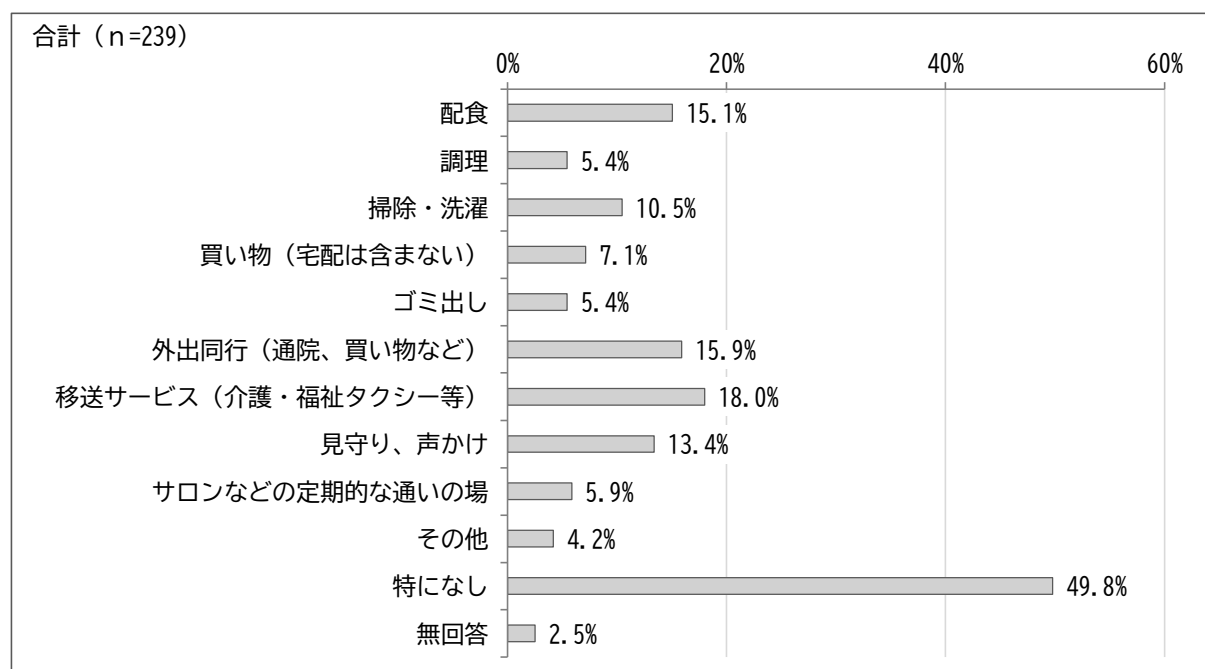
(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

「特になし」が49.8%と最も割合が高くなっています。次いで、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が18.0%、「外出同行（通院、買い物など）」が15.9%となっています。

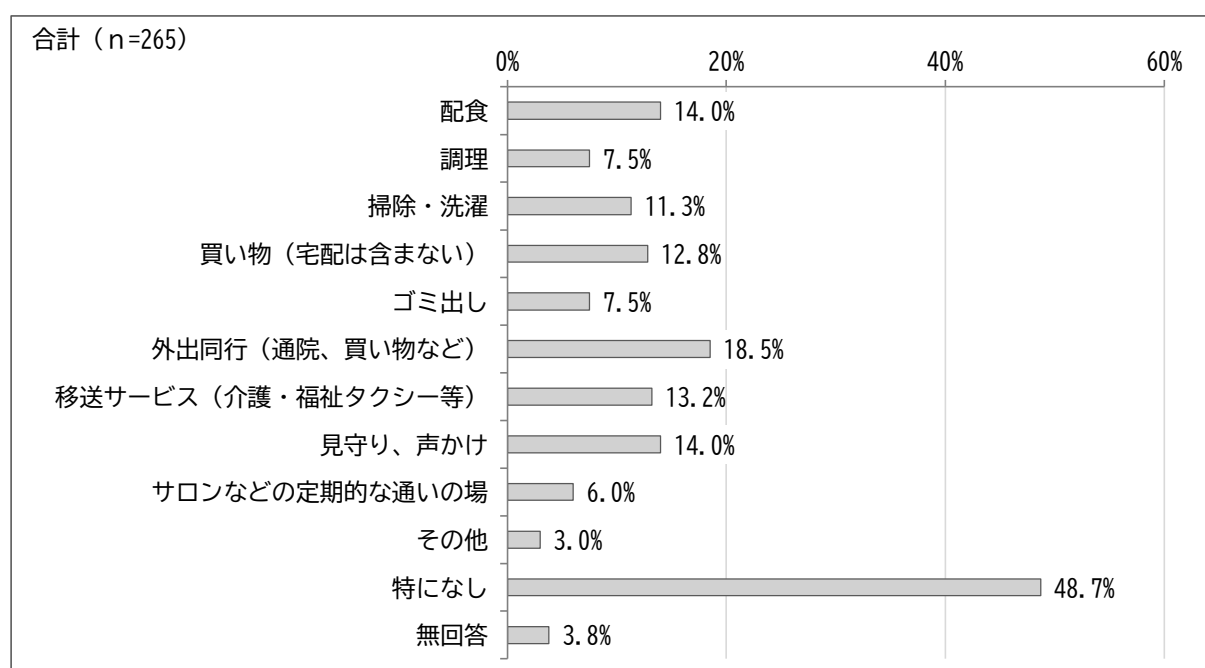
令和5年度調査と比較すると、「外出同行（通院、買い物など）」が2.6ポイント減少し、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が4.8ポイント増加しています。

図表 1-9 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス（複数回答）

【令和8年度調査】



【令和5年度調査】



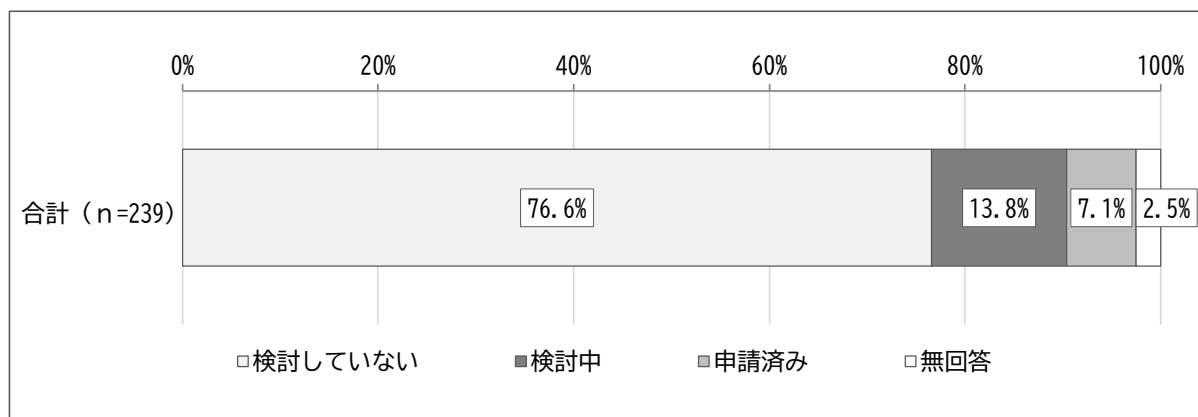
(10) 施設等検討の状況

「検討していない」が76.6%と最も割合が高くなっています。次いで、「検討中」が13.8%、「申請済み」が7.1%となっています。

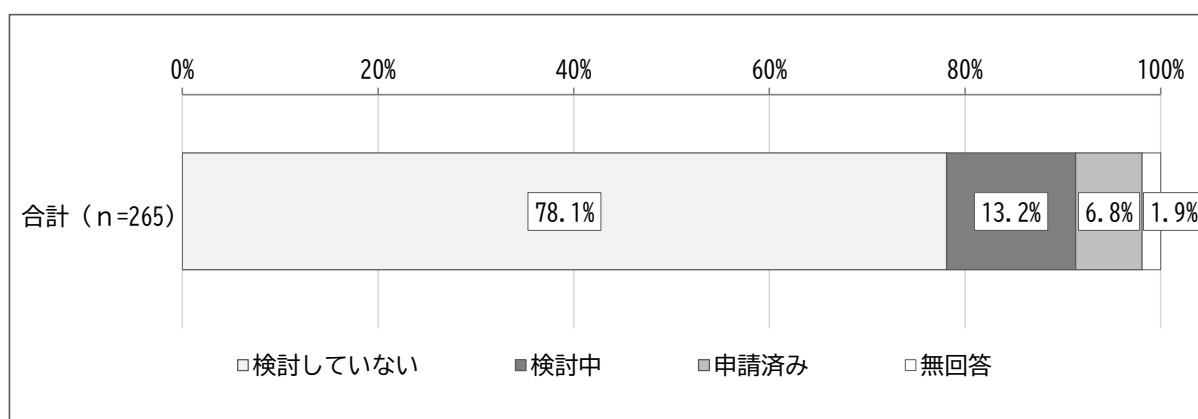
令和5年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表 1-10 施設等検討の状況（単数回答）

【令和8年度調査】



【令和5年度調査】



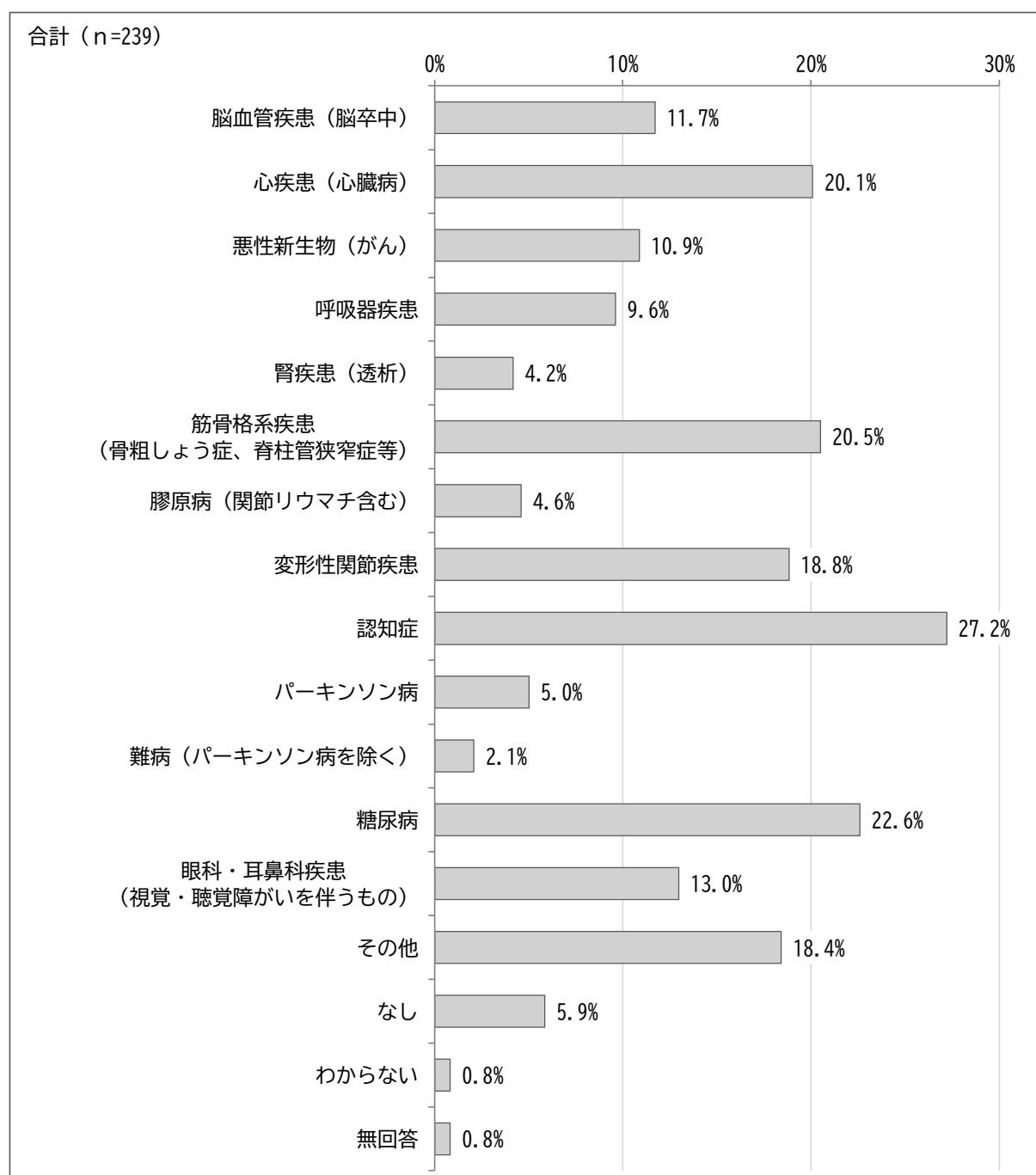
(11) 本人が抱えている傷病

「認知症」が27.2%と最も割合が高くなっています。次いで、「糖尿病」が22.6%、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が20.5%となっています。

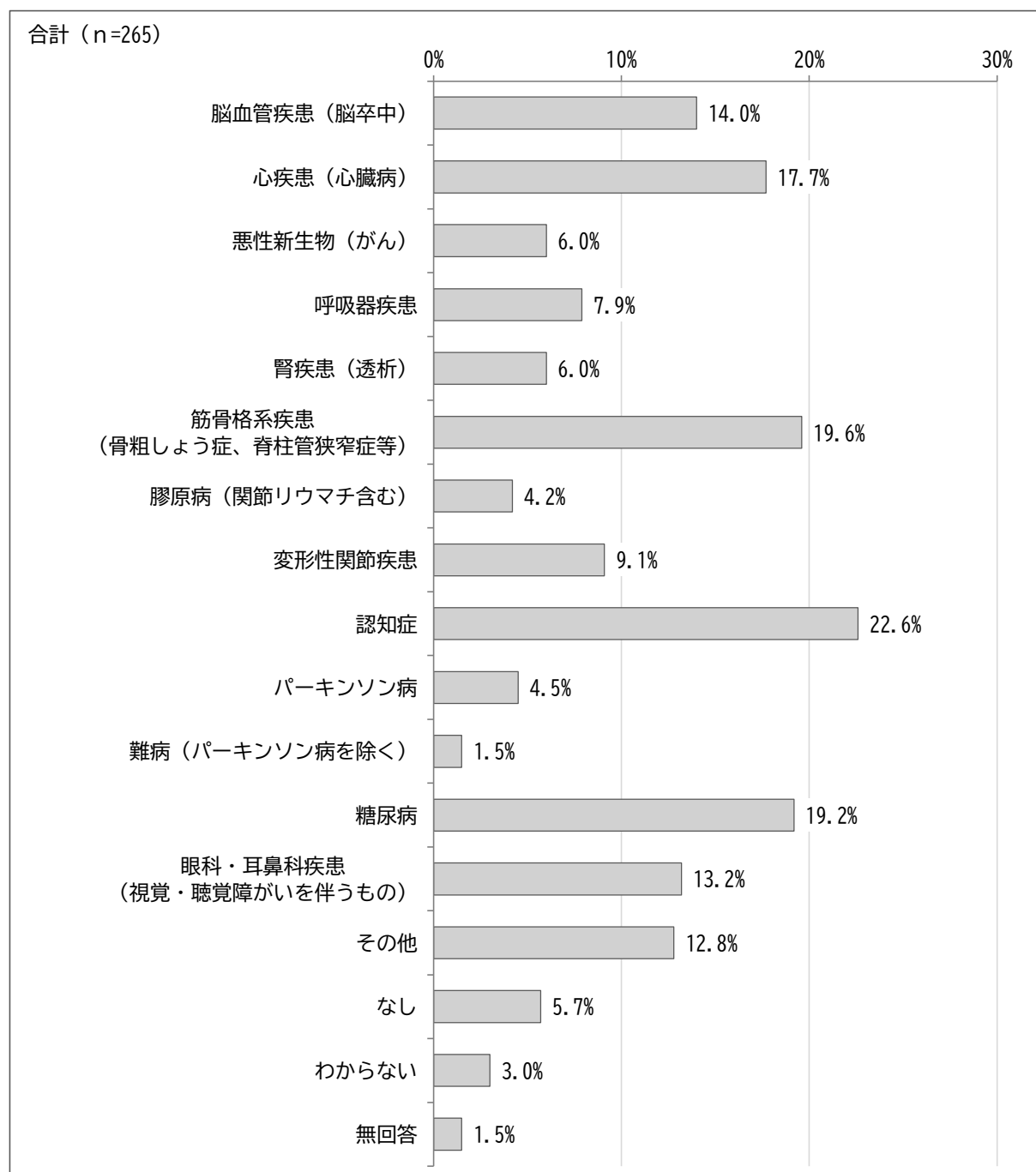
令和5年度調査と比較すると、「悪性新生物（がん）」が4.9ポイント、「変形性関節疾患」が9.7ポイント、「認知症」が4.6ポイント、「糖尿病」が3.4ポイント増加しています。

図表 1-11 本人が抱えている傷病（複数回答）

【令和8年度調査】



【令和5年度調査】



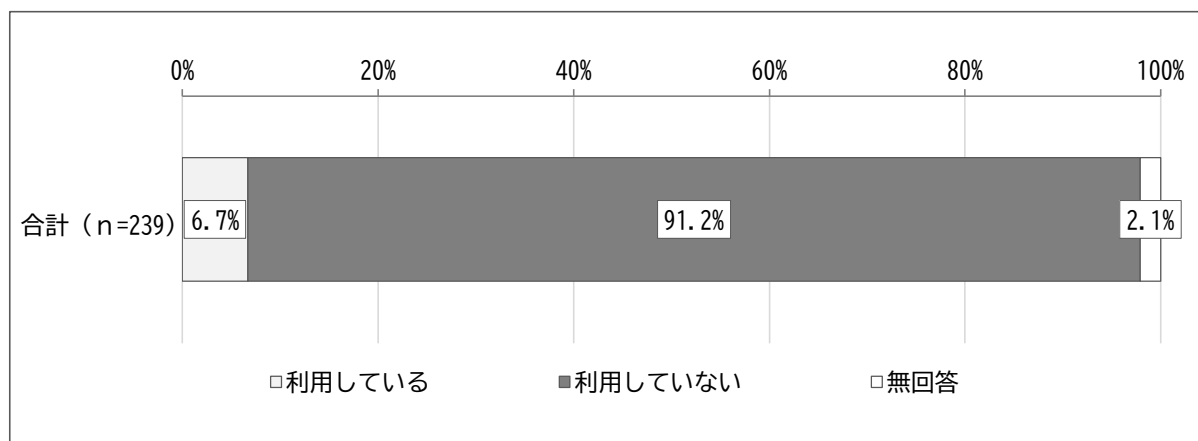
(12) 訪問診療の利用の有無

「利用していない」が91.2%と最も割合が高くなっています。次いで、「利用している」が6.7%となっています。

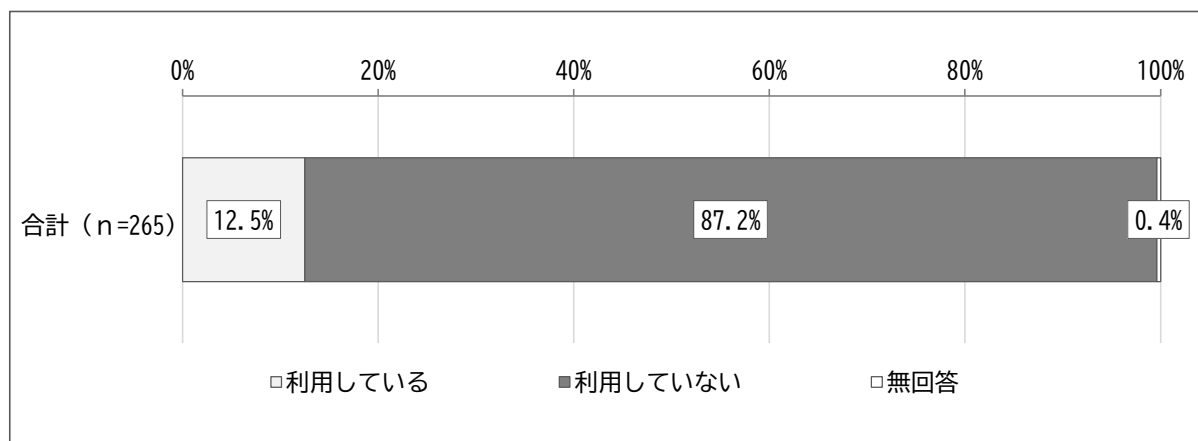
令和5年度調査と比較すると、「利用している」が5.8ポイント減少し、「利用していない」が4.0ポイント増加しています。

図表 1-12 訪問診療の利用の有無（単数回答）

【令和8年度調査】



【令和5年度調査】



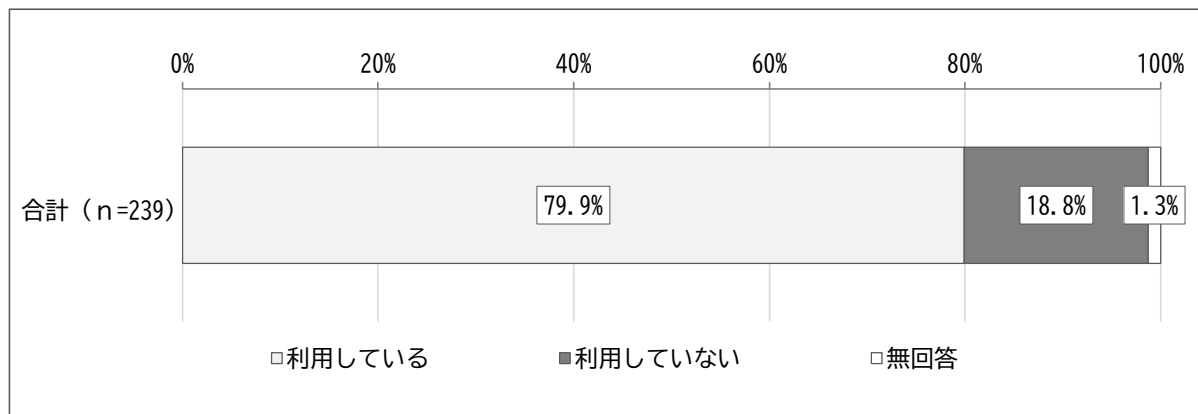
(13) 介護保険サービスの利用の有無

「利用している」が79.9%と最も割合が高くなっています。次いで、「利用していない」が18.8%となっています。

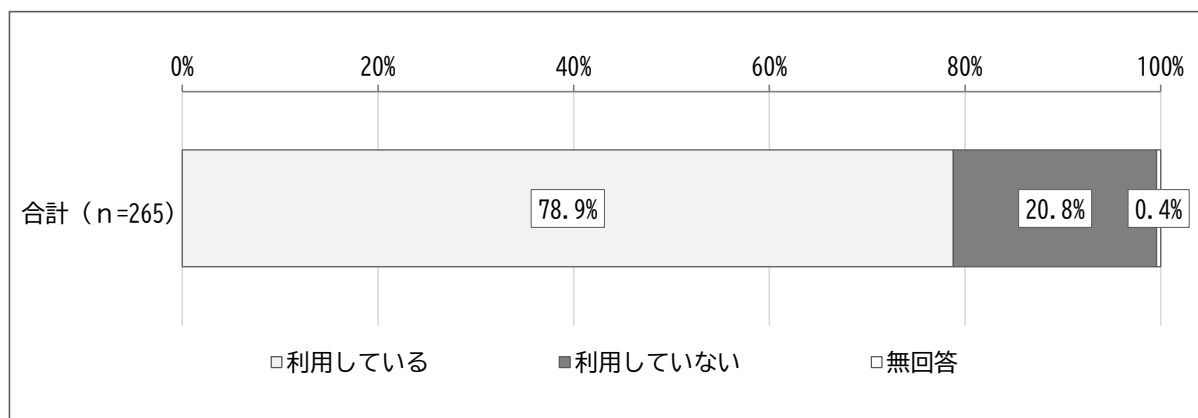
令和5年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表 1-13 介護保険サービスの利用の有無（単数回答）

【令和8年度調査】



【令和5年度調査】



(14) 介護保険サービス未利用の理由

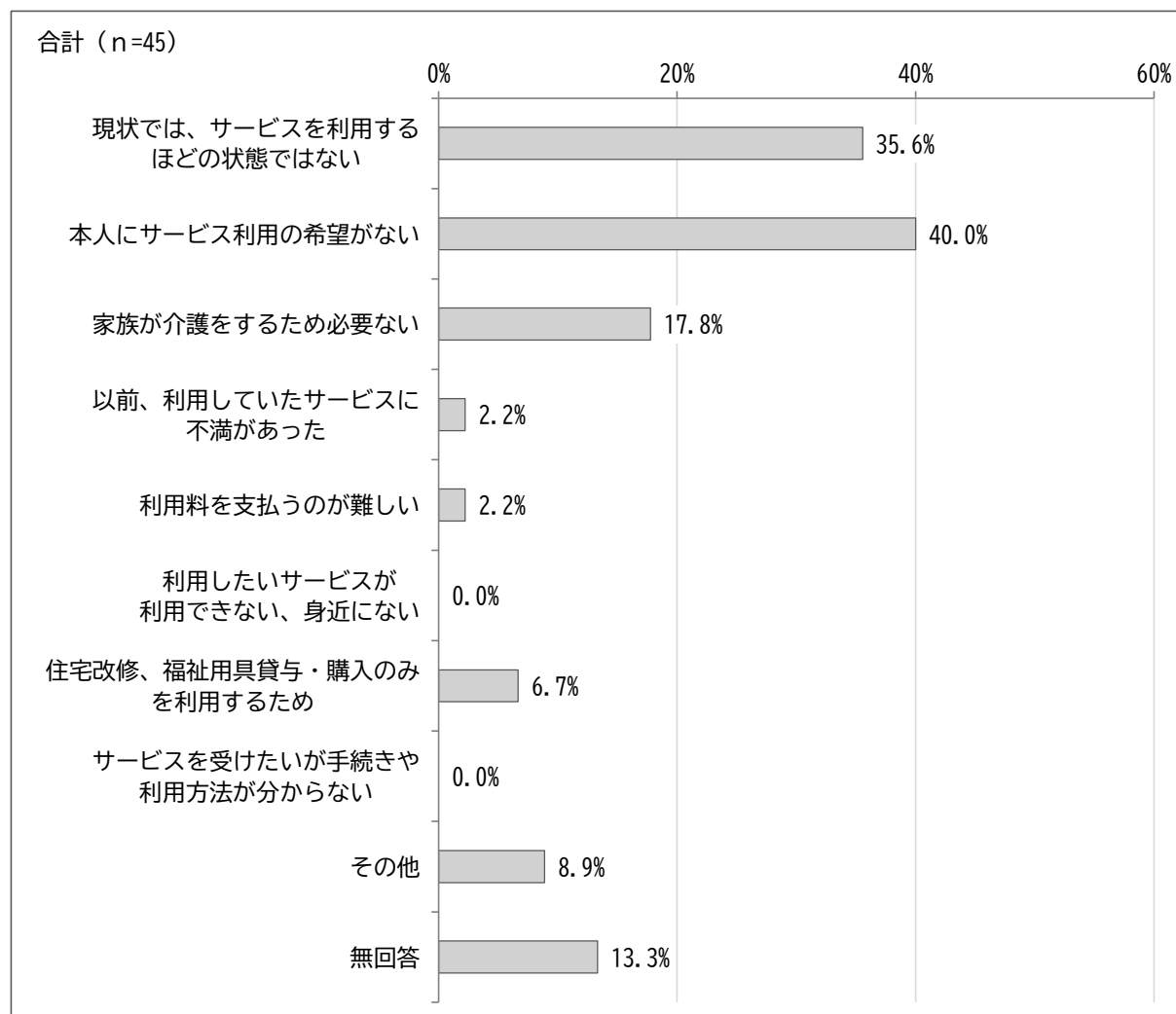
「本人にサービス利用の希望がない」が 40.0%と最も割合が高くなっています。次いで、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 35.6%、「家族が介護をするため必要ない」が 17.8%となっています。

令和5年度調査と比較すると、「本人にサービス利用の希望がない」が 7.3 ポイント、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が 5.5 ポイント減少しています。

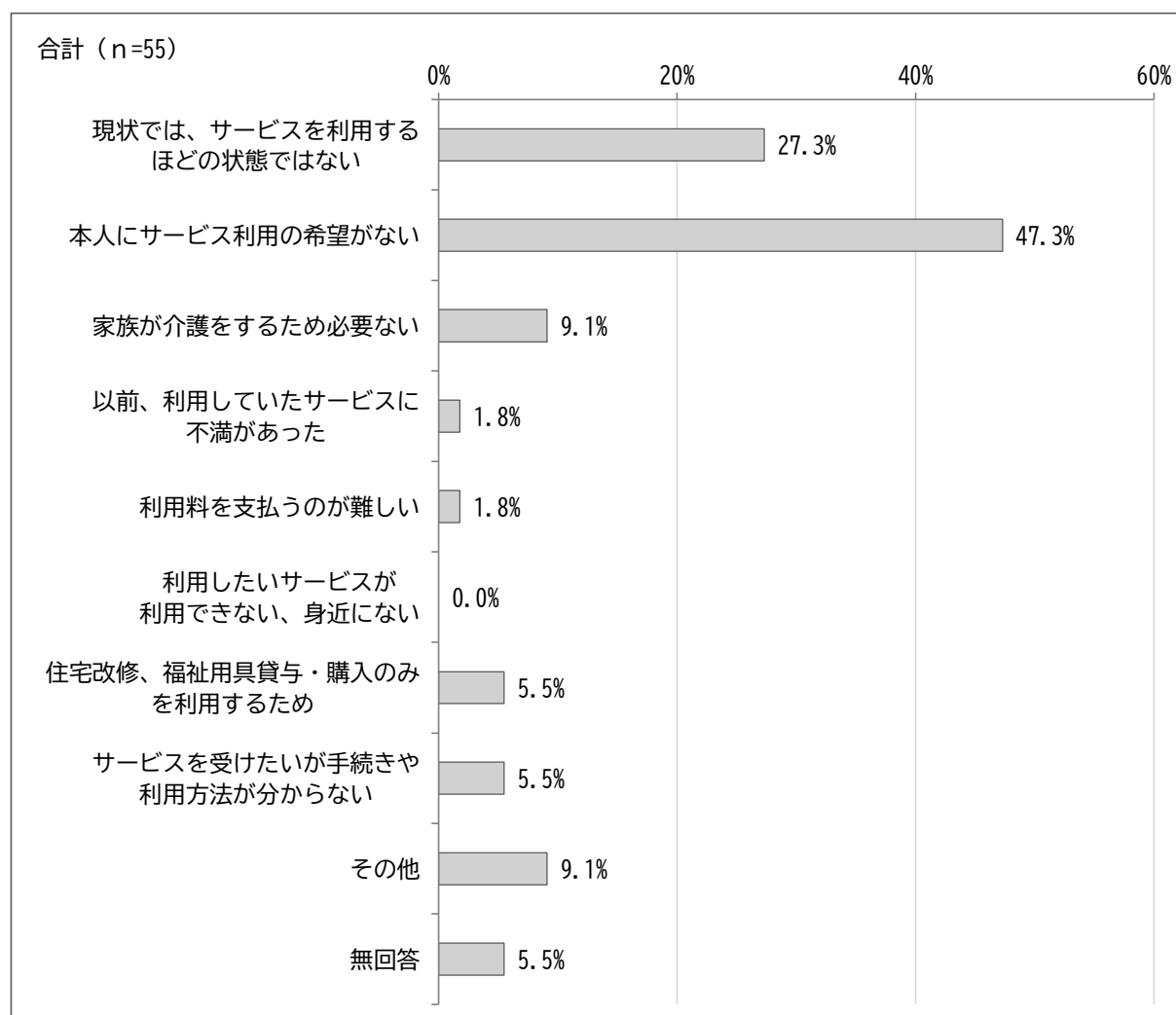
一方、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 8.3 ポイント、「家族が介護するため必要ない」が 8.7 ポイント増加しています。

図表 1-14 介護保険サービスの未利用の理由（複数回答）

【令和8年度調査】



【令和5年度調査】



2 主な介護者様用の調査項目（B票）

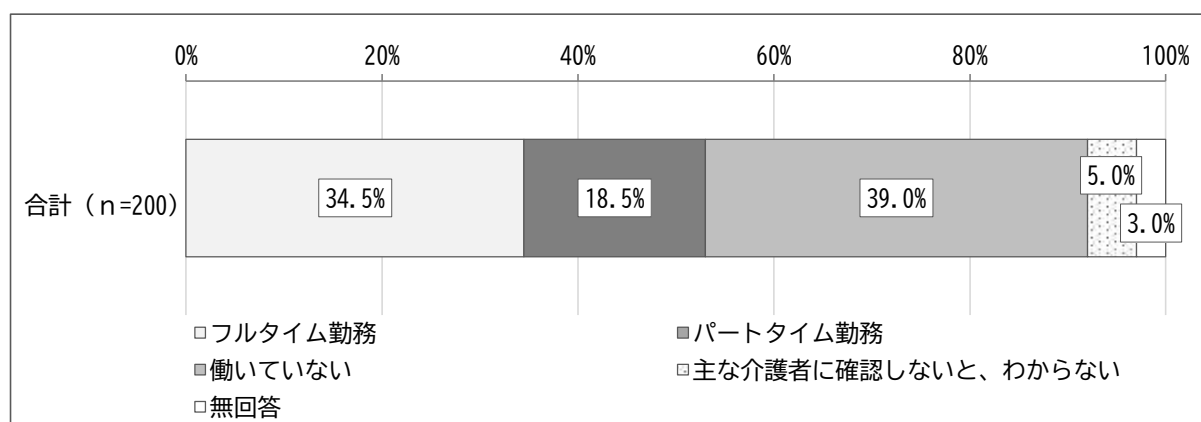
（I） 主な介護者の勤務形態

「働いていない」が39.0%と最も割合が高くなっています。次いで、「フルタイム勤務」が34.5%、「パートタイム勤務」が18.5%となっています。

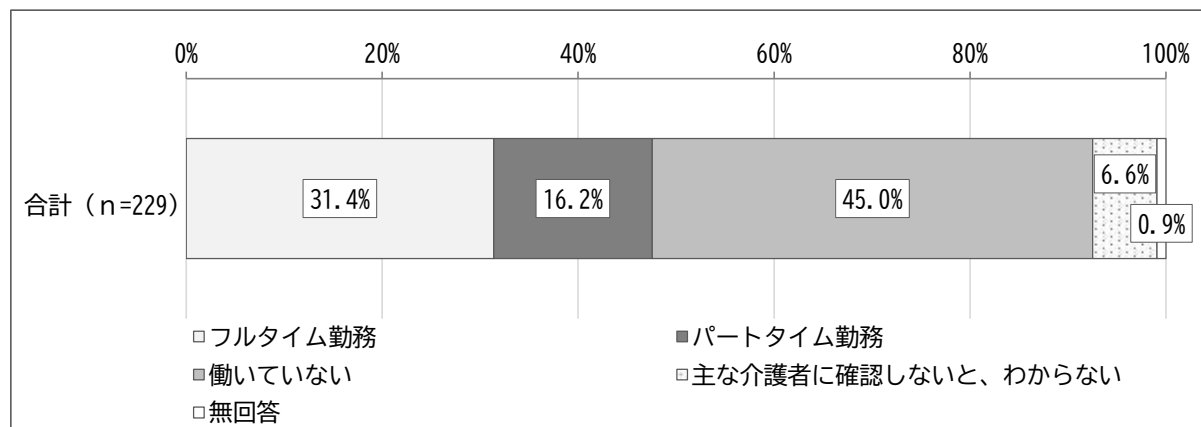
令和5年度調査と比較すると、「働いていない」が6.0ポイント減少し、「フルタイム勤務」が3.1ポイント、「パートタイム勤務」が2.3ポイント増加しています。

図表 2-1 主な介護者の勤務形態（単数回答）

【令和8年度調査】



【令和5年度調査】



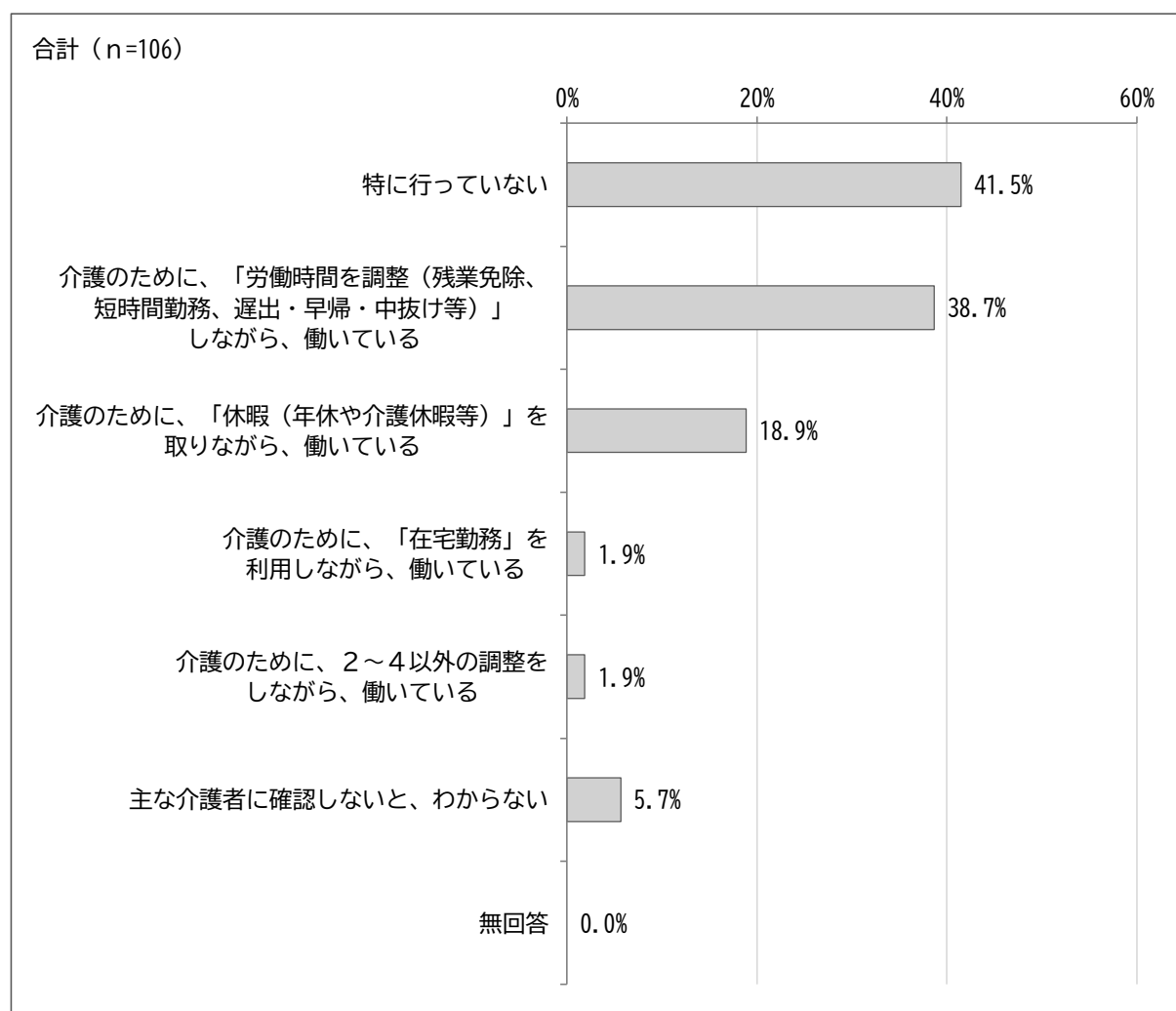
(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況

「特に行っていない」が41.5%と最も割合が高くなっています。次いで、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が38.7%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が18.9%となっています。

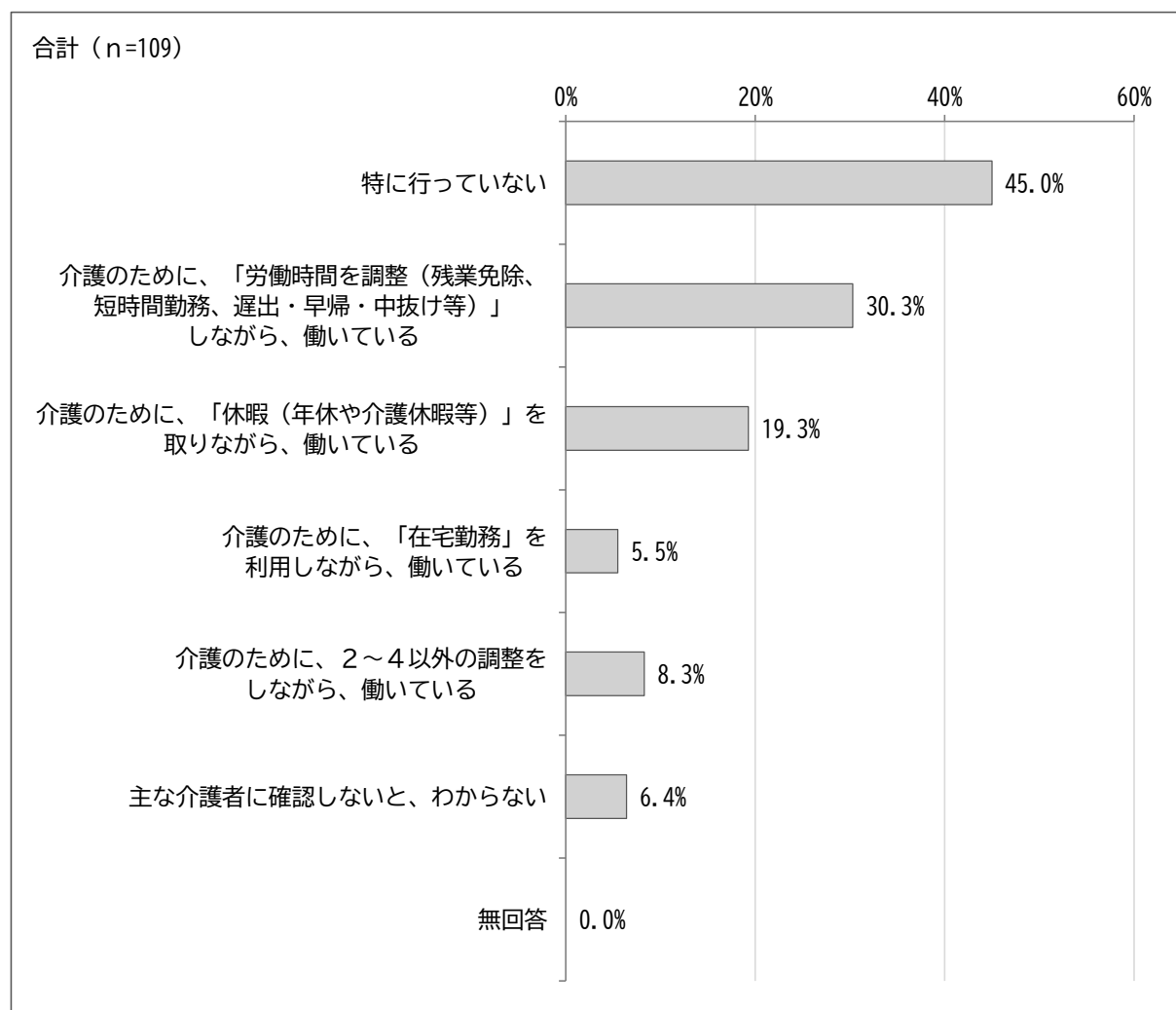
令和5年度調査と比較すると、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が8.4ポイント増加し、「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」が6.4ポイント減少しています。

図表 2-2 主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）

【令和8年度調査】



【令和5年度調査】



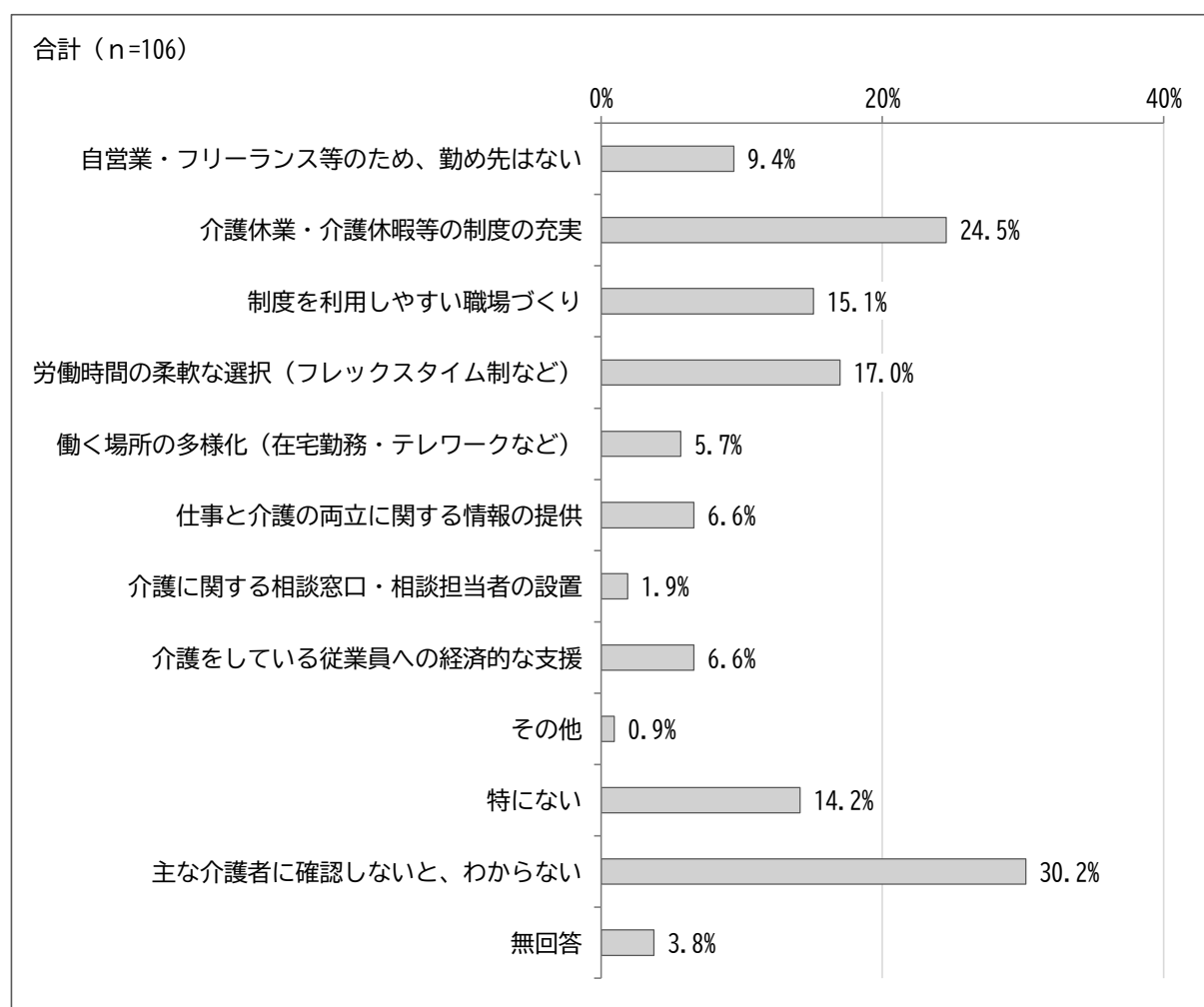
(3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

「主な介護者に確認しないと、わからない」が30.2%と最も割合が高くなっています。次いで、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が24.5%、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が17.0%となっています。

令和5年度調査と比較すると、「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」が5.3ポイント減少し、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が9.8ポイント増加しています。

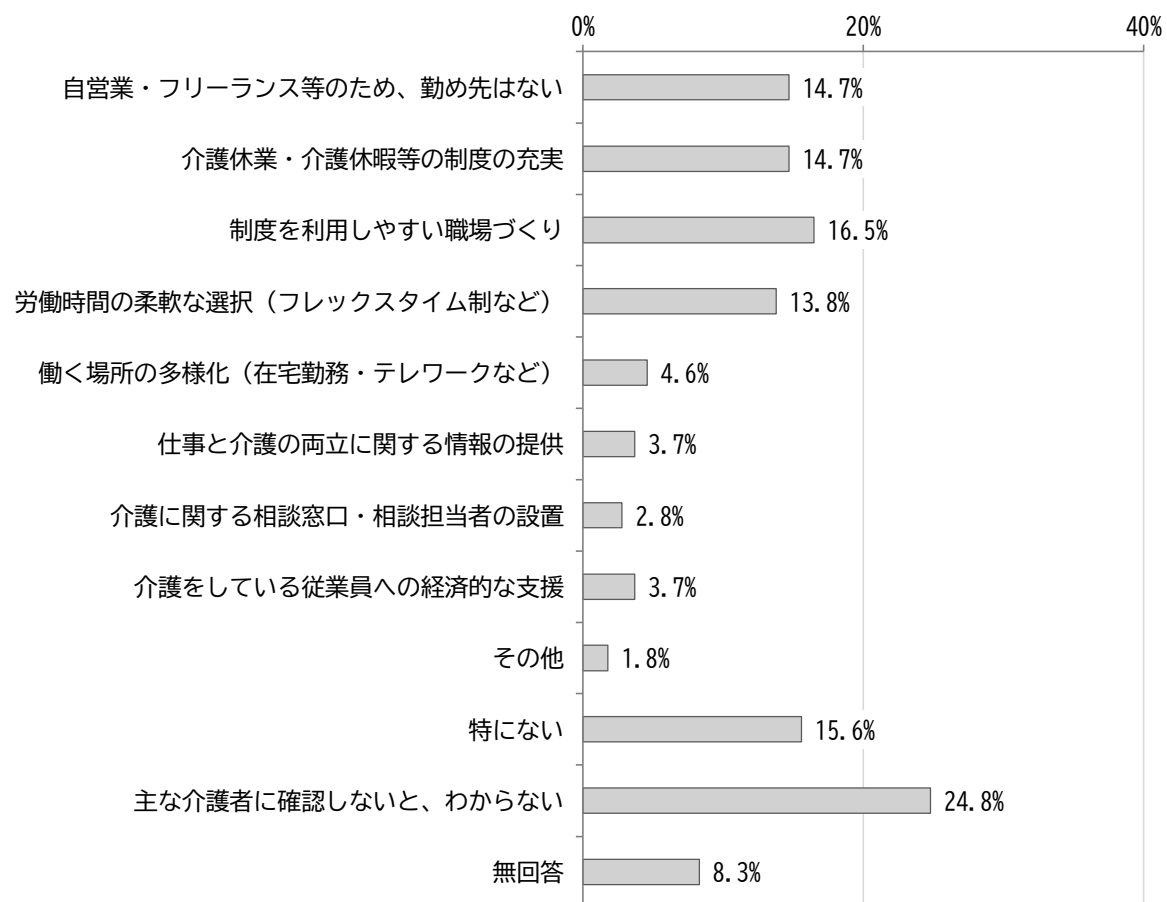
図表 2-3 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援（複数回答）

【令和8年度調査】



【令和5年度調査】

合計（n=109）



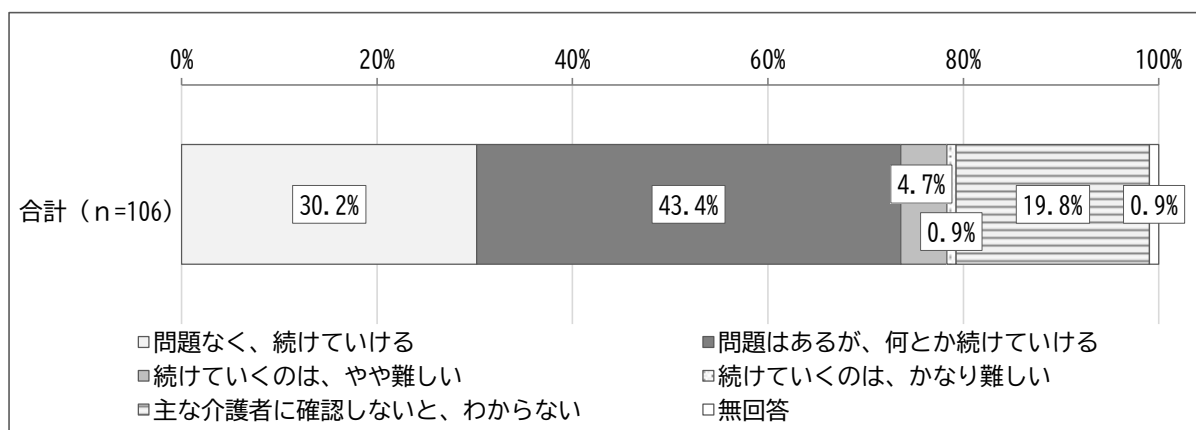
(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

「問題はあるが、何とか続けていける」が43.4%と最も割合が高くなっています。次いで、「問題なく、続けていける」が30.2%、「主な介護者に確認しないと、わからない」が19.8%となっています。

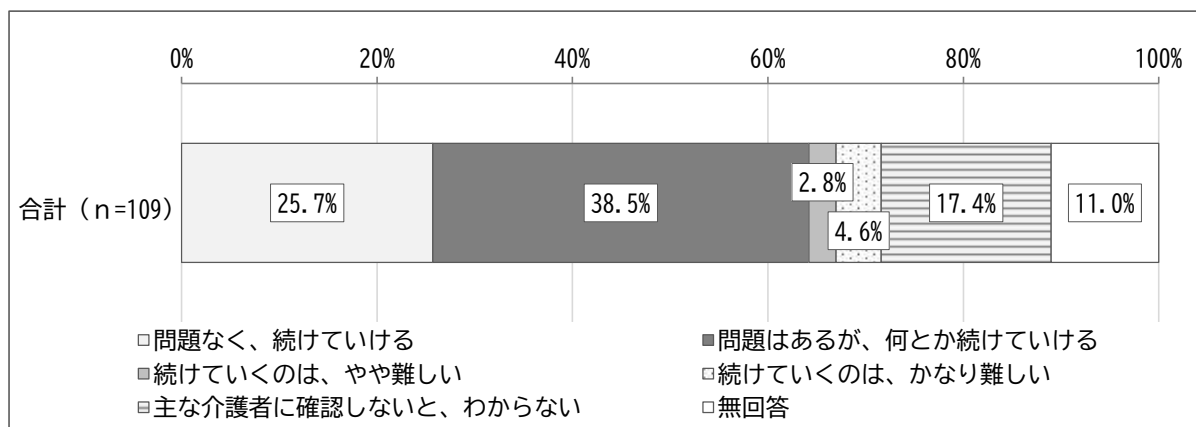
令和5年度調査と比較すると、「問題なく、続けていける」が4.5ポイント、「問題はあるが、何とか続けていける」が4.9ポイント増加し、「続けていくのは、かなり難しい」が3.7ポイント減少しています。

図表 2-4 主な介護者の就労継続の可否に係る意識（単数回答）

【令和8年度調査】



【令和5年度調査】



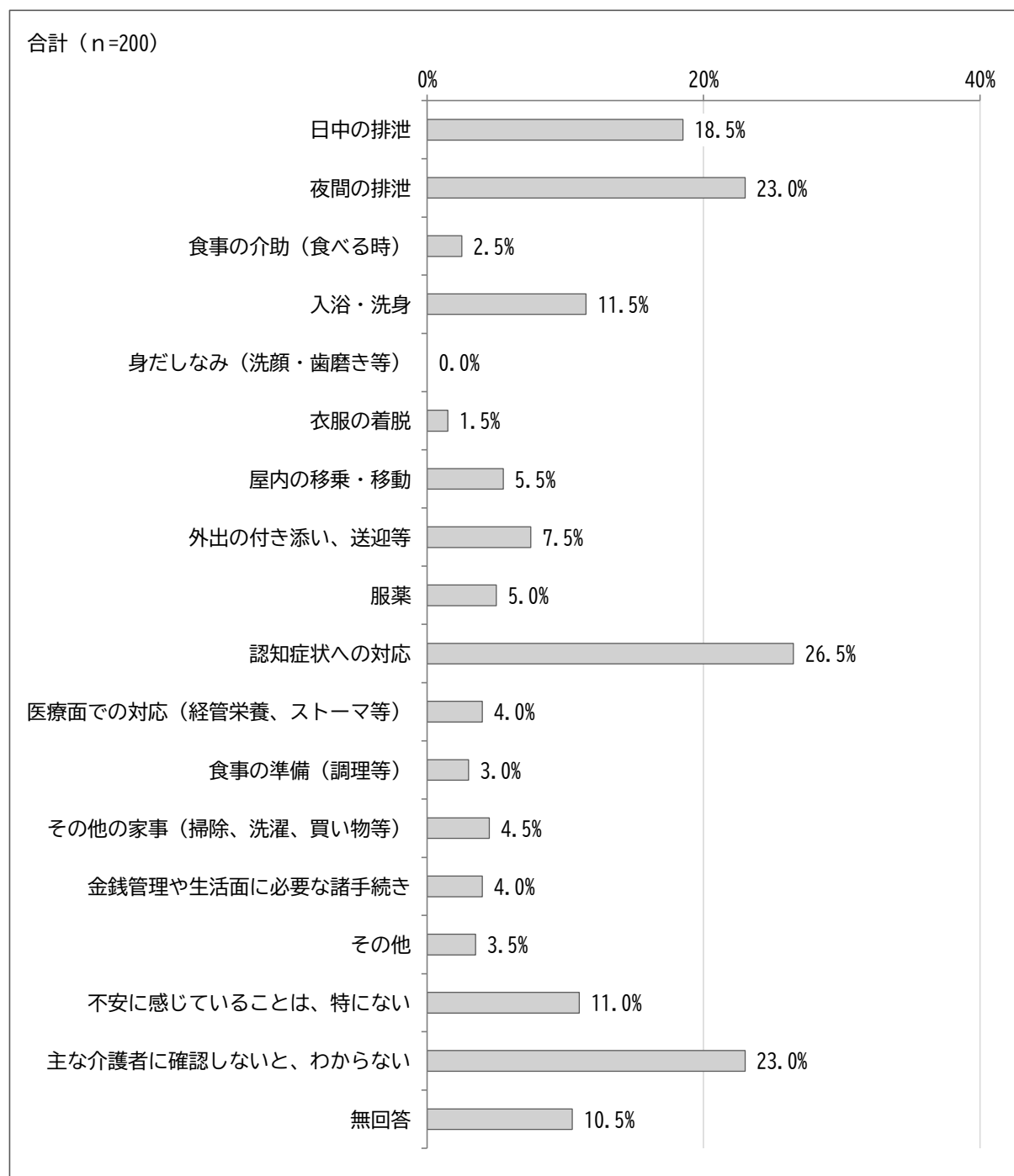
(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

「認知症状への対応」が26.5%と最も割合が高くなっています。次いで、「夜間の排泄」・「主な介護者に確認しないと、わからない」が23.0%、「日中の排泄」が18.5%となっています。

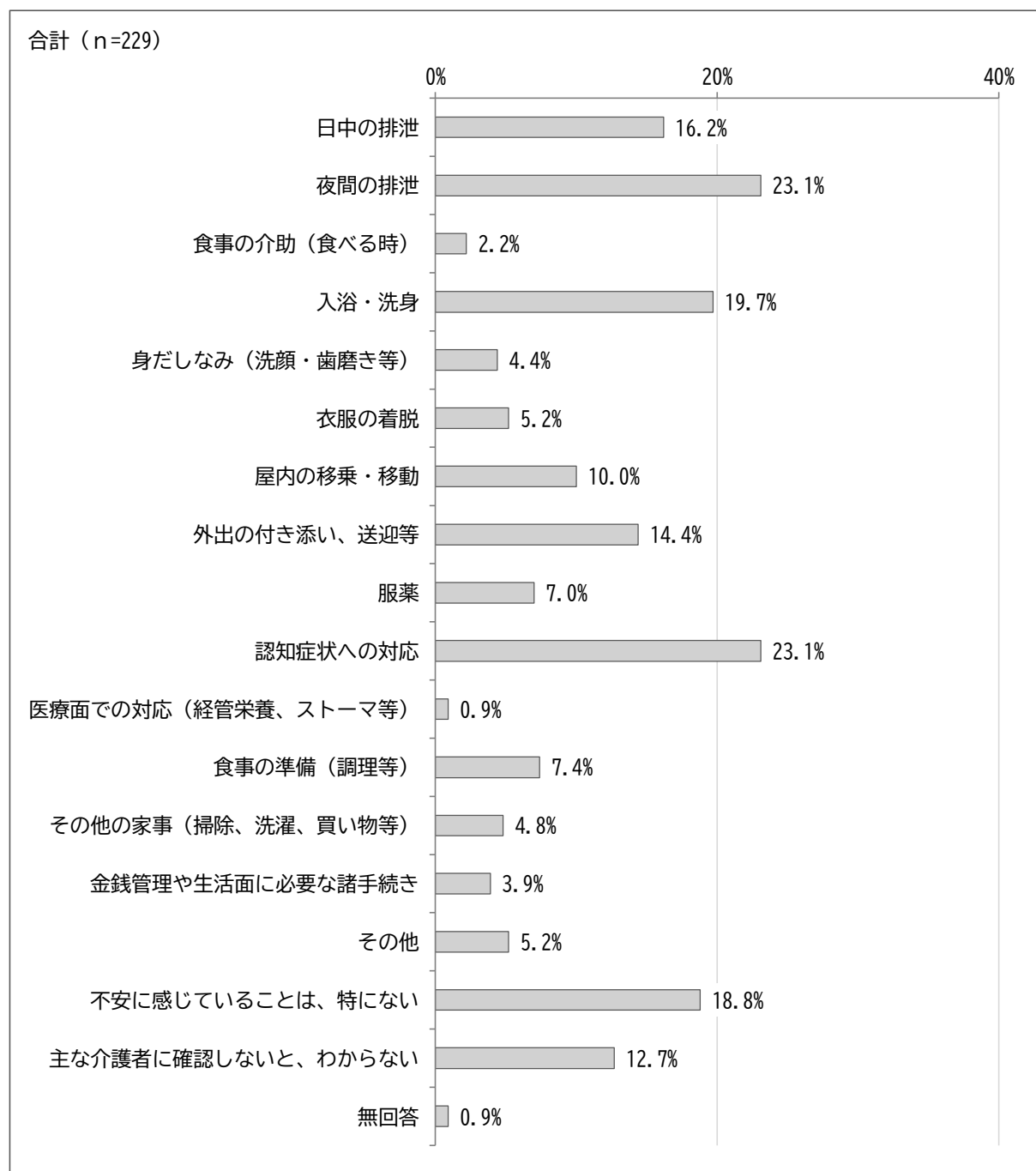
令和5年度調査と比較すると、「入浴・洗身」が8.2ポイント、「外出の付き添い、送迎等」が6.9ポイント、「不安に感じることは、特にない」が7.8ポイント減少しています。

図表 2-5 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）

【令和8年度調査】



【令和5年度調査】



3 要介護認定データ

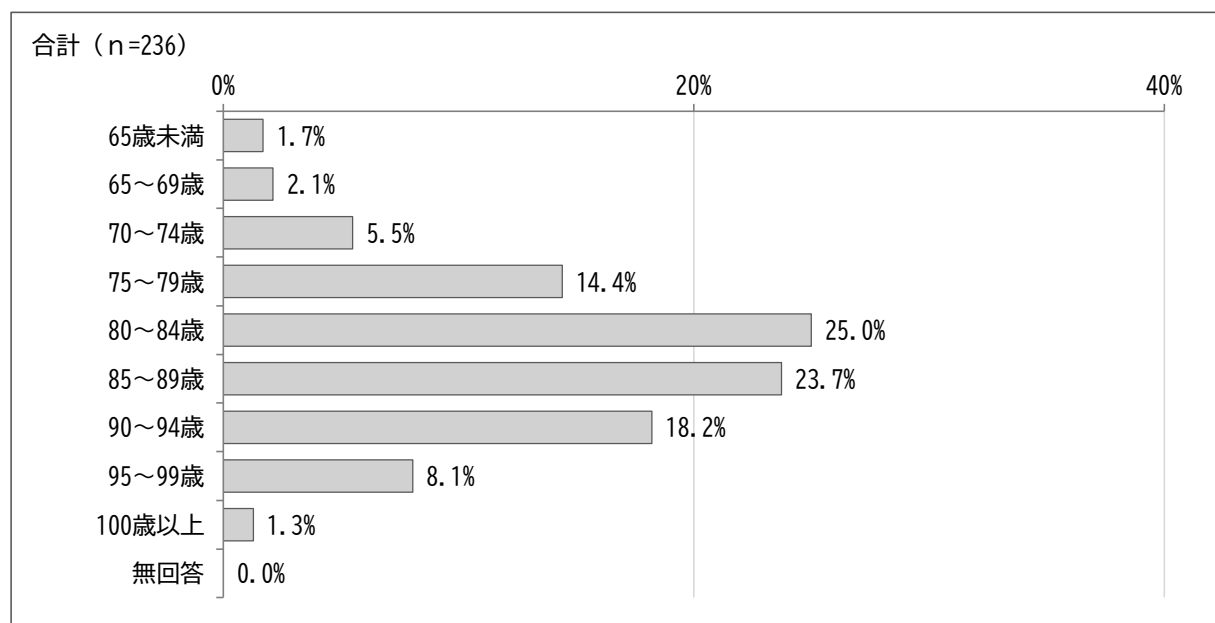
(1) 年齢

「80～84 歳」が 25.0%と最も割合が高くなっています。次いで、「85～89 歳」が 23.7%、「90～94 歳」が 18.2%となっています。

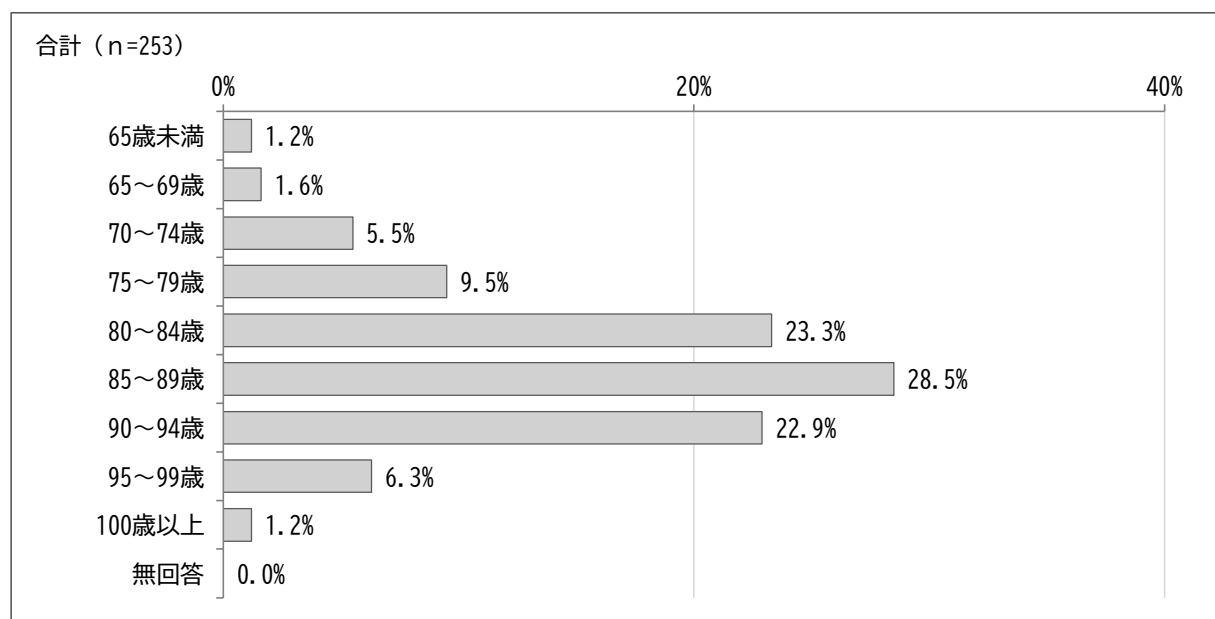
令和 5 年度調査と比較すると、「75～79 歳」が 4.9 ポイント増加し、「85～89 歳」が 4.8 ポイント、「90～94 歳」が 4.7 ポイント減少しています。

図表 3-1 年齢

【令和 8 年度調査】



【令和 5 年度調査】



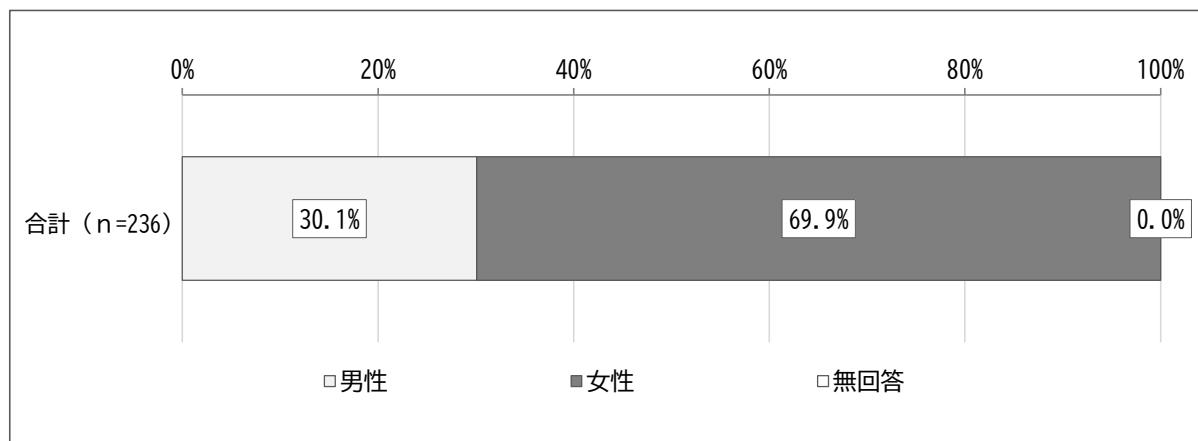
(2) 性別

「女性」が69.9%と最も割合が高くなっています。次いで、「男性」が30.1%となっています。

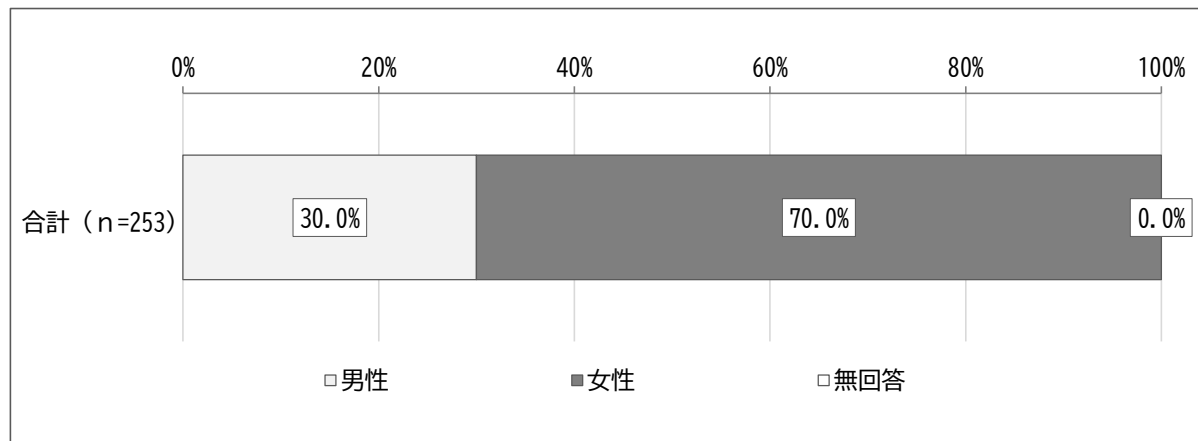
令和5年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表 3-2 性別

【令和8年度調査】



【令和5年度調査】



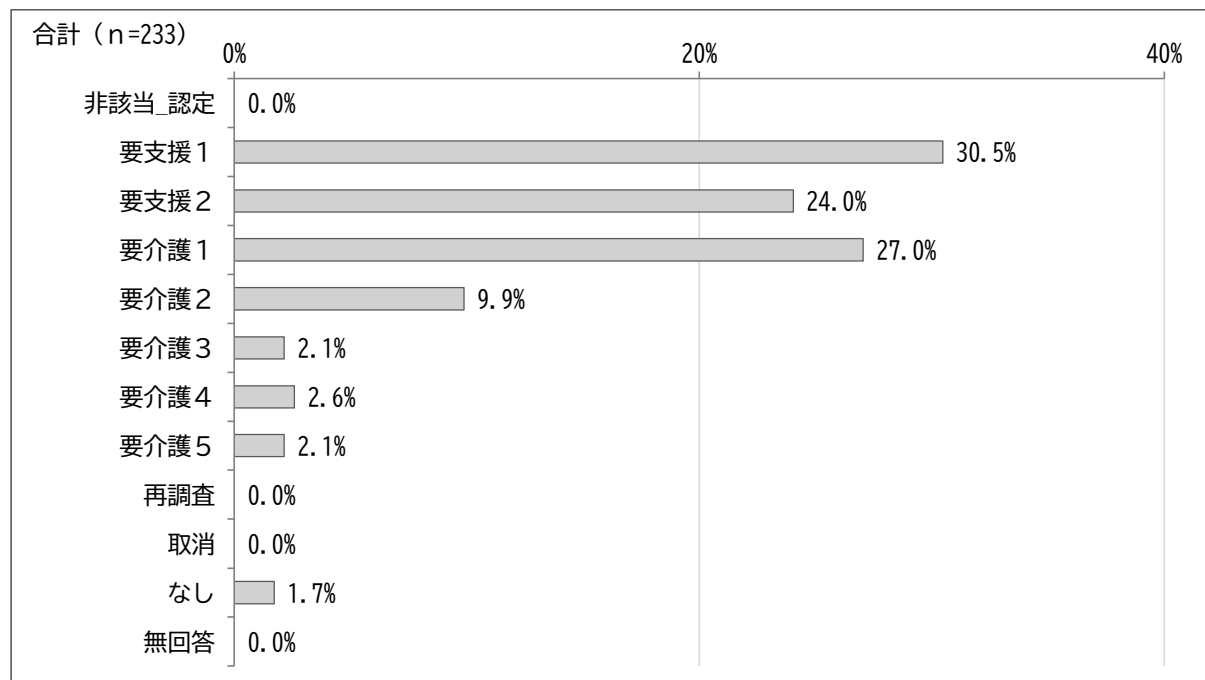
(3) 二次判定結果（要介護度）

「要支援1」が30.5%と最も割合が高くなっています。次いで、「要介護1」が27.0%、「要支援2」が24.0%となっています。

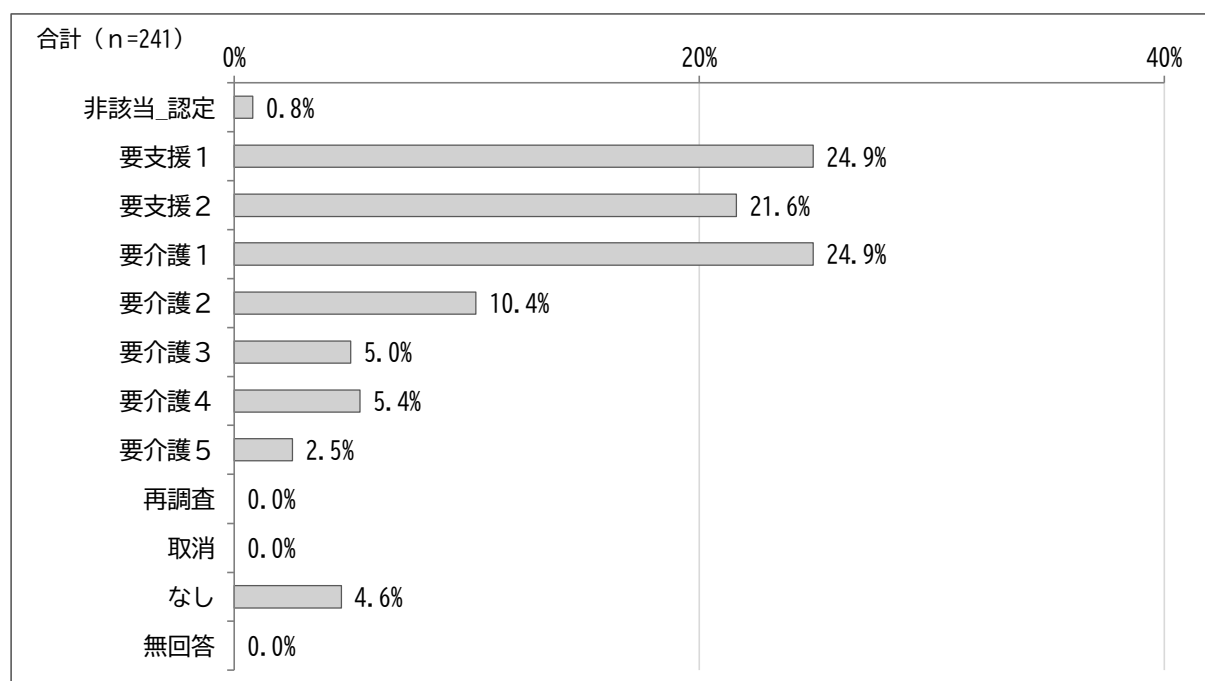
令和5年度調査と比較すると、「要支援1」が5.6ポイント増加しています。

図表 3-3 二次判定結果

【令和8年度調査】



【令和5年度調査】



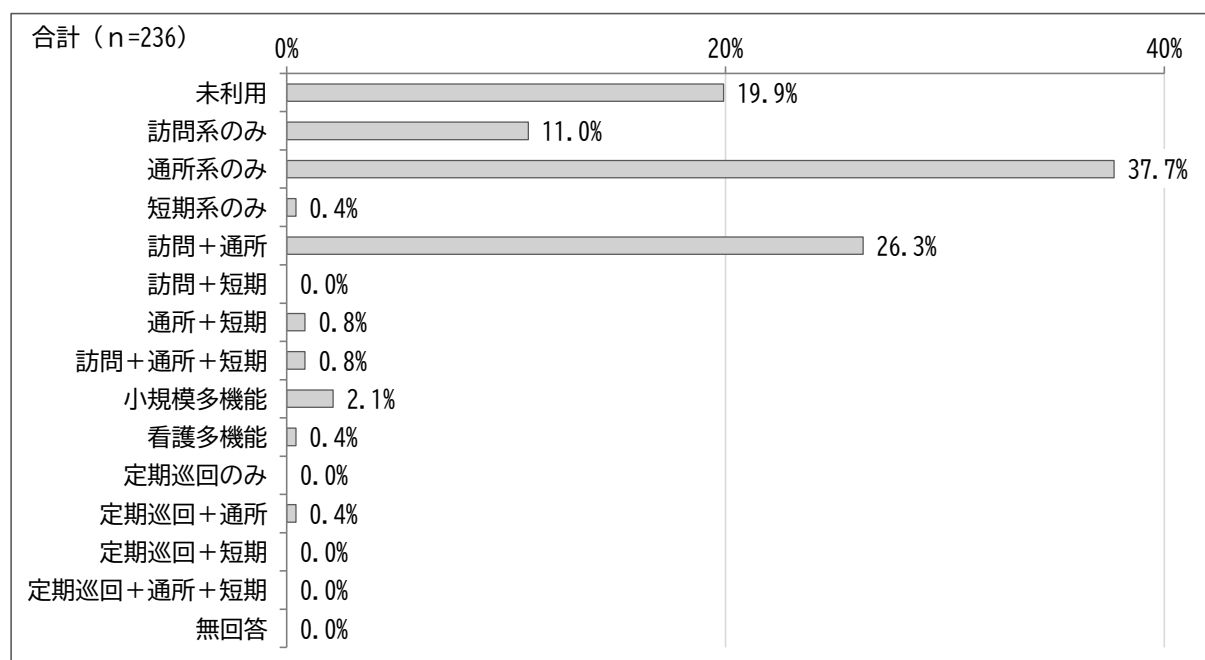
(4) サービス利用の組み合わせ

「通所系のみ」が37.7%と最も割合が高くなっています。次いで、「訪問＋通所」が26.3%、「未利用」が19.9%となっています。

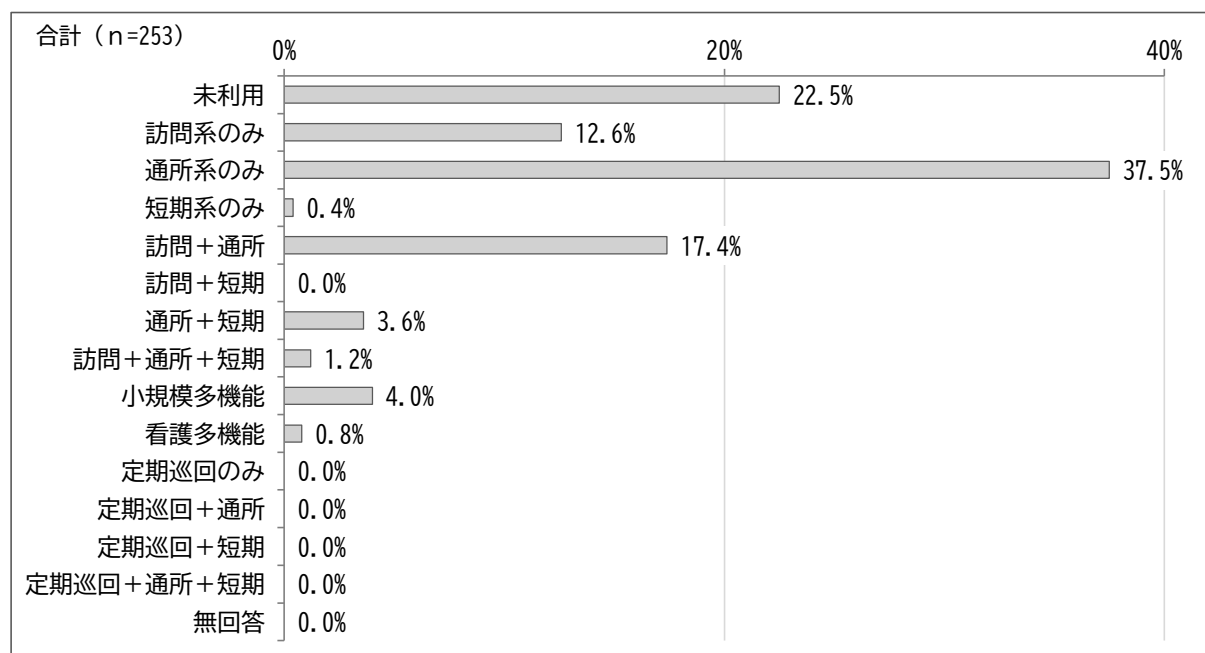
令和5年度調査と比較すると、「訪問＋通所」が8.9ポイント増加しています。

図表 3-4 サービス利用の組み合わせ

【令和8年度調査】



【令和5年度調査】



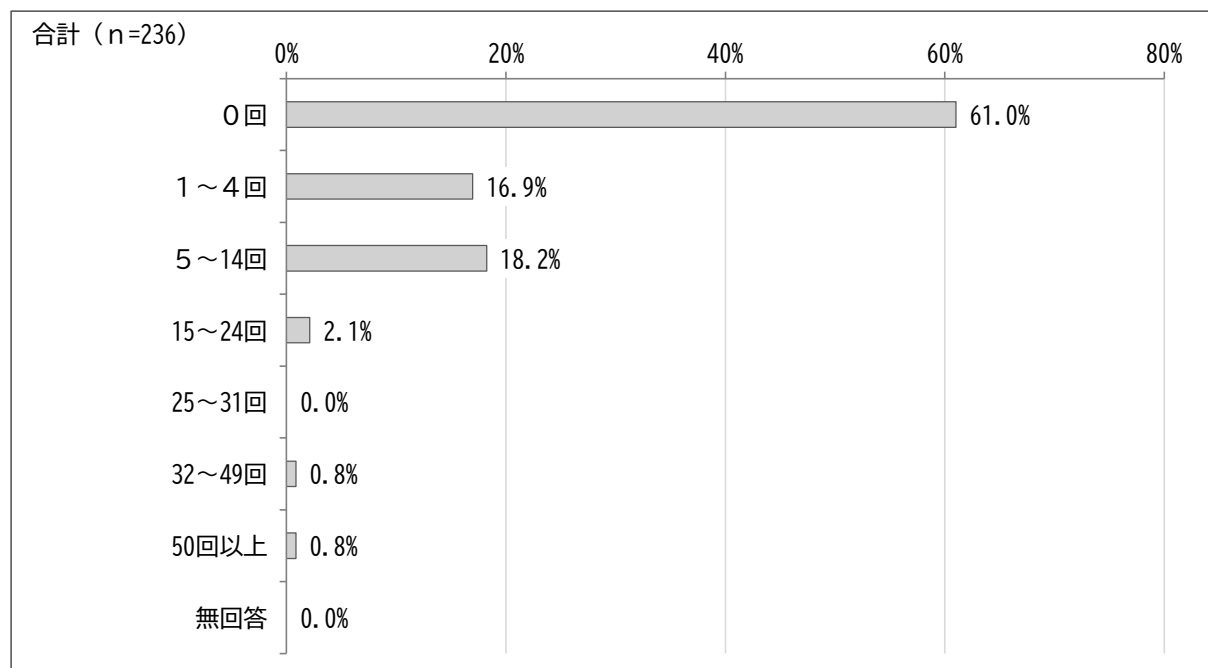
(5) 訪問系サービスの合計利用回数

「0回」が61.0%と最も割合が高くなっています。次いで、「5～14回」が18.2%、「1～4回」が16.9%となっています。

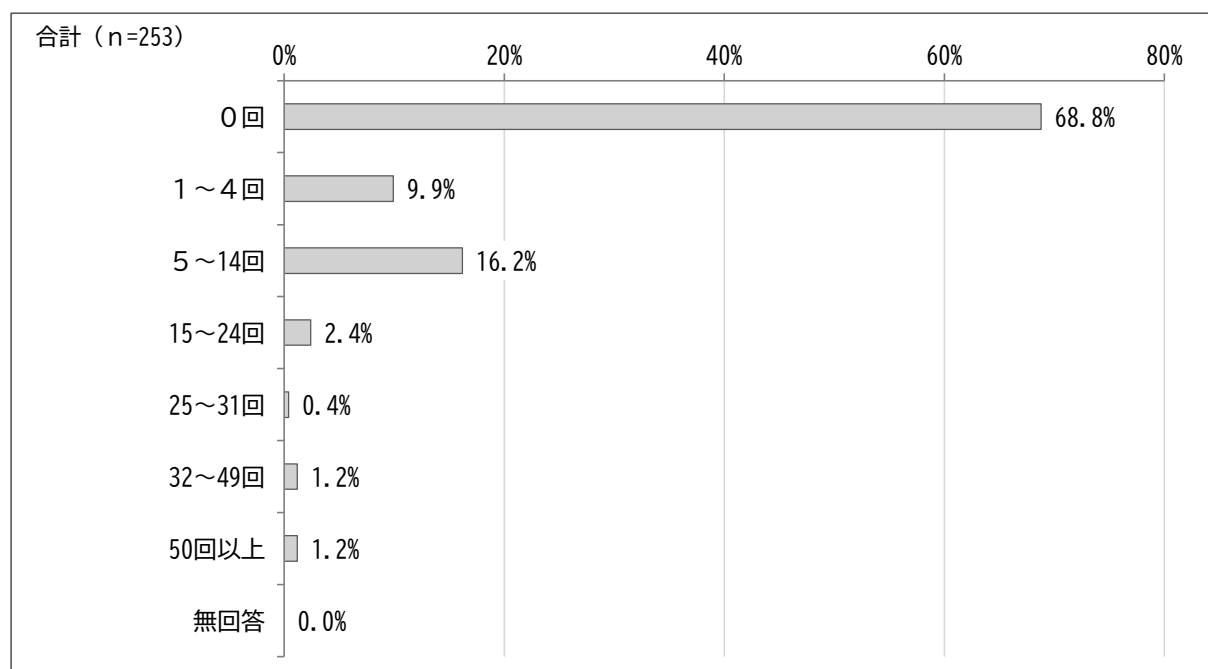
令和5年度調査と比較すると、「1～4回」が7.0ポイント増加しています。

図表 3-5 サービスの利用回数（訪問系）

【令和8年度調査】



【令和5年度調査】



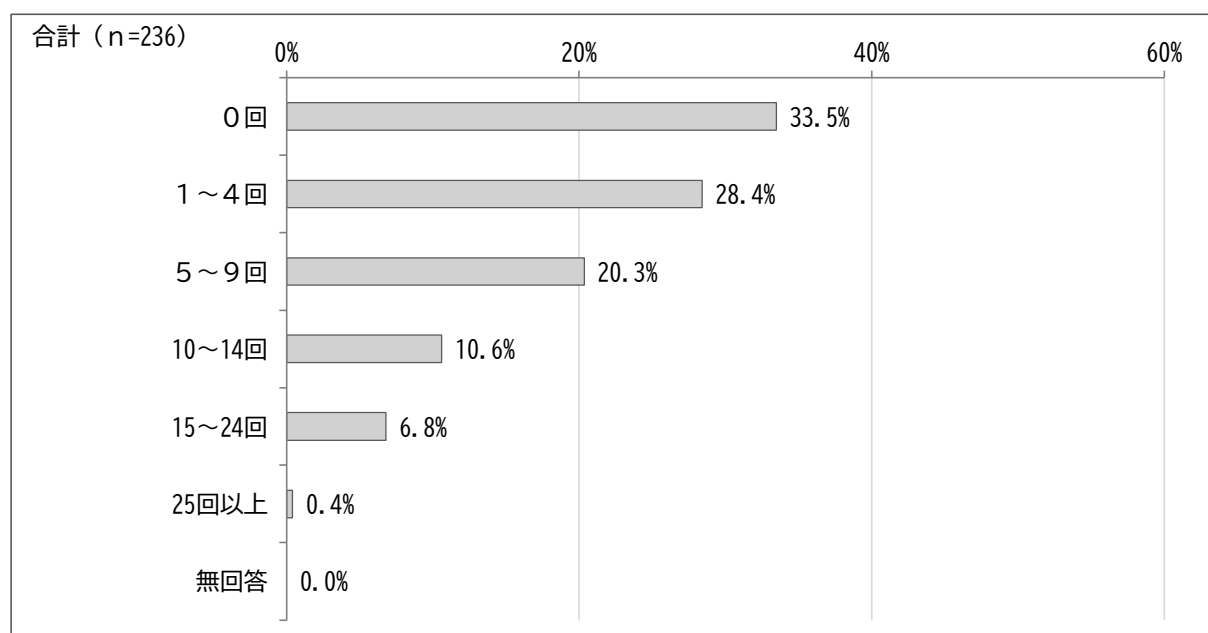
(6) 通所系サービスの合計利用回数

「0回」が33.5%と最も割合が高くなっています。次いで、「1～4回」が28.4%、「5～9回」が20.3%となっています。

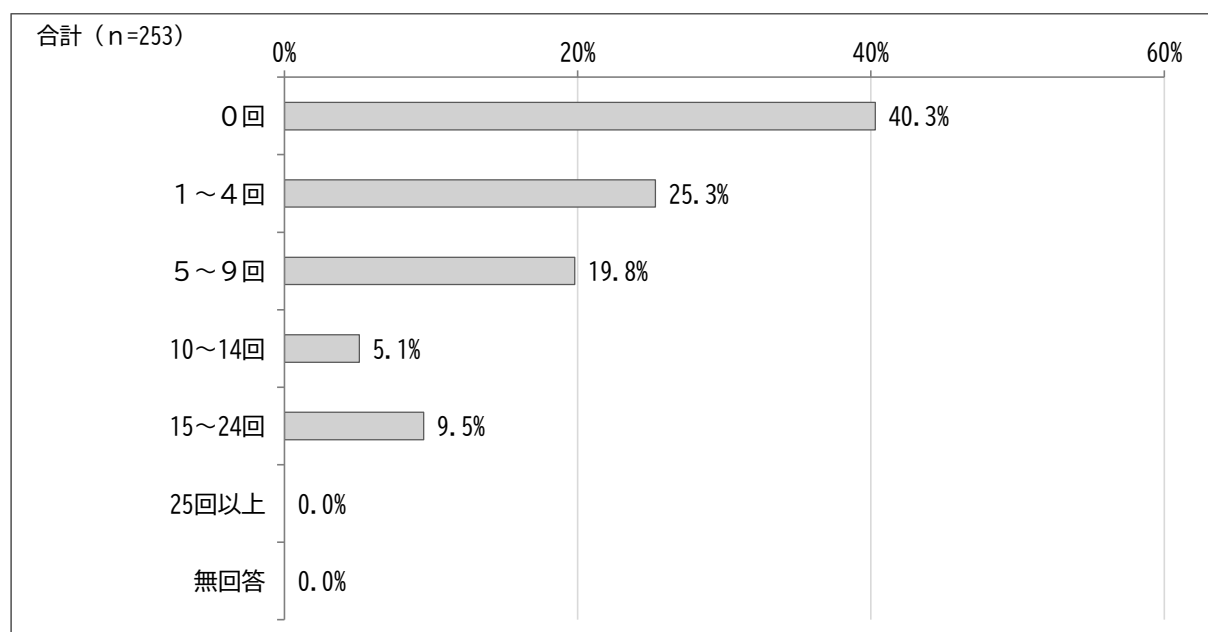
令和5年度調査と比較すると、「0回」が6.8ポイント減少し、「10～14回」が5.5ポイント増加しています。

図表 3-6 サービスの利用回数（通所系）

【令和8年度調査】



【令和5年度調査】



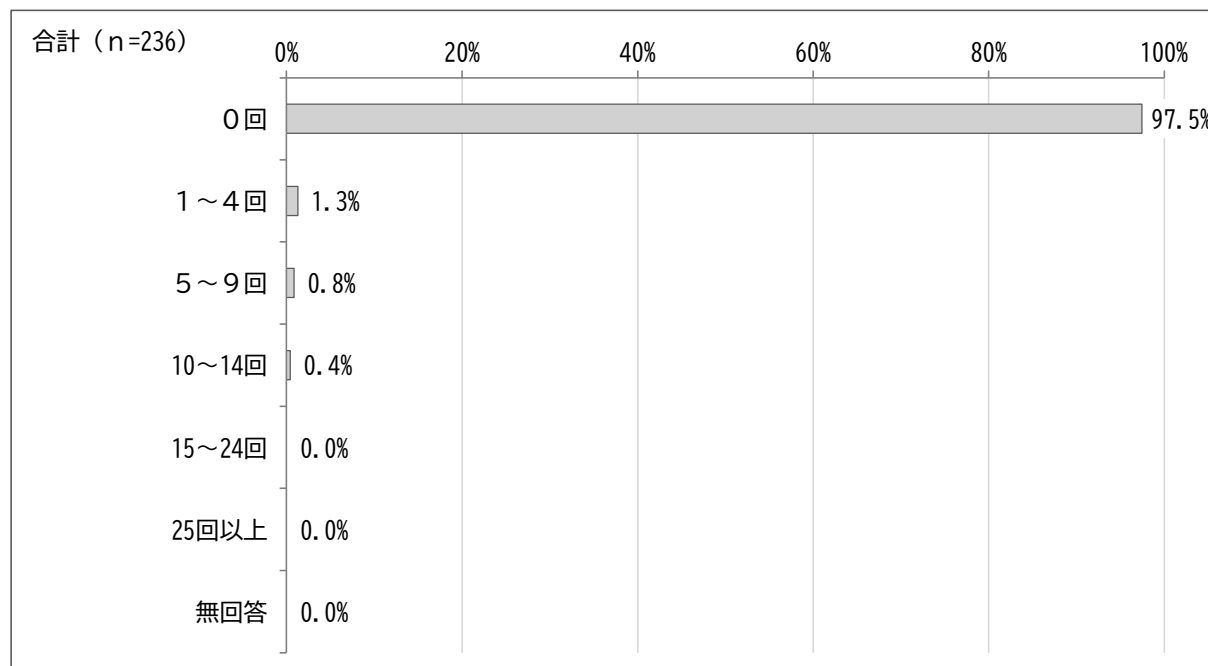
(7) 短期系サービスの合計利用回数

「0回」が97.5%と最も割合が高くなっています。次いで、「1～4回」が1.3%、「5～9回」が0.8%となっています。

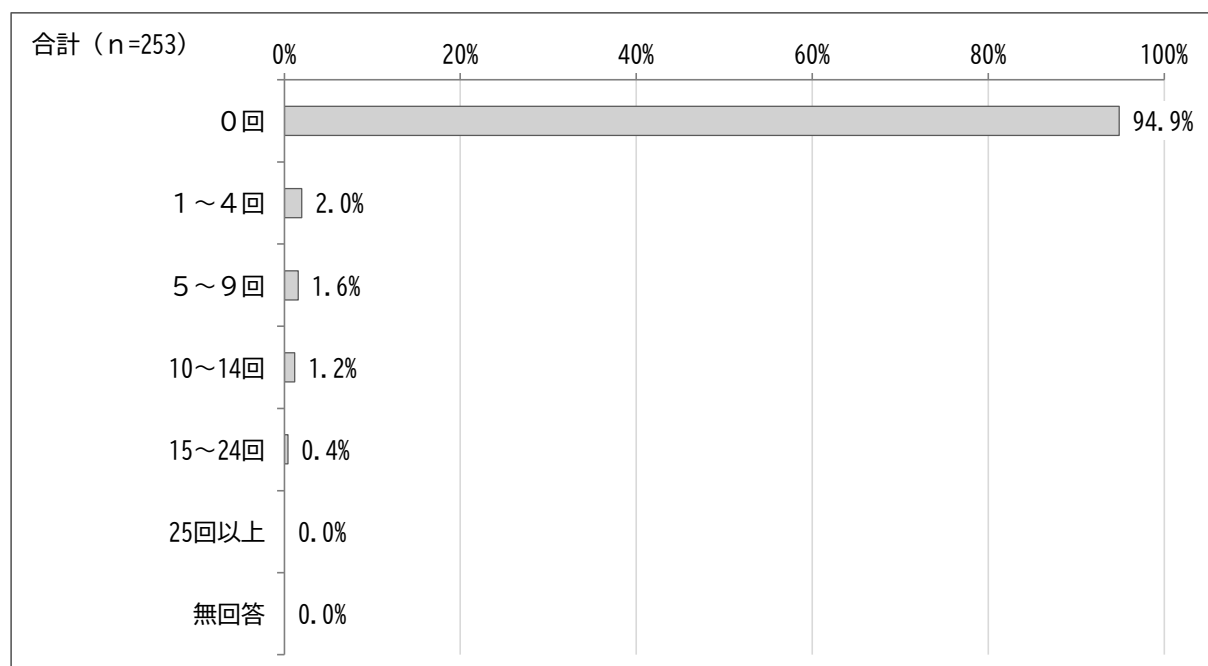
令和5年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表 3-7 サービスの利用回数（短期系）

【令和8年度調査】



【令和5年度調査】



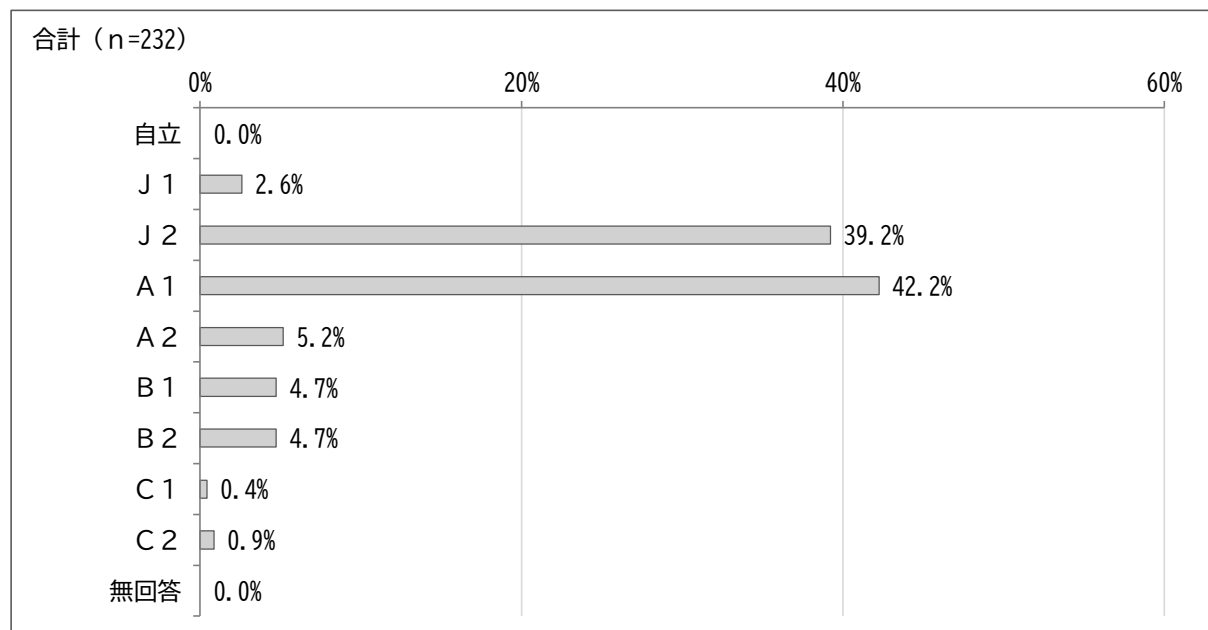
(8) 障害高齢者の日常生活自立度

「A 1」が42.2%と最も割合が高くなっています。次いで、「J 2」が39.2%、「A 2」が5.2%となっています。

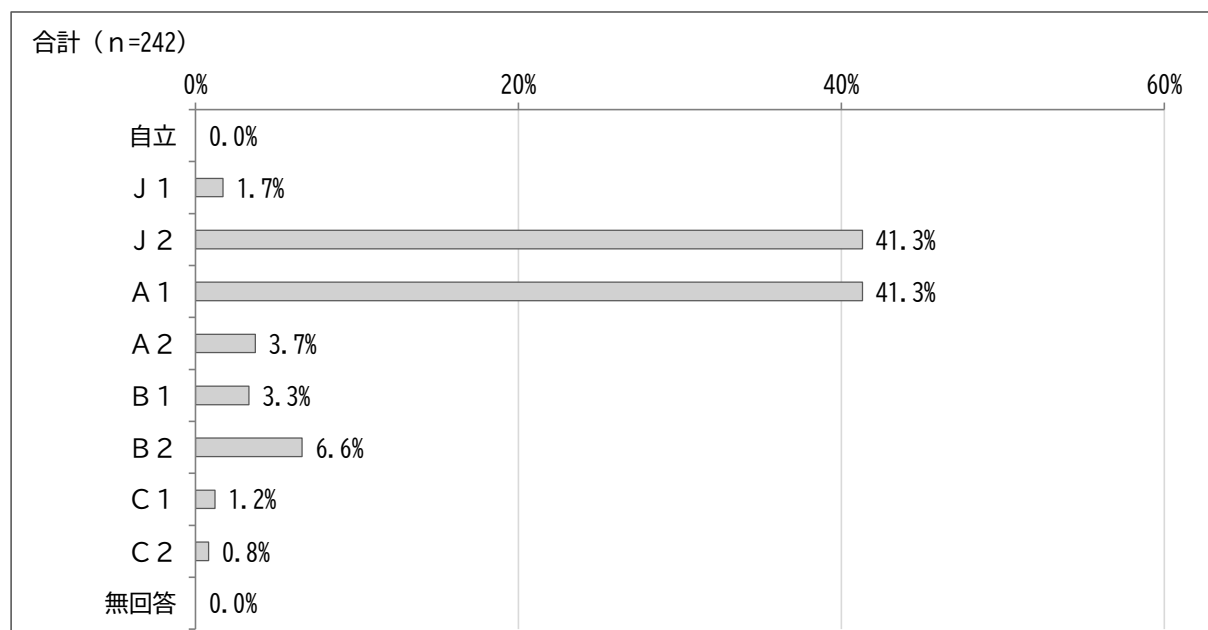
令和5年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表 3-8 障害高齢者の日常生活自立度

【令和8年度調査】



【令和5年度調査】



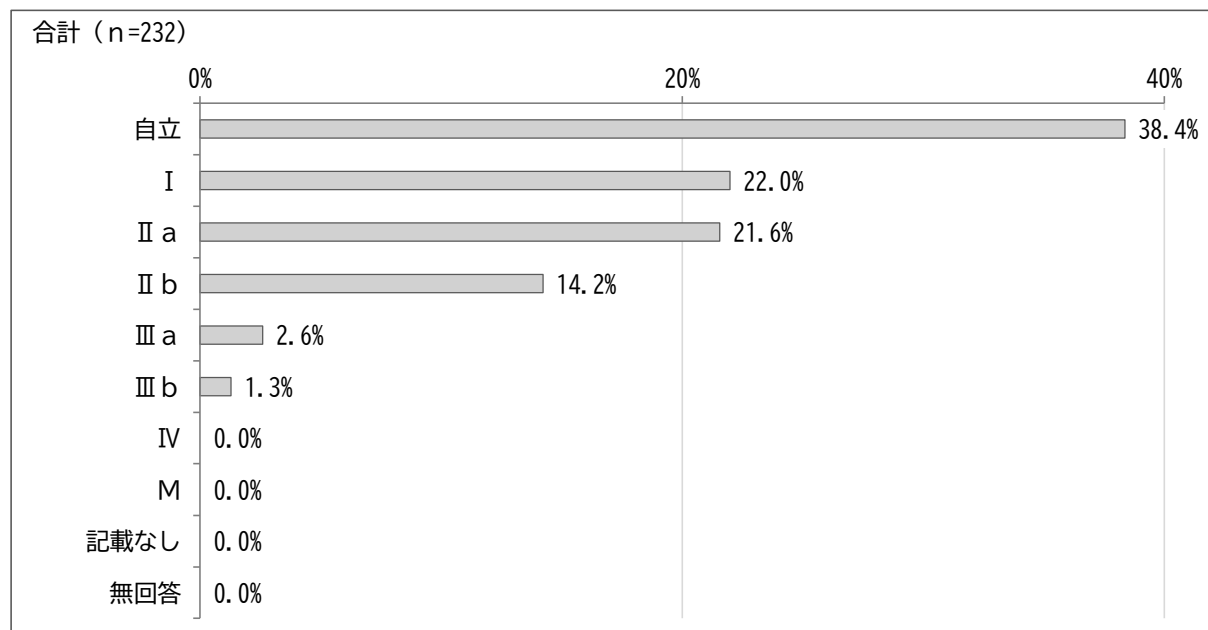
(9) 認知症高齢者の日常生活自立度

「自立」が38.4%と最も割合が高くなっています。次いで「Ⅰ」が22.0%、「Ⅱ a」が21.6%となっています。

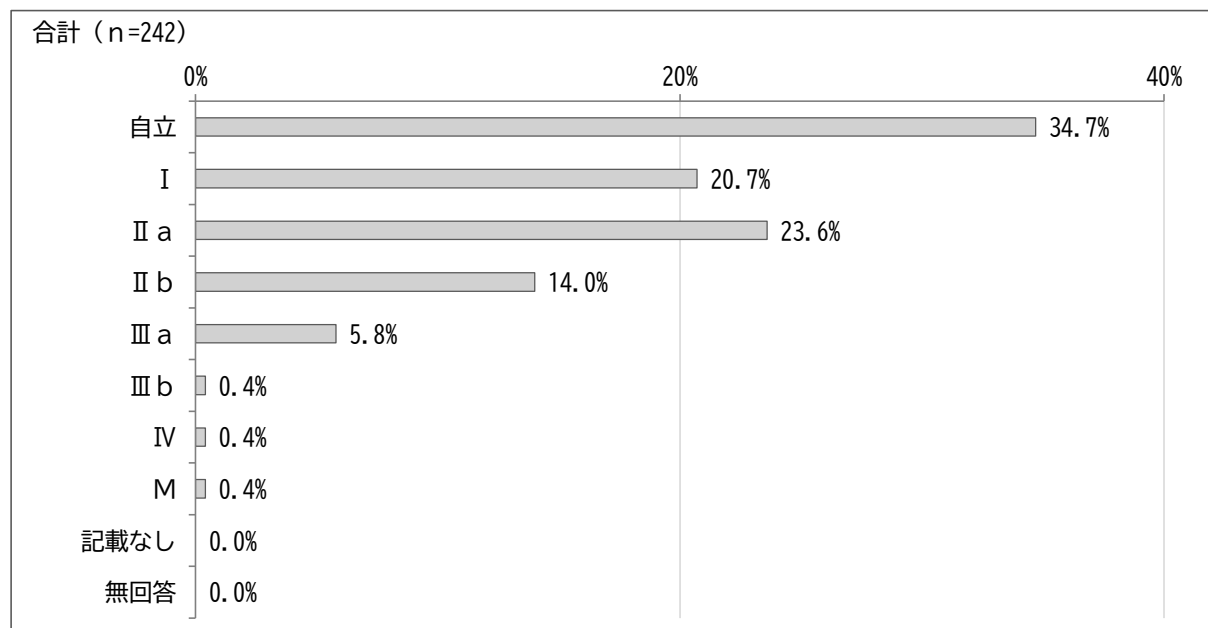
令和5年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表 3-9 認知症高齢者の日常生活自立度

【令和8年度調査】



【令和5年度調査】



Ⅱ クロス集計結果

Ⅰ 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

Ⅰ.Ⅰ 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「在宅生活の継続」と「介護者不安の軽減」の2つの視点からの集計を行っています。

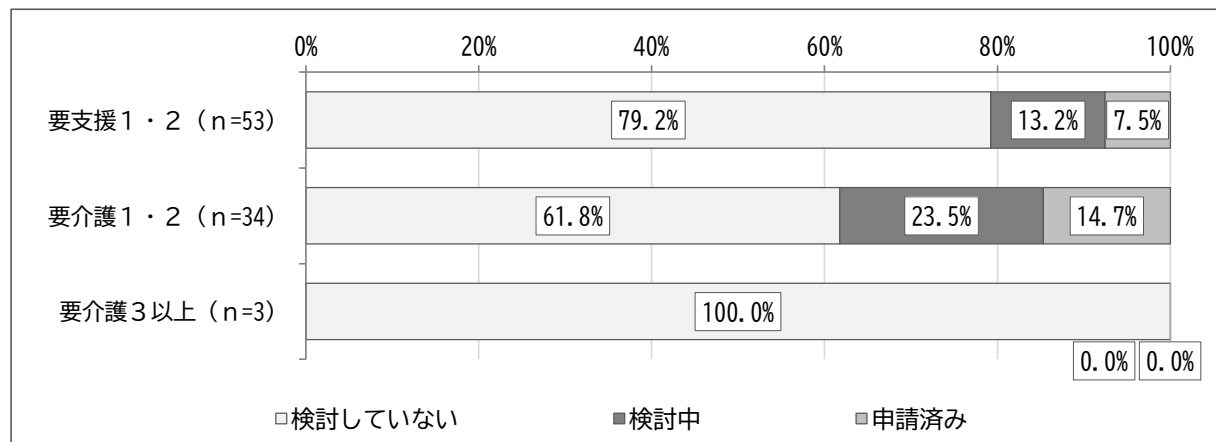
Ⅰ.Ⅱ 集計結果の傾向

(Ⅰ) 要介護度・世帯類型別の施設等検討の状況

【要介護度別・施設等検討の状況(単身世帯)】

単身世帯での施設等の検討状況を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が79.2%と最も割合が高く、次いで「検討中」が13.2%、「申請済み」が7.5%となっています。「要介護1・2」では「検討していない」が61.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」が23.5%、「申請済み」が14.7%となっています。「要介護3以上」では「検討していない」が100.0%となっています。

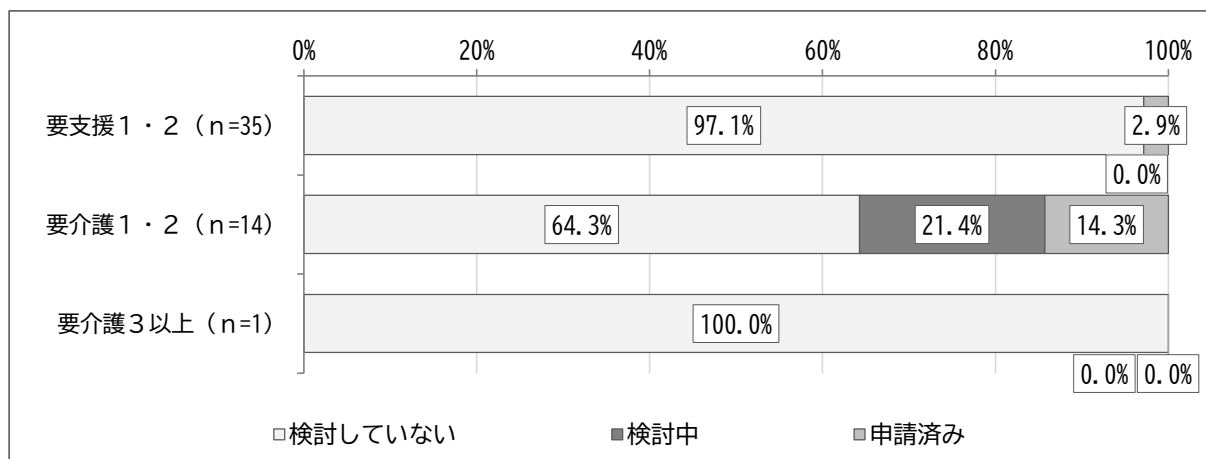
図表 1-1 要介護度別・施設等検討の状況（単身世帯）



【要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）】

夫婦のみ世帯の施設等の検討状況を要介護度別にみると、「要支援１・２」では「検討していない」が97.1%と最も割合が高く、次いで「検討中」が2.9%となっています。「要介護１・２」では「検討していない」が64.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が21.4%、「申請済み」が14.3%となっています。「要介護３以上」では「検討していない」が100.0%となっています。

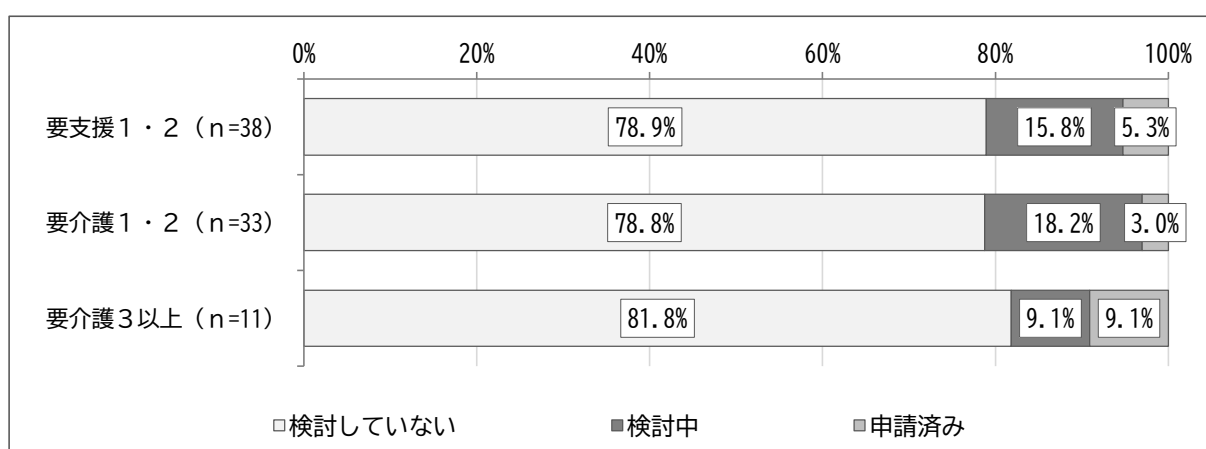
図表 1-2 要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



【要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）】

その他世帯の施設等の検討状況を要介護度別にみると、「要支援１・２」では「検討していない」が78.9%と最も割合が高く、次いで「検討中」が15.8%、「申請済み」が5.3%となっています。「要介護１・２」では「検討していない」が78.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」が18.2%、「申請済み」が3.0%となっています。「要介護３以上」では「検討していない」が81.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」・「申請済み」が9.1%となっています。

図表 1-3 要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）

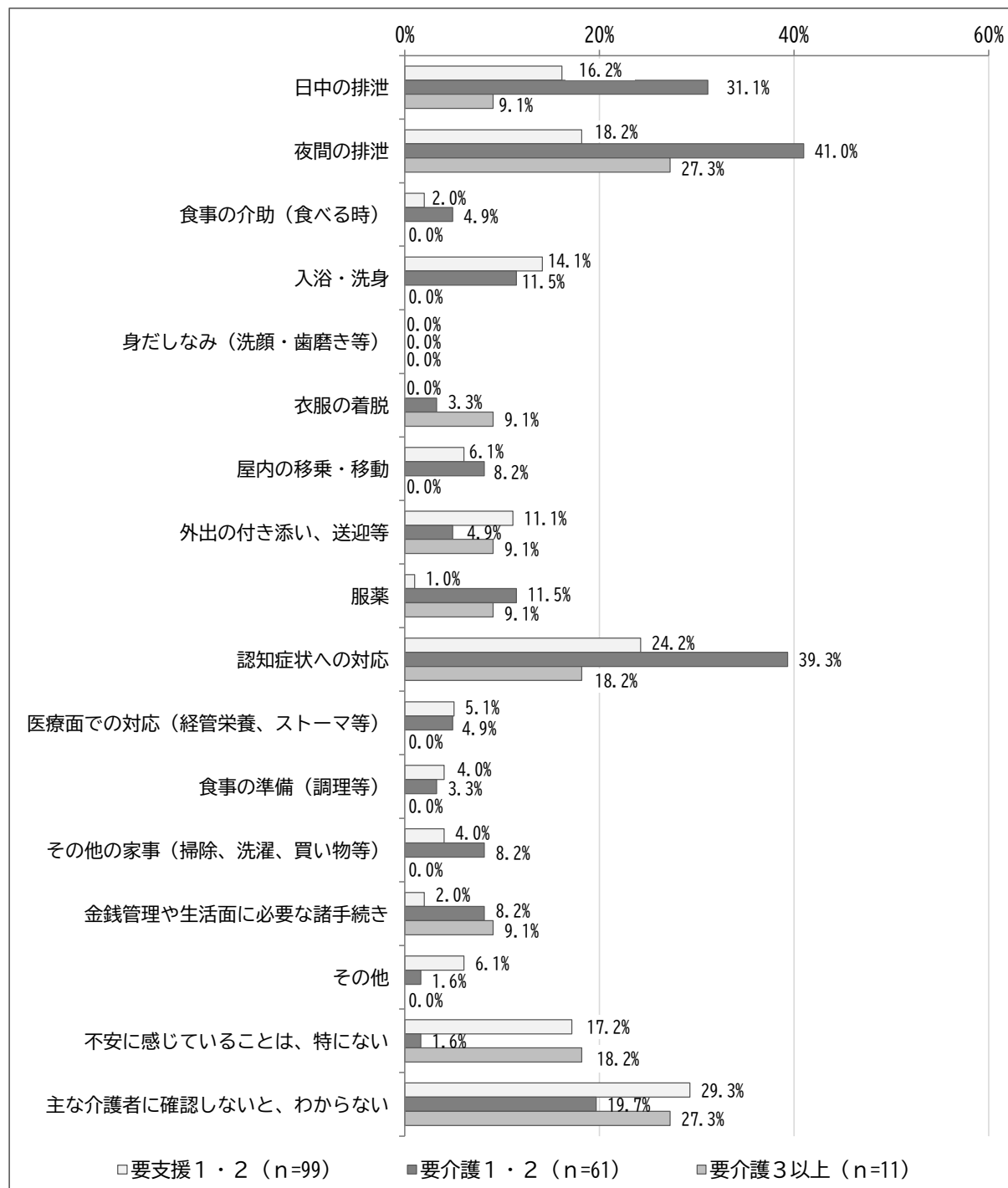


(2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う主な介護者が不安に感じる介護

【要介護度別・介護者が不安に感じる介護】

要介護度別にみると、「要支援1・2」では「主な介護者に確認しないと、わからない」が29.3%と最も割合が高く、「要介護1・2」では「夜間の排泄」が41.0%、「要介護3以上」では「夜間の排泄」・「主な介護者に確認しないと、わからない」が27.3%と最も割合が高くなっています。

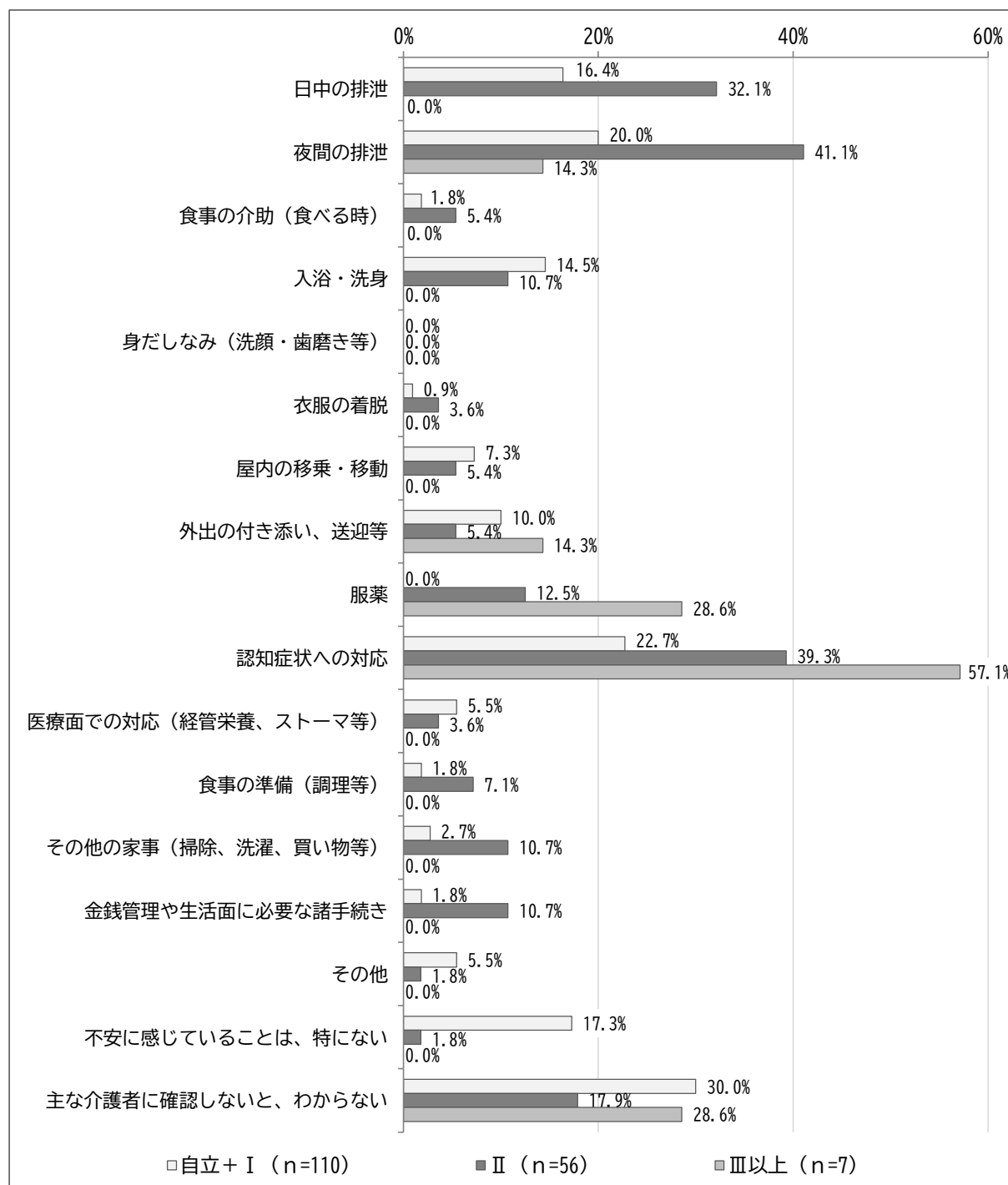
図表 1-4 要介護度別・介護者が不安に感じる介護



【認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護】

認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「主な介護者に確認しないと、わからない」が30.0%と最も割合が高く、「Ⅱ」では「夜間の排泄」が41.1%、「Ⅲ以上」では「認知症状への対応」が57.1%と最も割合が高くなっています。

図表 1-5 認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護

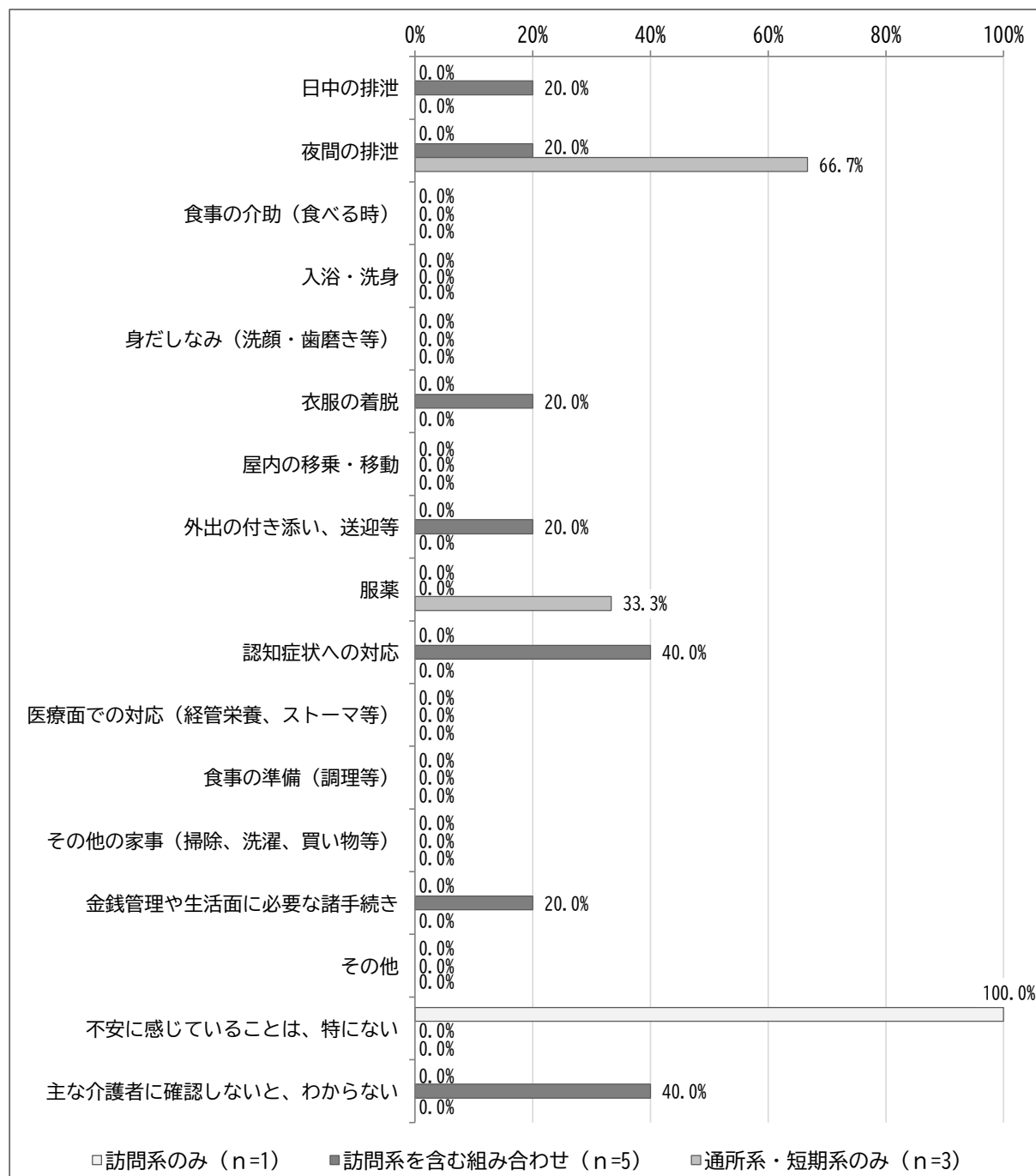


(3) サービス利用組み合わせ別の主な介護者が不安を感じる介護

【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護】

要介護3以上でのサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「不安に感じることは、特にない」が100.0%となっています。「訪問系を含む組み合わせ」では「認知症状への対応」・「主な介護者に確認しないと、わからない」が40.0%、「通所系・短期系のみ」では「夜間の排泄」が66.7%と最も割合が高くなっています。

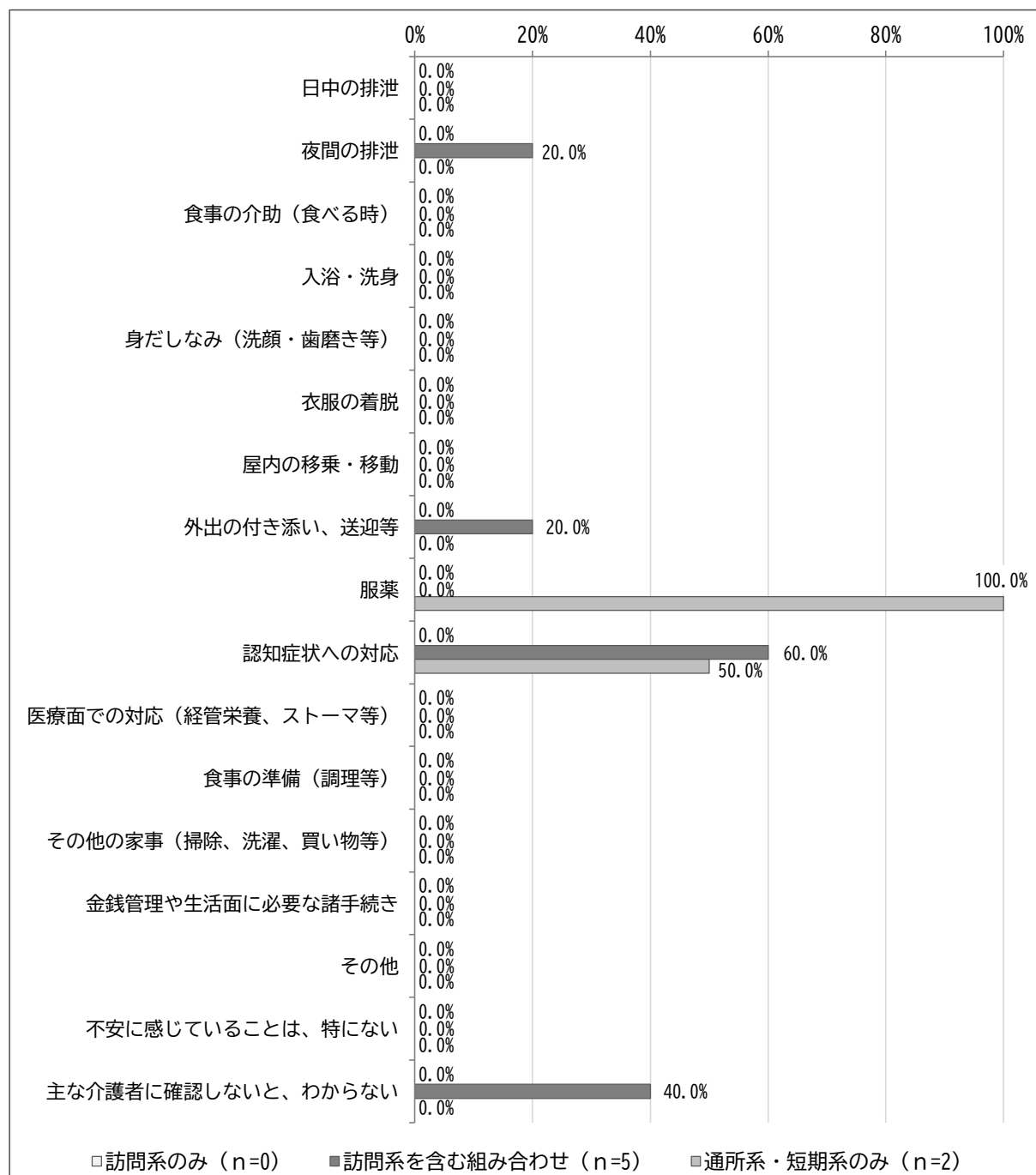
図表 1-6 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（要介護3以上）



【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症Ⅲ以上）】

認知症自立度Ⅲ以上でのサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」での回答者はいませんでした。「訪問系を含む組み合わせ」では「認知症状への対応」が60.0%最も割合が高くなっており、「通所系・短期系のみ」では「服薬」が100.0%となっています。

図表 1-7 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症Ⅲ以上）

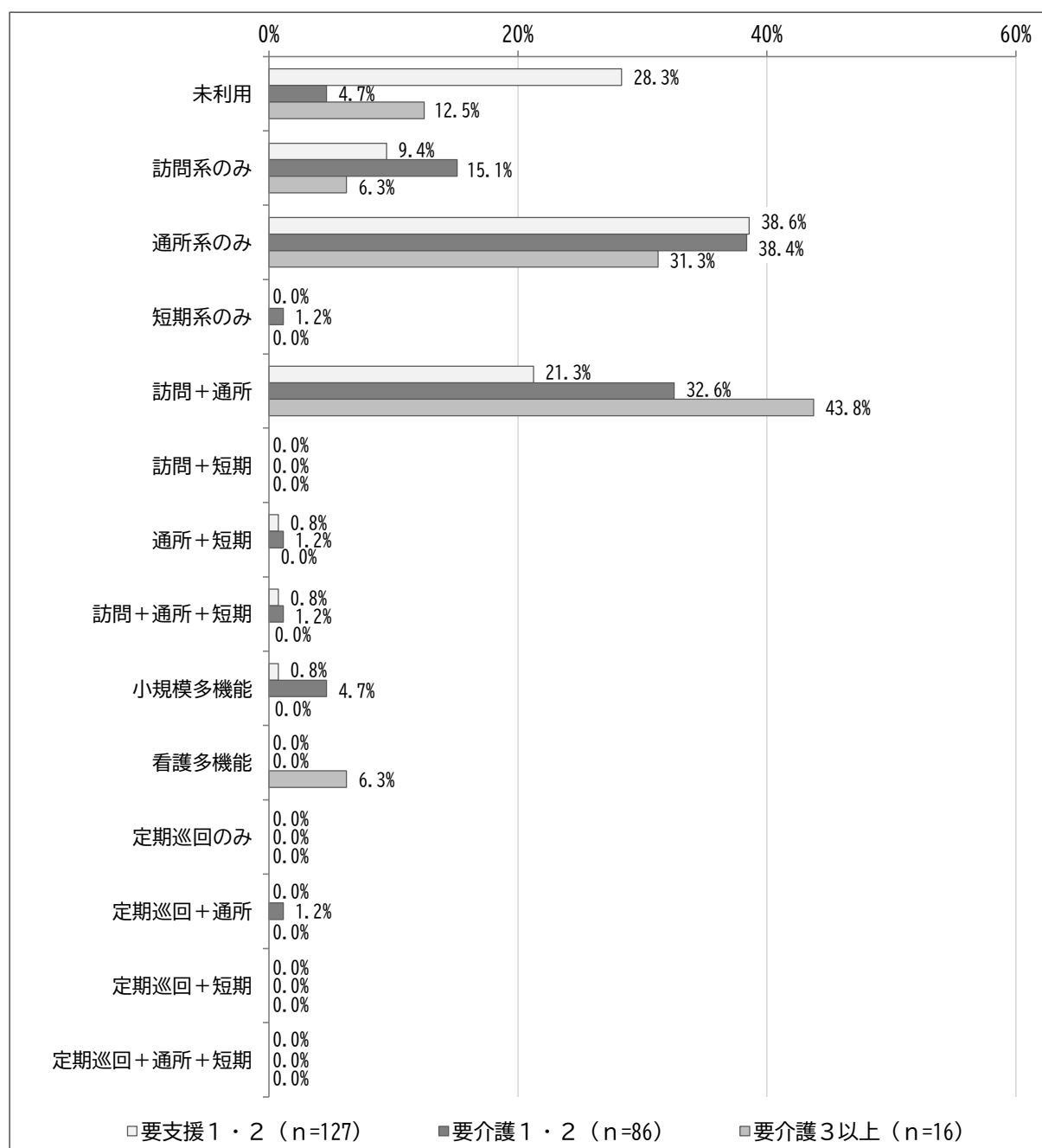


(4) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴うサービス利用の組み合わせ

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを、要介護度別にみると、「要支援1・2」では「通所系のみ」が38.6%と最も割合が高く、次いで「未利用」が28.3%、「訪問+通所」が21.3%となっています。「要介護1・2」では「通所系のみ」が38.4%と最も割合が高く、次いで「訪問+通所」が32.6%、「訪問系のみ」が15.1%となっています。「要介護3以上」では「訪問+通所」が43.8%と最も割合が高く、次いで「通所系のみ」が31.3%、「未利用」が12.5%となっています。

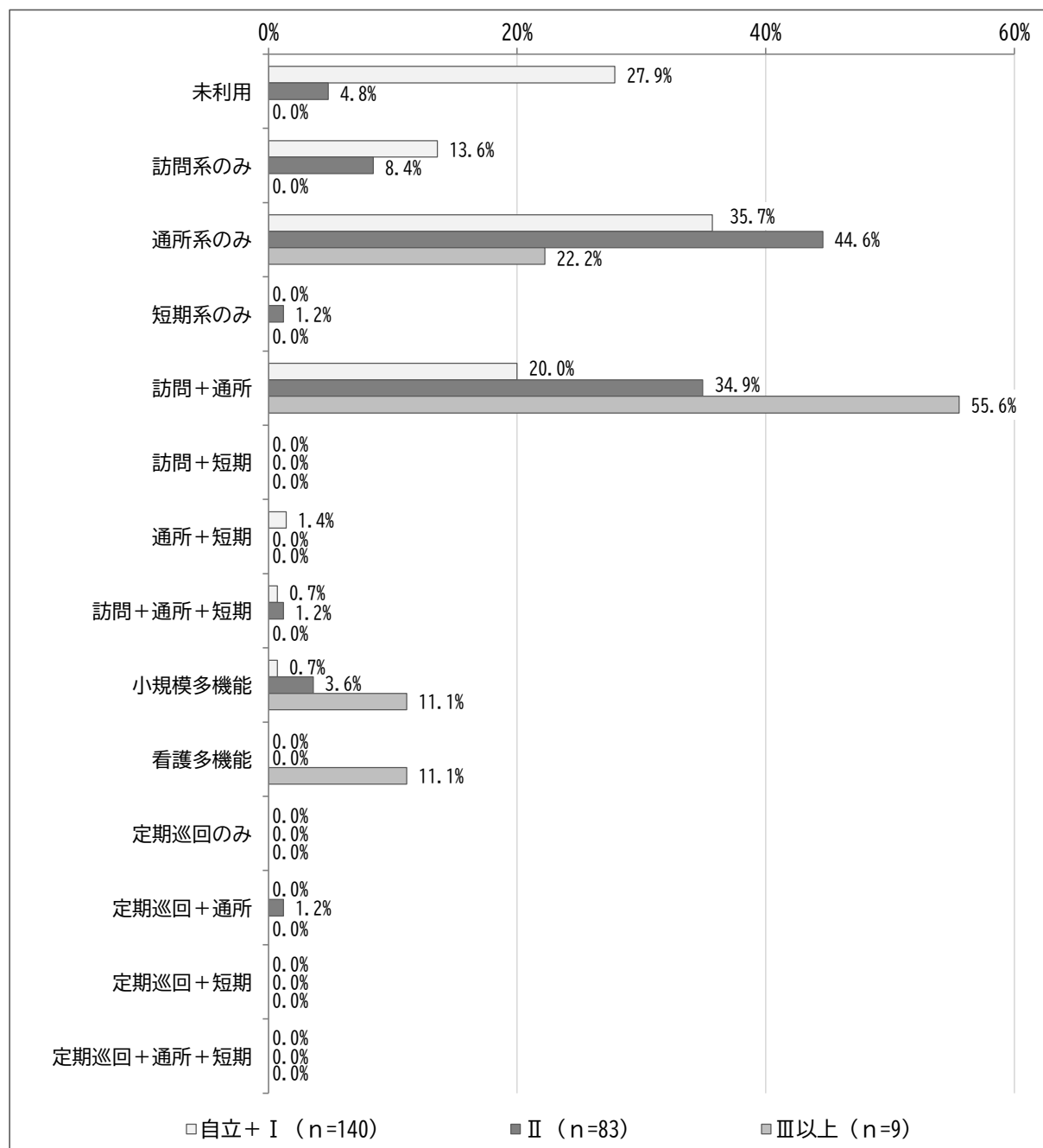
図表 1-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ】

認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「通所系のみ」が35.7%と最も割合が高く、次いで「未利用」が27.9%、「訪問+通所」が20.0%となっています。「Ⅱ」では「通所系のみ」が44.6%と最も割合が高く、次いで「訪問+通所」が34.9%、「訪問系のみ」が8.4%となっています。「Ⅲ以上」では「訪問+通所」が55.6%と最も割合が高く、次いで「通所系のみ」が22.2%、「小規模多機能」・「看護多機能」が11.1%となっています。

図表 1-9 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ



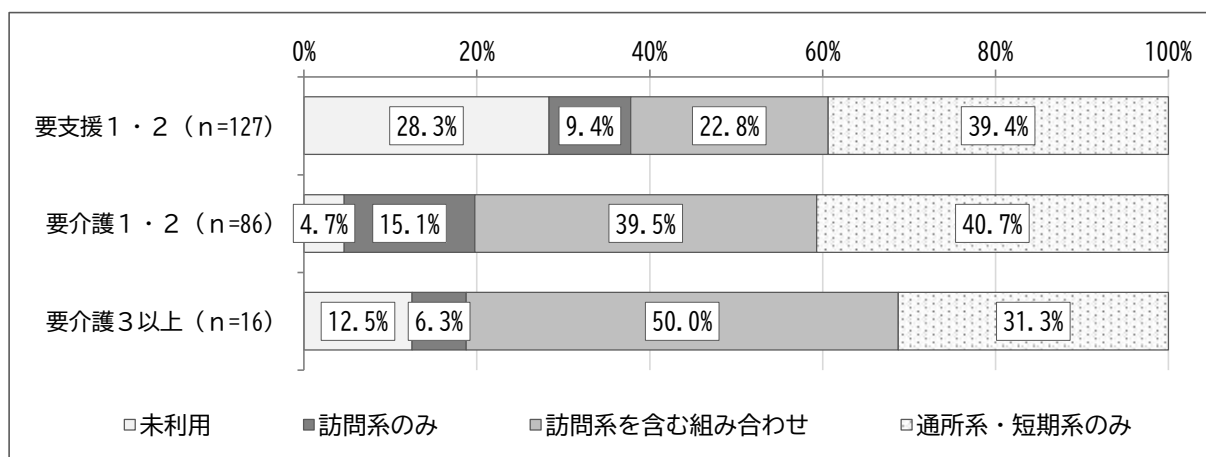
【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（３種類分類）】

「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」および「短期系」のみのサービス利用、さらにその２つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の３種類（未利用除く）に分類しました。

要介護度別にみると、「要支援１・２」が３９．４％、「要介護１・２」が４０．７％と「通所系・短期系のみ」が最も割合が高くなっています。

また、「訪問系を含む組み合わせ」については、要介護度が上がるにつれ、その割合は高くなっています。

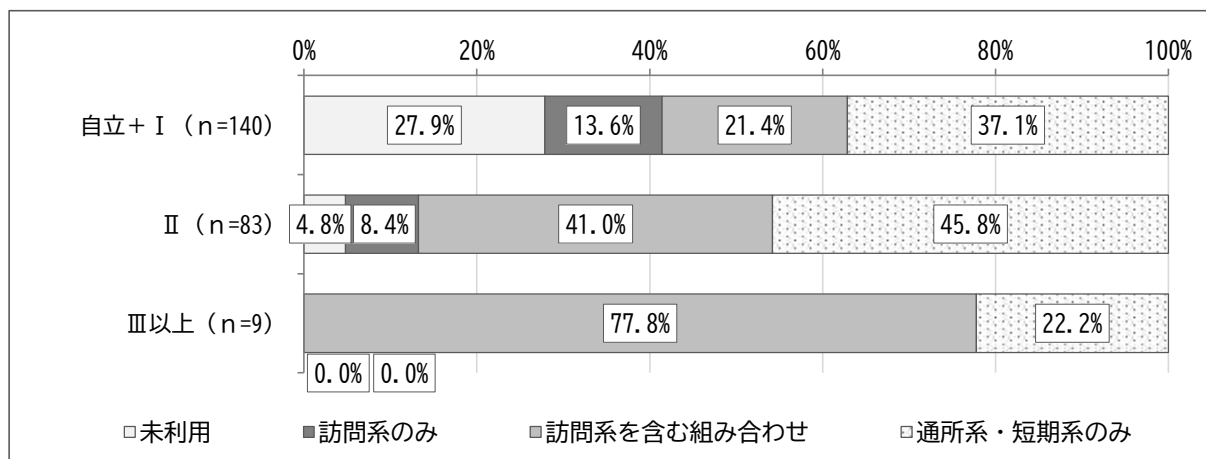
図表 1-10 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（３種類分類）】

認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」が３７．１％、「Ⅱ」が４５．８％と「通所系・短期系のみ」が最も割合が高く、「Ⅲ以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が７７．８％と最も割合が高く半数を超えています。また、「訪問系を含む組み合わせ」については、要介護度が上がるにつれ、その割合は高くなっています。

図表 1-11 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ



2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

2.1 集計・分析の狙い

- ここでは、介護者の就労継続見込みの向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「主な介護者の就労状況」と「主な介護者の就労継続見込み」の2つの視点からの集計を行っています。
- 具体的には、「就労している介護者（フルタイム勤務、パートタイム勤務）」と「就労していない介護者」の違いに着目し、就労している介護者の属性や介護状況の特徴別に、必要な支援を集計・分析しています。
- さらに、「どのようなサービス利用」や「働き方の調整・職場の支援」を受けている場合に、「就労を継続することができる」という見込みを持つことができるのかを分析するために、主な介護者の「就労継続見込み」と、「主な介護者が行っている介護」や「介護保険サービスの利用の有無」、「介護のための働き方の調整」などとのクロス集計を行っています。

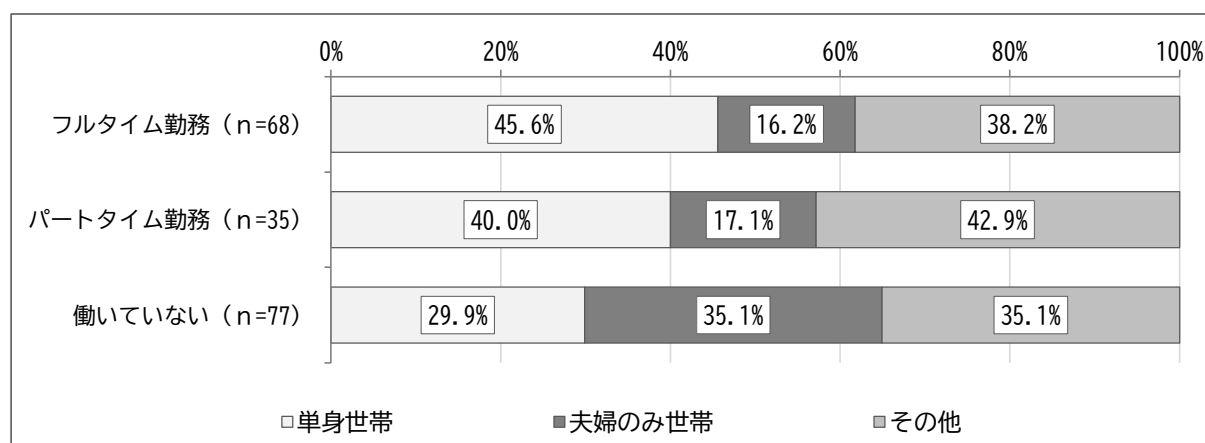
2.2 集計結果の傾向

(1) 就労状況別の主な介護者等の基本属性

【就労状況別・世帯類型】

世帯類型を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「単身世帯」が45.6%と最も割合が高く、次いで「その他」が38.2%、「夫婦のみ」が16.2%となっています。「パートタイム勤務」では「その他」が42.9%と最も割合が高く、次いで「単身世帯」が40.0%、「夫婦のみ世帯」が17.1%となっています。「働いていない」では「夫婦のみ世帯」・「その他」が35.1%と最も割合が高く、次いで「単身世帯」が29.9%となっています。

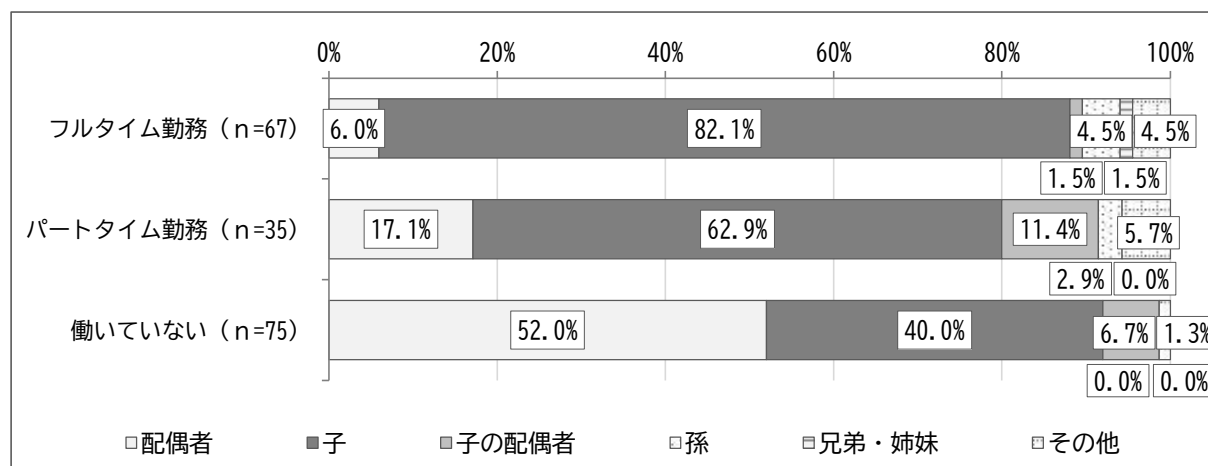
図表 2-1 就労状況別・世帯類型



【就労状況別・主な介護者の本人との関係】

主な介護者を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「子」が82.1%と最も割合が高く半数を大きく超えています。次いで「配偶者」が6.0%、「孫」・「その他」が4.5%となっています。「パートタイム勤務」では「子」が62.9%と最も割合が高く、次いで「配偶者」が17.1%、「子の配偶者」が11.4%となっています。「働いていない」では「配偶者」が52.0%と最も割合が高く、次いで「子」が40.0%、「子の配偶者」が6.7%となっています。

図表 2-2 就労状況別・主な介護者の本人との関係

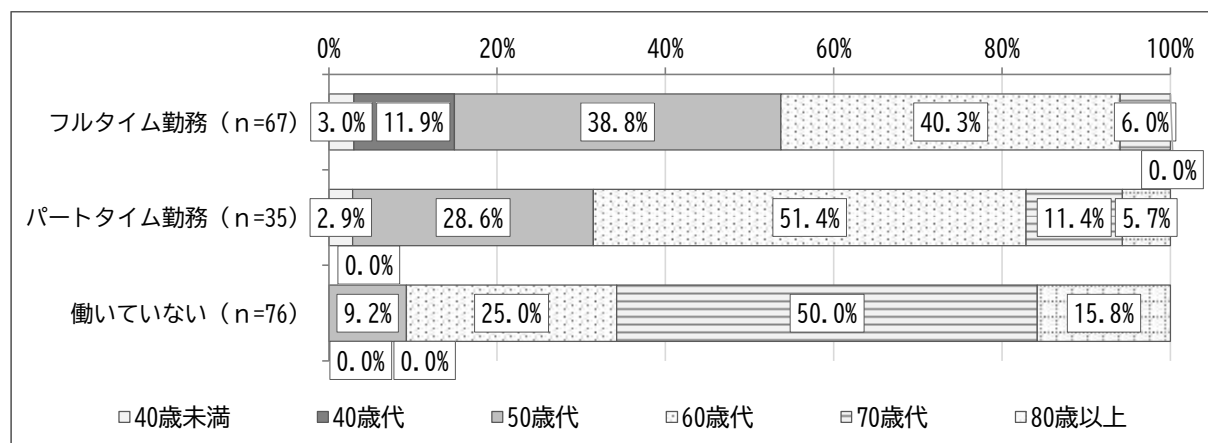


【就労状況別・主な介護者の年齢】

介護者の年齢を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「60歳代」が40.3%と最も割合が高く、次いで「50歳代」が38.8%、「40歳代」が11.9%となっています。「パートタイム勤務」では「60歳代」が51.4%と最も割合が高く、次いで「50歳代」が28.6%、「70歳代」が11.4%となっています。「働いていない」では「70歳代」が50.0%と最も割合が高く、次いで「60歳代」が25.0%、「80歳以上」が15.8%となっています。

介護者が就労していない場合は、介護者の年齢が高齢となる傾向がみられます。

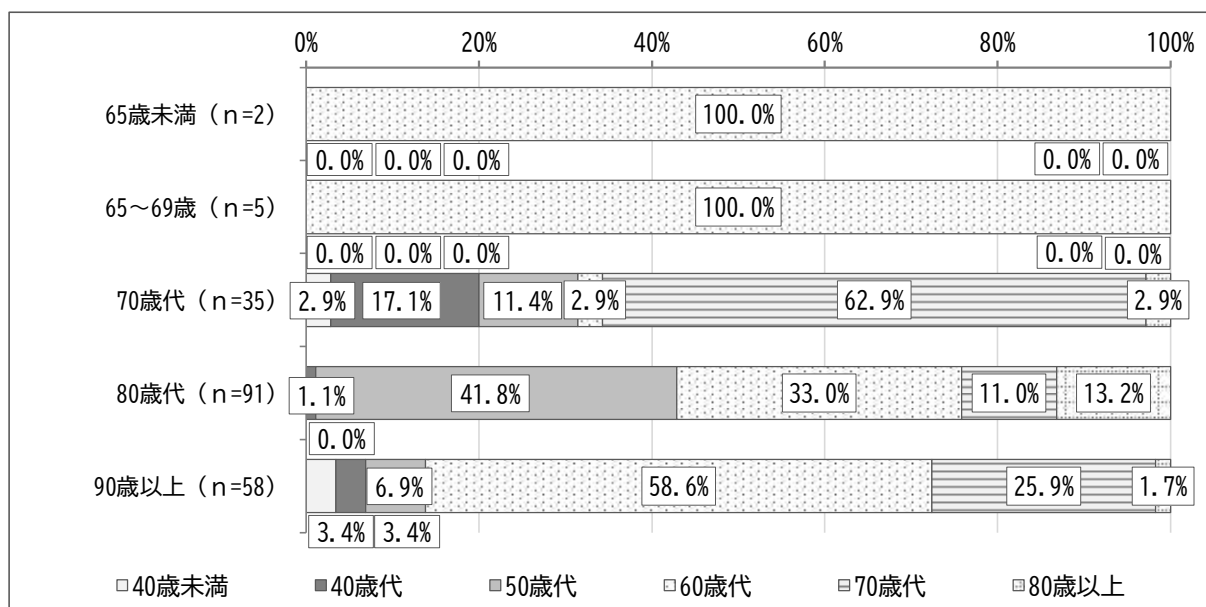
図表 2-3 就労状況別・主な介護者の年齢



【本人の年齢別・主な介護者の年齢】

介護者の年齢を本人年齢別にみると、「65歳未満」では「60歳代」が100.0%、「65～69歳」では「60歳代」が100.0%、「70歳代」では「70歳代」が62.9%、「80歳代」では「50歳代」が41.8%、「90歳以上」では「60歳代」が58.6%と最も割合が高くなっています。

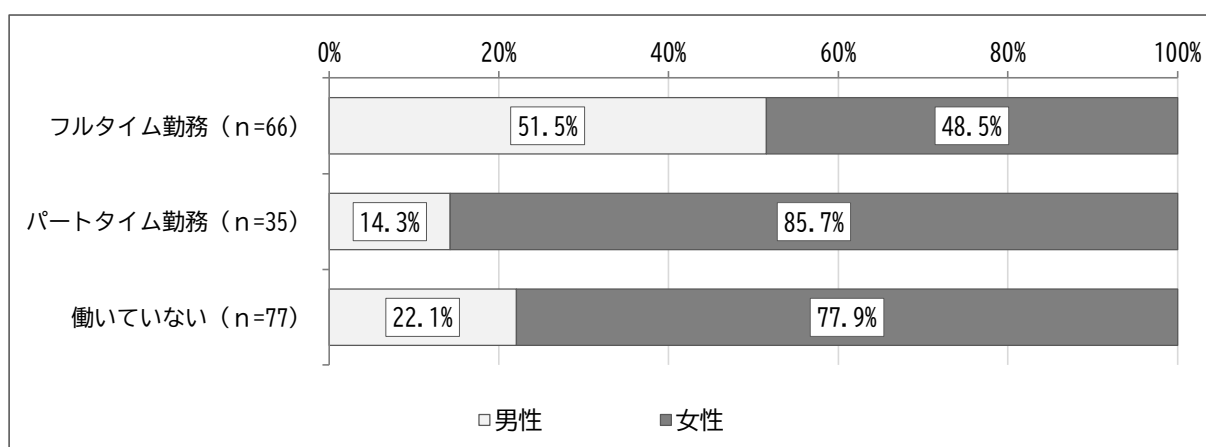
図表 2-4 本人の年齢別・主な介護者の年齢



【就労状況別・主な介護者の性別】

介護者の性別を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「女性」が51.5%、「男性」が48.5%となっています。「パートタイム勤務」では「女性」85.7%と最も割合が高く半数を超え、「男性」は14.3%となっています。「働いていない」でも同様に、「女性」が77.9%と半数を超え、「男性」は22.1%となっています。

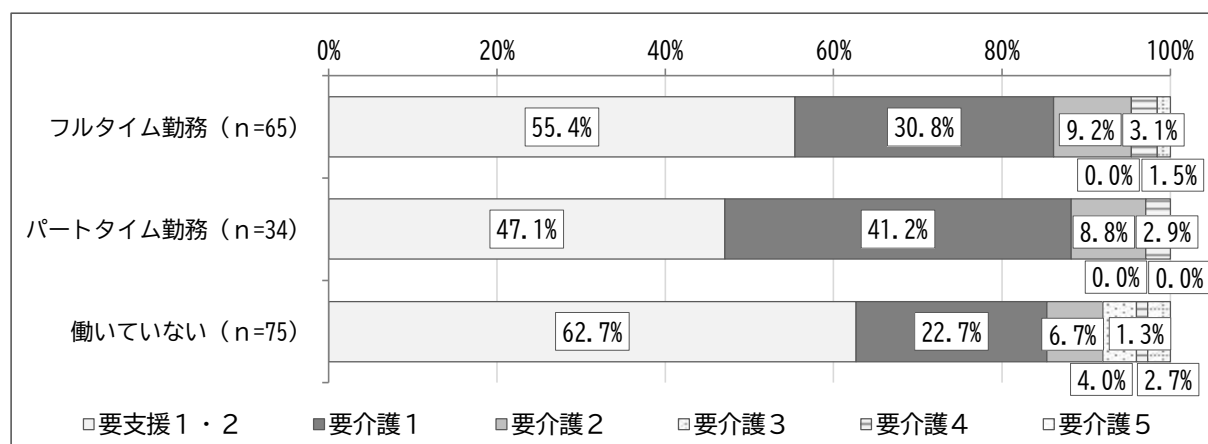
図表 2-5 就労状況別・主な介護者の性別



【就労状況別・要介護度】

要介護度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「要支援1・2」が55.4%と最も割合が高く、次いで「要介護1」が30.8%、「要介護2」が9.2%となっています。「パートタイム勤務」では「要支援1・2」が47.1%と最も割合が高く、次いで「要介護1」が41.2%、「要介護2」が8.8%となっています。「働いていない」では「要支援1・2」が62.7%と最も割合が高く、次いで「要介護1」が22.7%、「要介護2」が6.7%となっています。

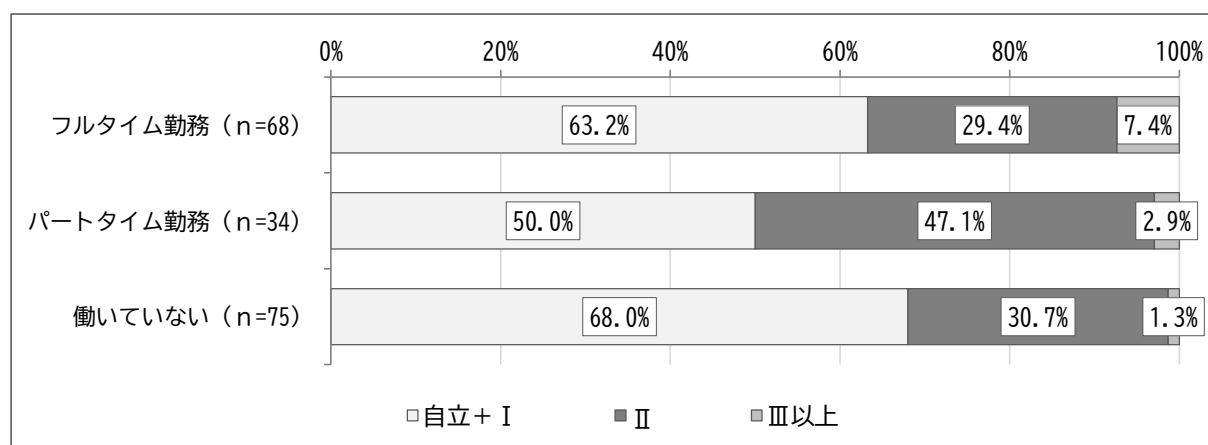
図表 2-6 就労状況別・要介護度



【就労状況別・認知症自立度】

認知症高齢者自立度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「自立+Ⅰ」が63.2%と最も割合が高く、次いで「Ⅱ」が29.4%、「Ⅲ以上」が7.4%となっています。「パートタイム勤務」では「自立+Ⅰ」が50.0%と最も割合が高く、次いで「Ⅱ」が47.1%、「Ⅲ以上」が2.9%となっています。「働いていない」では「自立+Ⅰ」が68.0%と最も割合が高く、次いで「Ⅱ」が30.7%、「Ⅲ以上」が1.3%となっています。

図表 2-7 就労状況別・認知症自立度

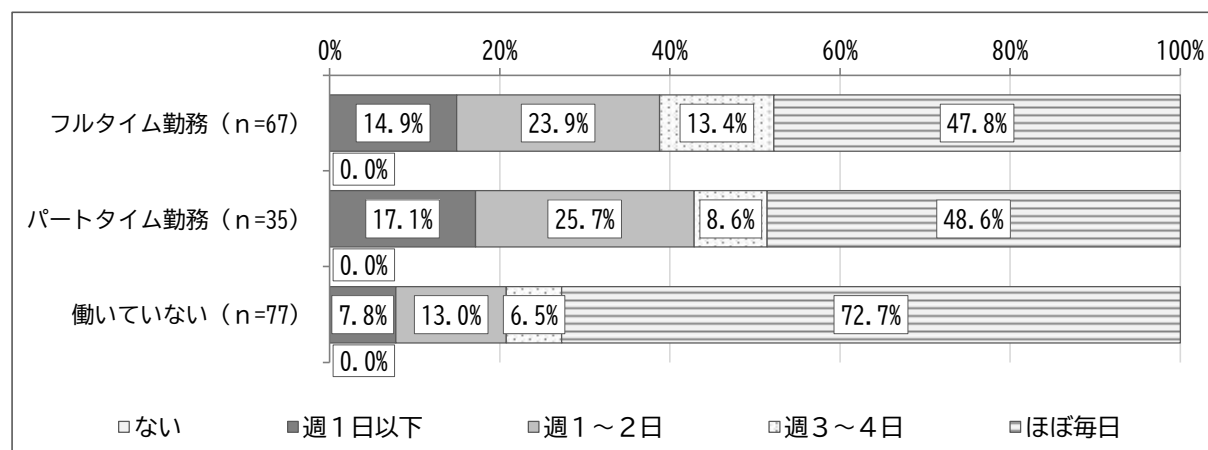


(2) 就労状況別の主な介護者が行っている介護と就労継続見込み

【就労状況別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「ほぼ毎日」が47.8%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が23.9%、「週1日以下」が14.9%となっています。「パートタイム勤務」では「ほぼ毎日」が48.6%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が25.7%、「週1日以下」が17.1%となっています。「働いていない」では「ほぼ毎日」が72.7%と最も割合が高く半数を超えています。次いで「週1～2日」が13.0%、「週1日以下」が7.8%となっています。

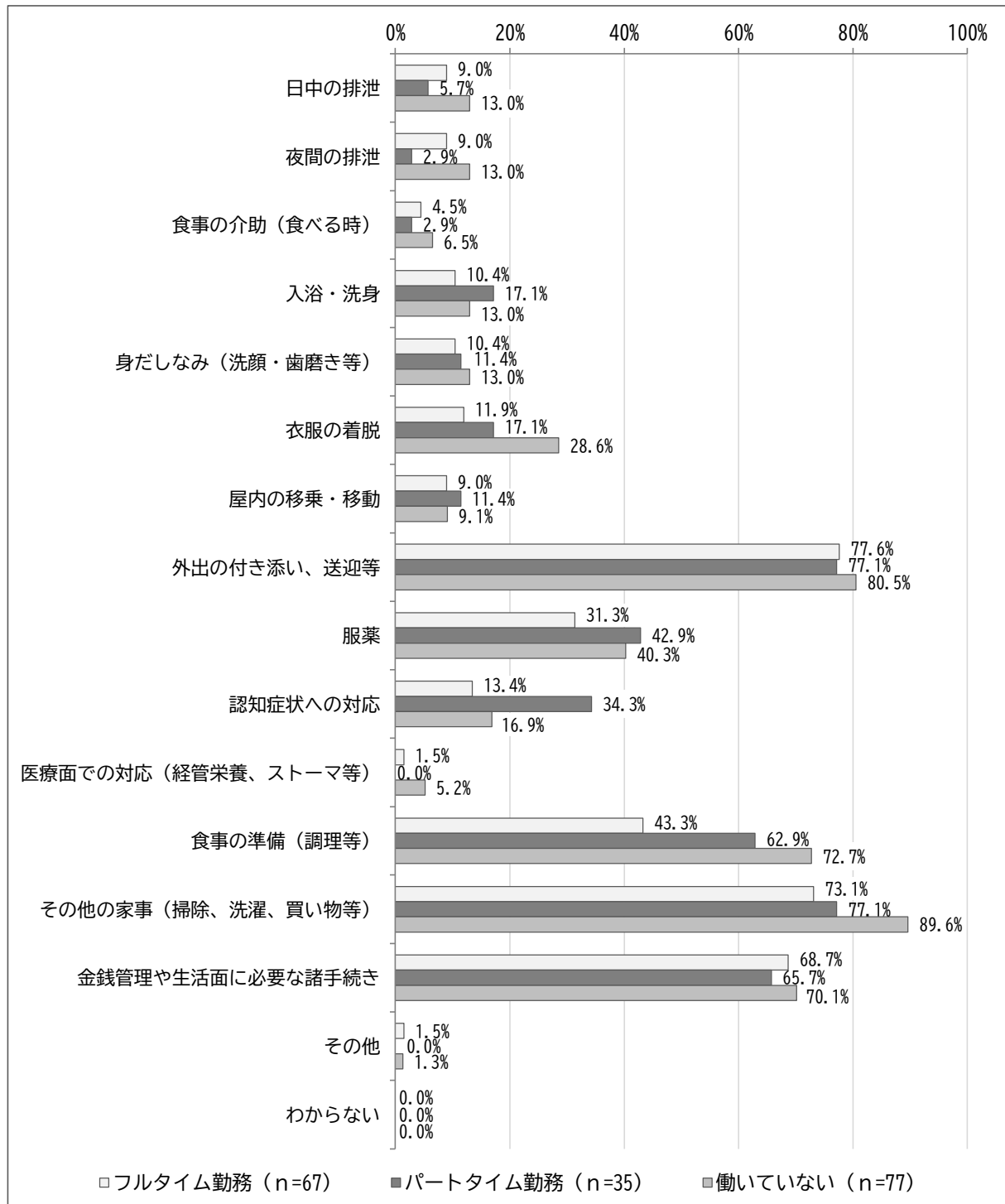
図表 2-8 就労状況別・家族等による介護の頻度



【就労状況別・主な介護者が行っている介護】

主な介護者が行っている介護を就労状況別にみると、「フルタイム勤務」では「外出の付き添い、送迎等」が77.6%、「パートタイム勤務」では「外出の付き添い、送迎等」・「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が77.1%、「働いていない」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が89.6%と最も割合が高くなっています。

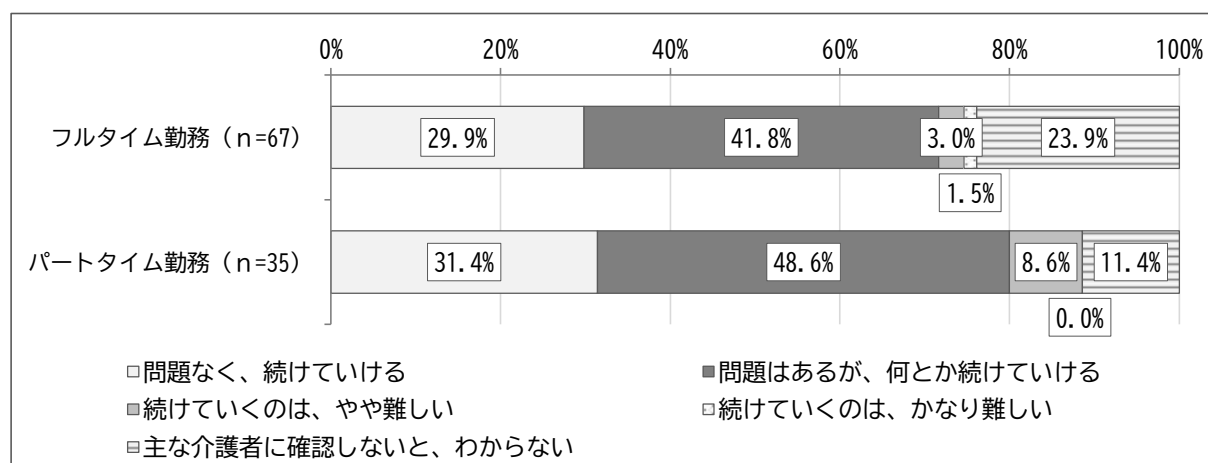
図表 2-9 就労状況別・主な介護者が行っている介護



【就労状況別・就労継続見込み】

介護者の就労継続の可否に係る意識を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が41.8%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が29.9%、「主な介護者に確認しないと、わからない」が23.9%となっています。「パートタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が48.6%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が31.4%、「主な介護者に確認しないと、わからない」が11.4%となっています。

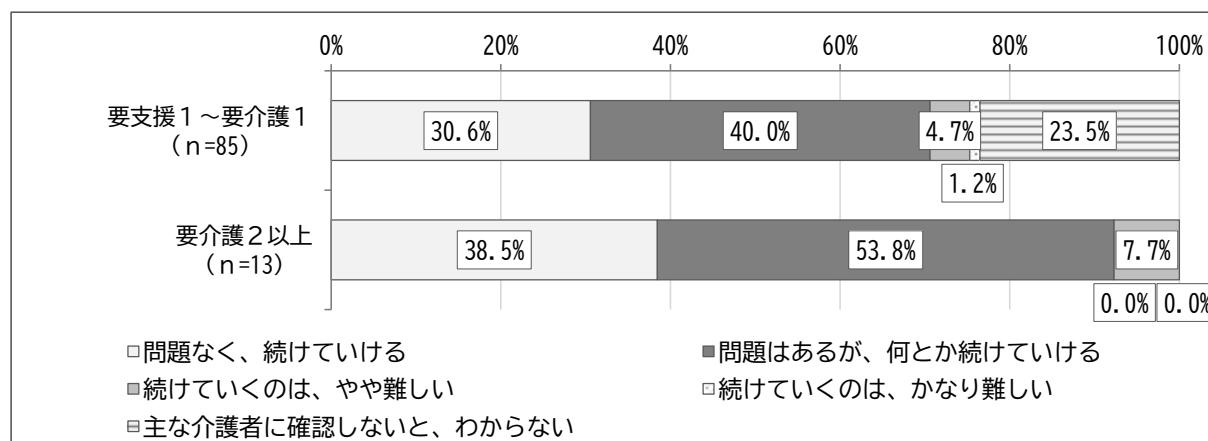
図表 2-10 就労状況別・就労継続見込み



【要介護度別・就労継続見込み（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

介護者の就労継続の可否に係る意識を要介護度別にみると、「要支援1～要介護1」では「問題はあるが、何とか続けていける」が40.0%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が30.6%、「主な介護者に確認しないと、わからない」が23.5%となっています。「要介護2以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が53.8%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が38.5%、「続けていくのは、やや難しい」が7.7%となっています。

図表 2-11 要介護度別・就労継続見込み（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）

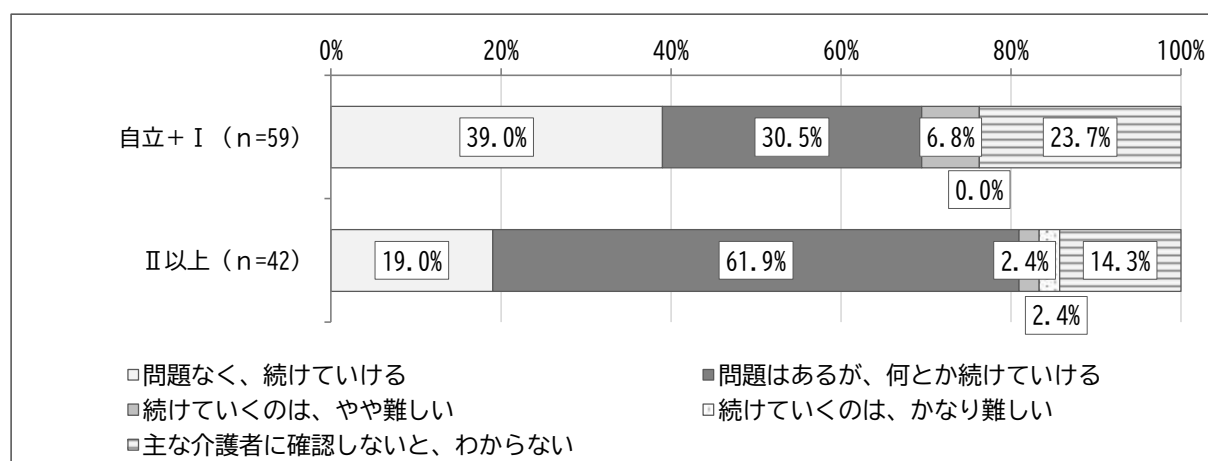


【認知症自立度別・就労継続見込み（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

介護者の就労継続の可否に係る意識を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「問題なく、続けていける」が39.0%と最も割合が高く、次いで「問題はあるが、何とか続けていける」が30.5%、「主な介護者に確認しないと、わからない」が23.7%となっています。

「Ⅱ以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が61.9%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が19.0%、「主な介護者に確認しないと、わからない」が14.3%となっています。

図表 2-12 認知症自立度別・就労継続見込み（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）

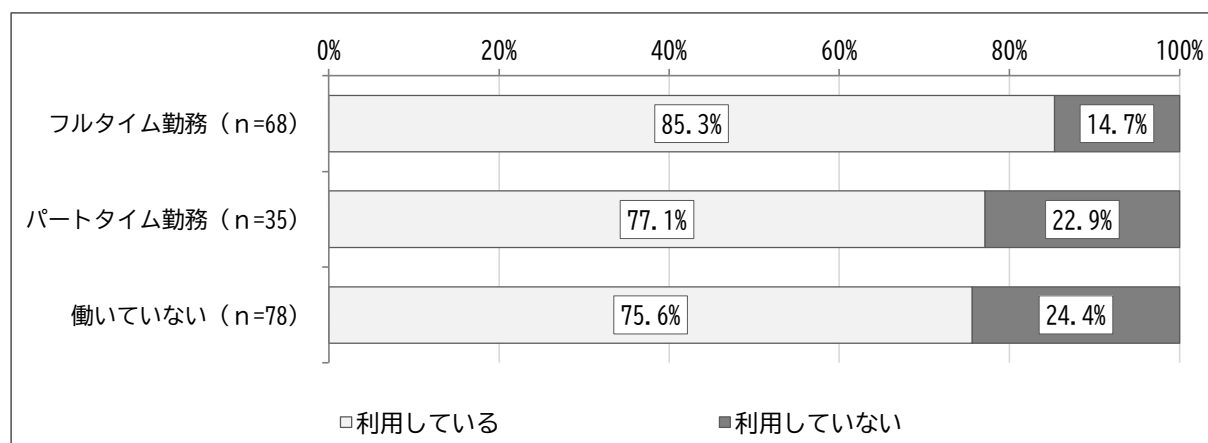


(3) 就労状況、就労継続見込み別の介護保険サービスの利用状況と主な介護者が不安に感じる介護

【就労状況別・介護保険サービス利用の有無】

介護保険サービス利用の有無を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」が85.3%、「パートタイム勤務」が77.1%、「働いていない」が75.6%といずれも、「利用している」が最も割合が高く、半数を大きく超えています。

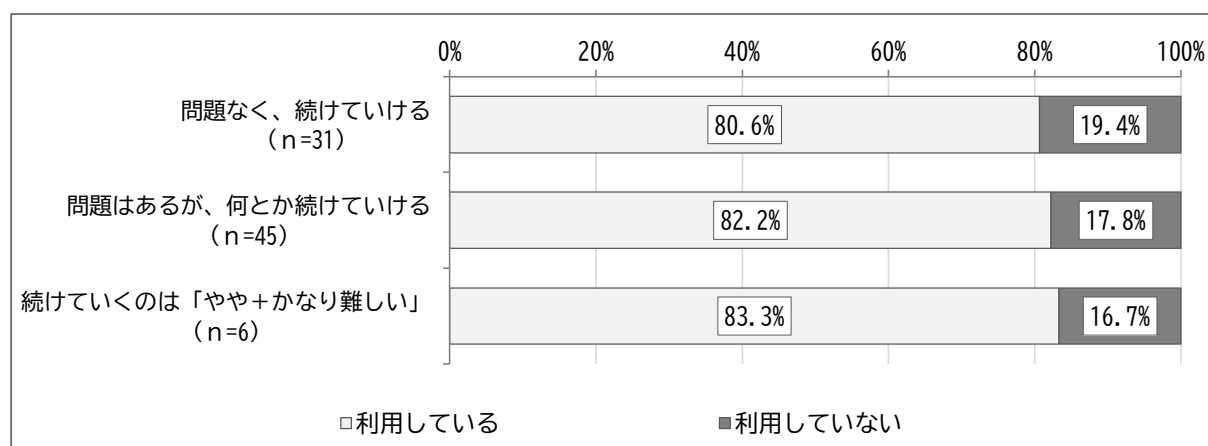
図表 2-13 就労状況別・介護保険サービス利用の有無



【就労継続見込み別・介護保険サービス利用の有無（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

介護保険サービス利用の有無を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「利用している」が80.6%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が19.4%となっています。「問題はあるが、何とか続けていける」では「利用している」が82.2%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が17.8%となっています。「続けていくのは「やや＋かなり難しい」」では「利用している」が83.3%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が16.7%となっています。

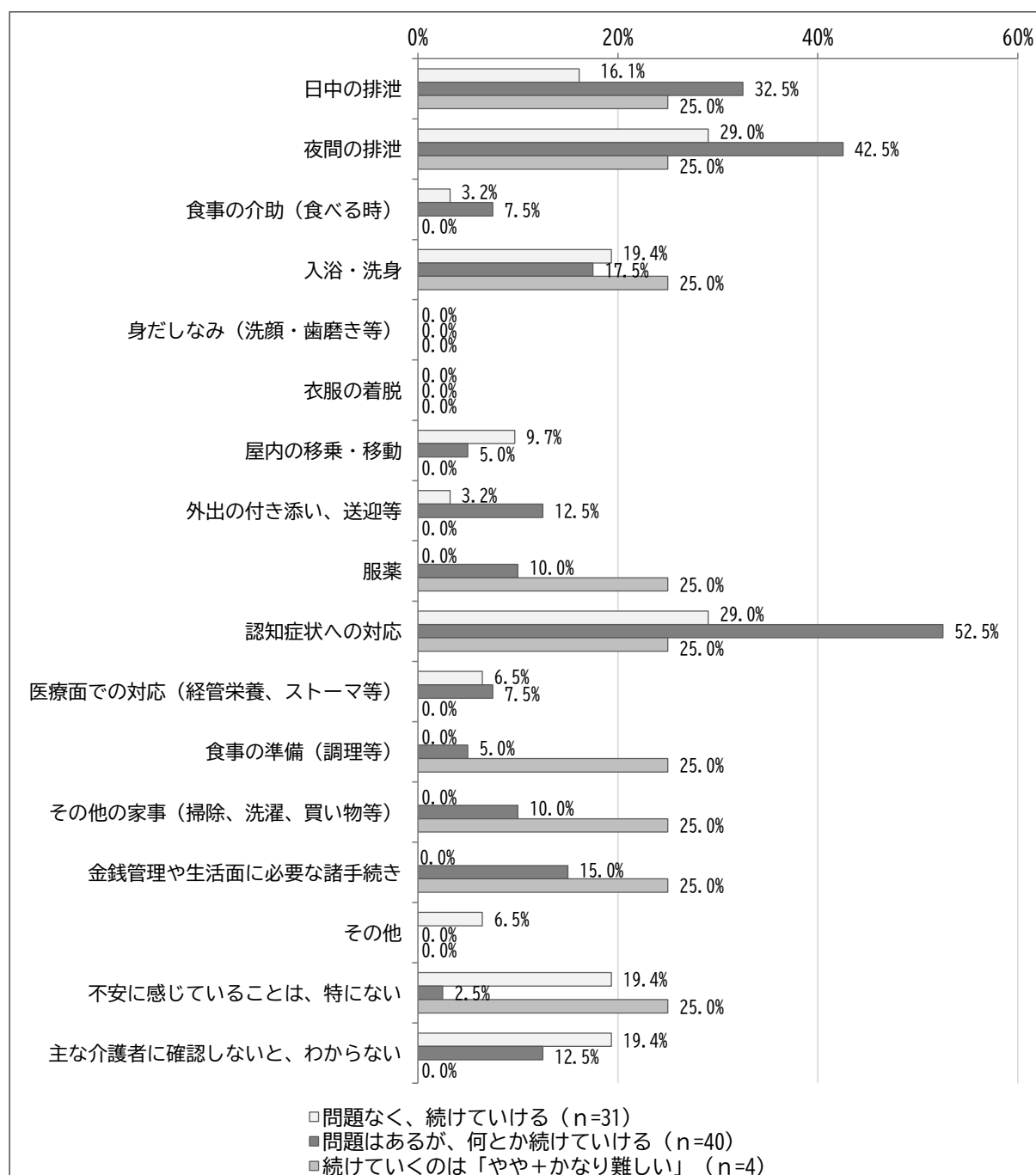
図表 2-14 就労継続見込み別・介護保険サービス利用の有無
（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



【就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

介護者が不安に感じる介護を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「夜間の排泄」・「認知症状への対応」が29.0%と最も割合が高く、「問題はあるが、何とか続けていける」では「認知症状への対応」が52.5%と最も割合が高くなっています。「続けていくのは「やや＋かなり難しい」」では「日中の排泄」・「夜間の排泄」・「入浴・洗身」・「服薬」・「認知症状への対応」・「食事の準備（調理等）」・「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」・「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」・「不安に感じていることは、特にない」が25.0%と最も割合が高くなっています。

図表 2-15 就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護
（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）

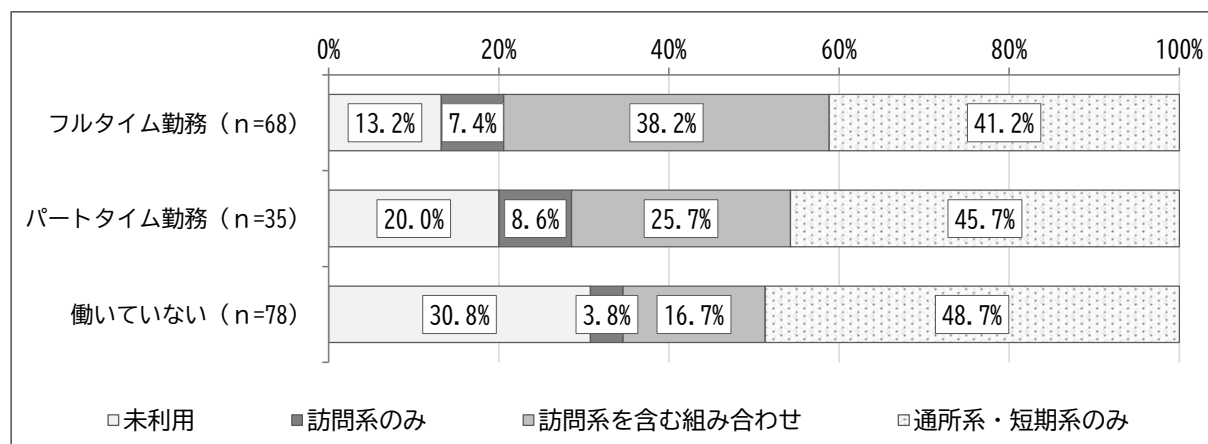


(4) 就労状況のサービス利用の組み合わせの状況

【就労状況別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを介護者の勤務形態別にみると、いずれの勤務形態においても、「通所系・短期系のみ」の割合が最も高くなっています。「訪問系を含む組み合わせ」については、「フルタイム勤務」で38.2%と他の勤務形態に比べて割合が高くなっています。

図表 2-16 就労状況別・サービス利用の組み合わせ

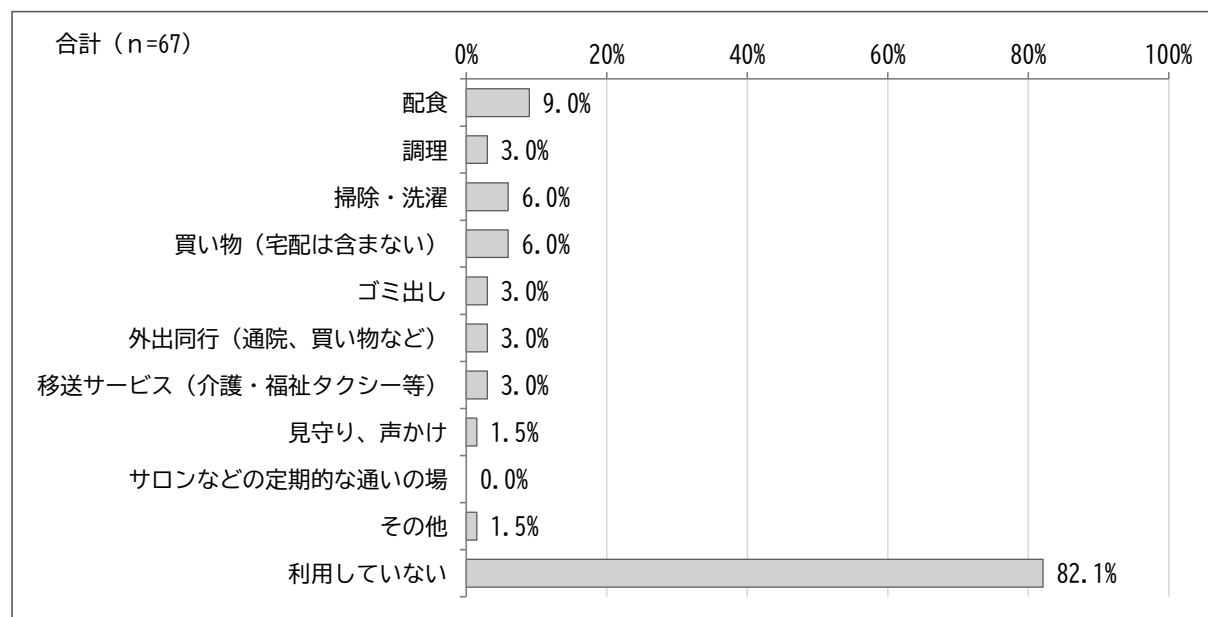


(5) 就労状況別の保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況

【利用している保険外の支援・サービス（フルタイム勤務）】

利用している保険外の支援・サービスを「フルタイム勤務」の介護者の場合でみると、「利用していない」の割合が82.1%と最も高くなっており、次いで、「配食」が9.0%、「掃除・洗濯」・「買い物（宅配は含まない）」が6.0%となっています。

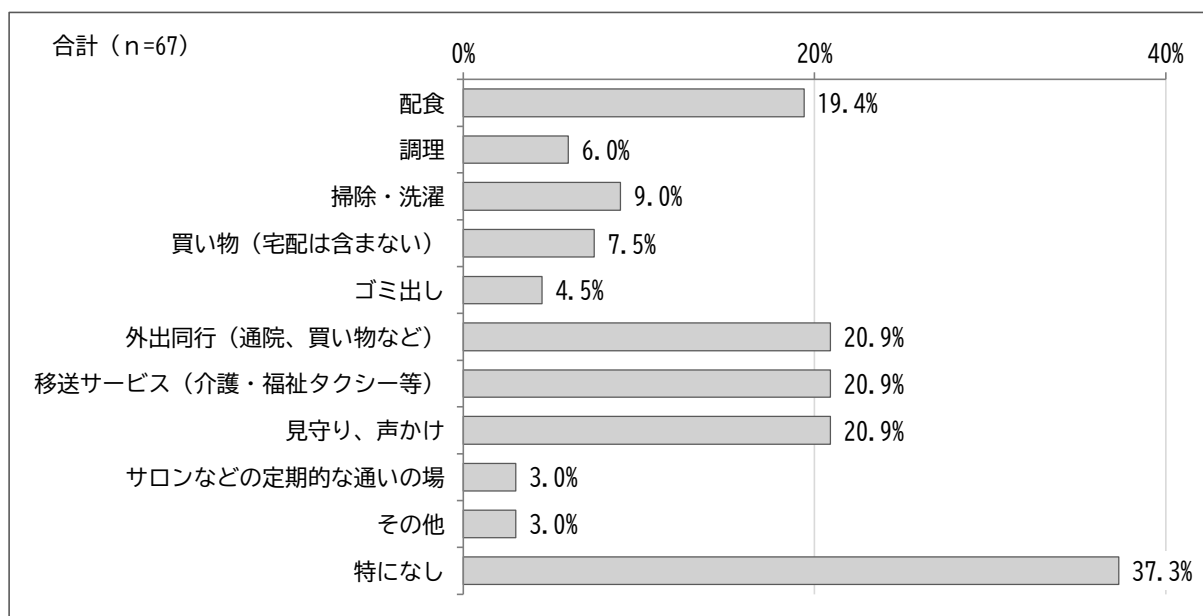
図表 2-17 利用している保険外の支援・サービス（フルタイム勤務）



【在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（フルタイム勤務）】

在宅生活の継続に必要と感じる支援サービスを「フルタイム勤務」の介護者の場合でみると、「特になし」の割合が37.3%と最も高くなっており、次いで、「外出同行（通院、買い物など）」・「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」・「見守り、声かけ」が20.9%、「配食」が19.4%となっています。

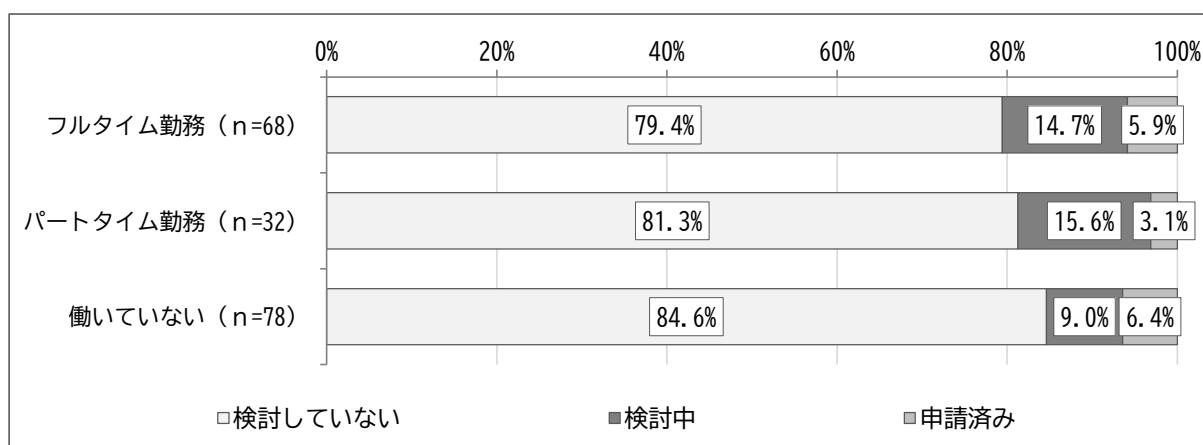
図表 2-18 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（フルタイム勤務）



【就労状況別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を介護者の勤務形態別にみると、いずれの勤務形態においても、「検討していない」の割合が半数を大きく超えて最も高く、次いで「検討中」、「申請済み」の順となっています。

図表 2-19 就労状況別・施設等検討の状況



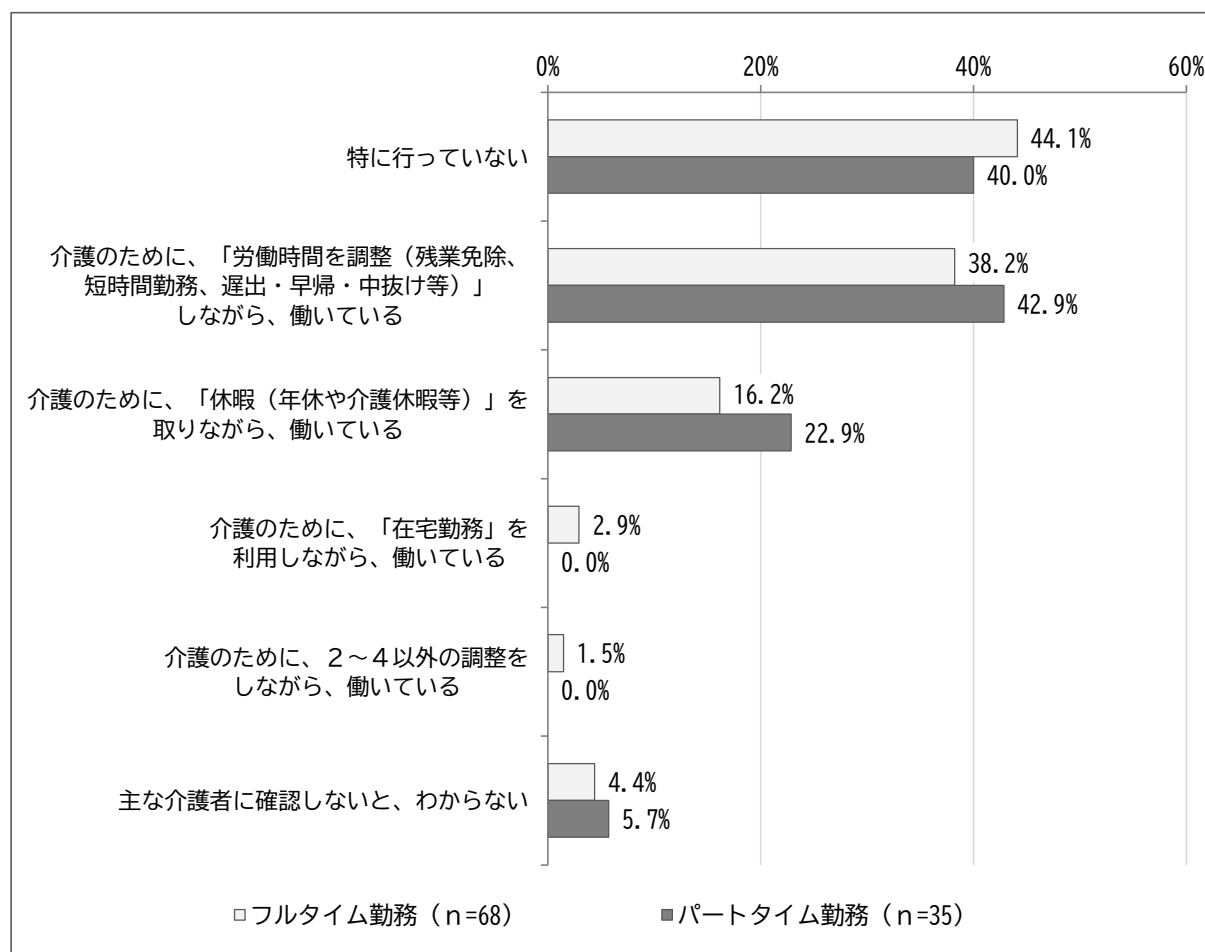
(6) 就労状況別の介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援

【就労状況別・介護のための働き方の調整】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「特に行っていない」が44.1%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が38.2%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が16.2%となっています。

「パートタイム勤務」では「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が42.9%と最も割合が高く、次いで「特に行っていない」が40.0%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が22.9%となっています。

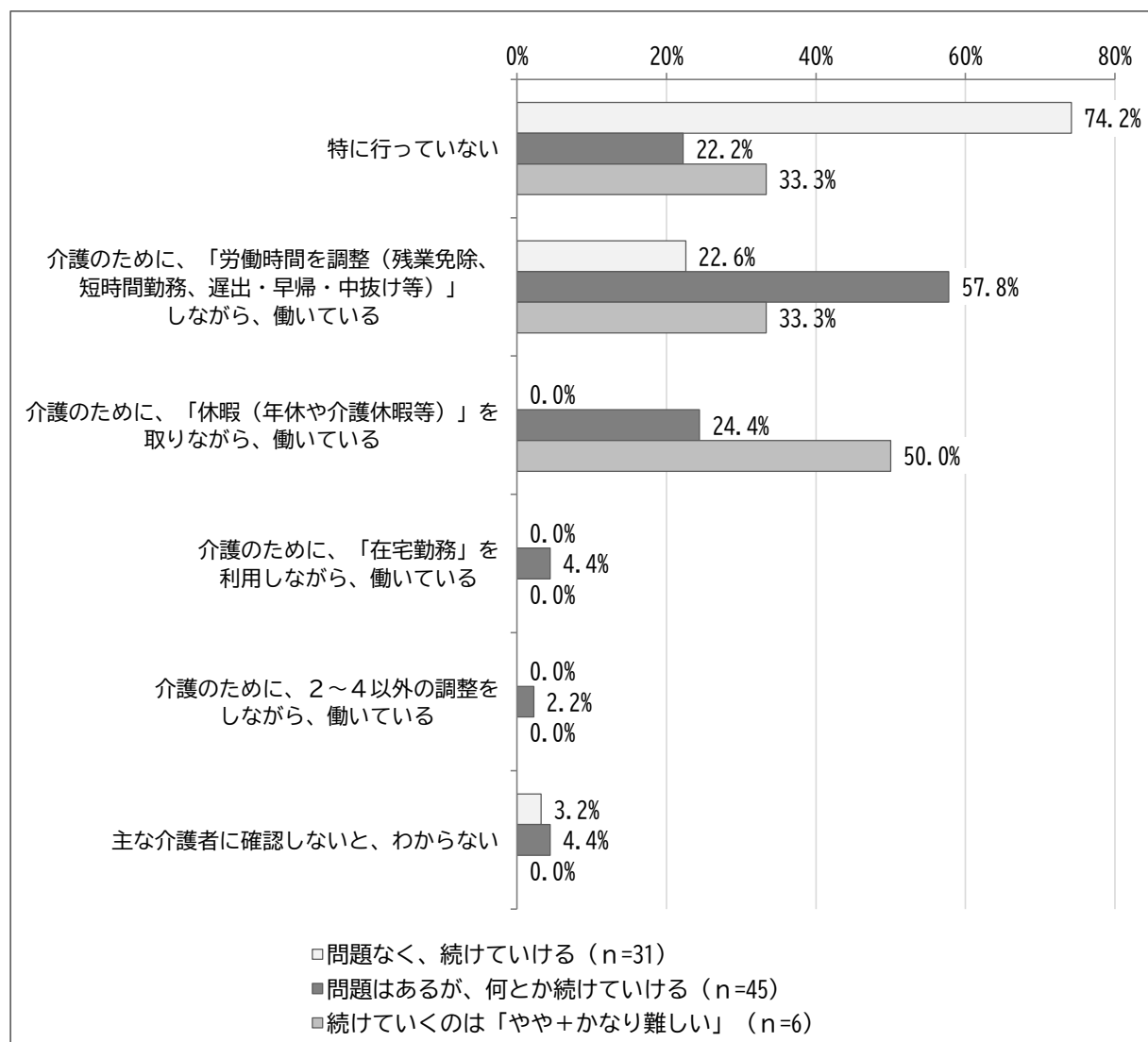
図表 2-20 就労状況別・介護のための働き方の調整



【就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「特に行っていない」が74.2%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が22.6%、「主な介護者に確認しないと、わからない」が3.2%となっています。「問題はあるが、何とか続けていける」では「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が57.8%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が24.4%、「特に行っていない」が22.2%となっています。「続けていくのは「やや＋かなり難しい」」では「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が50.0%と最も割合が高く、次いで「特に行っていない」・「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が33.3%となっています。

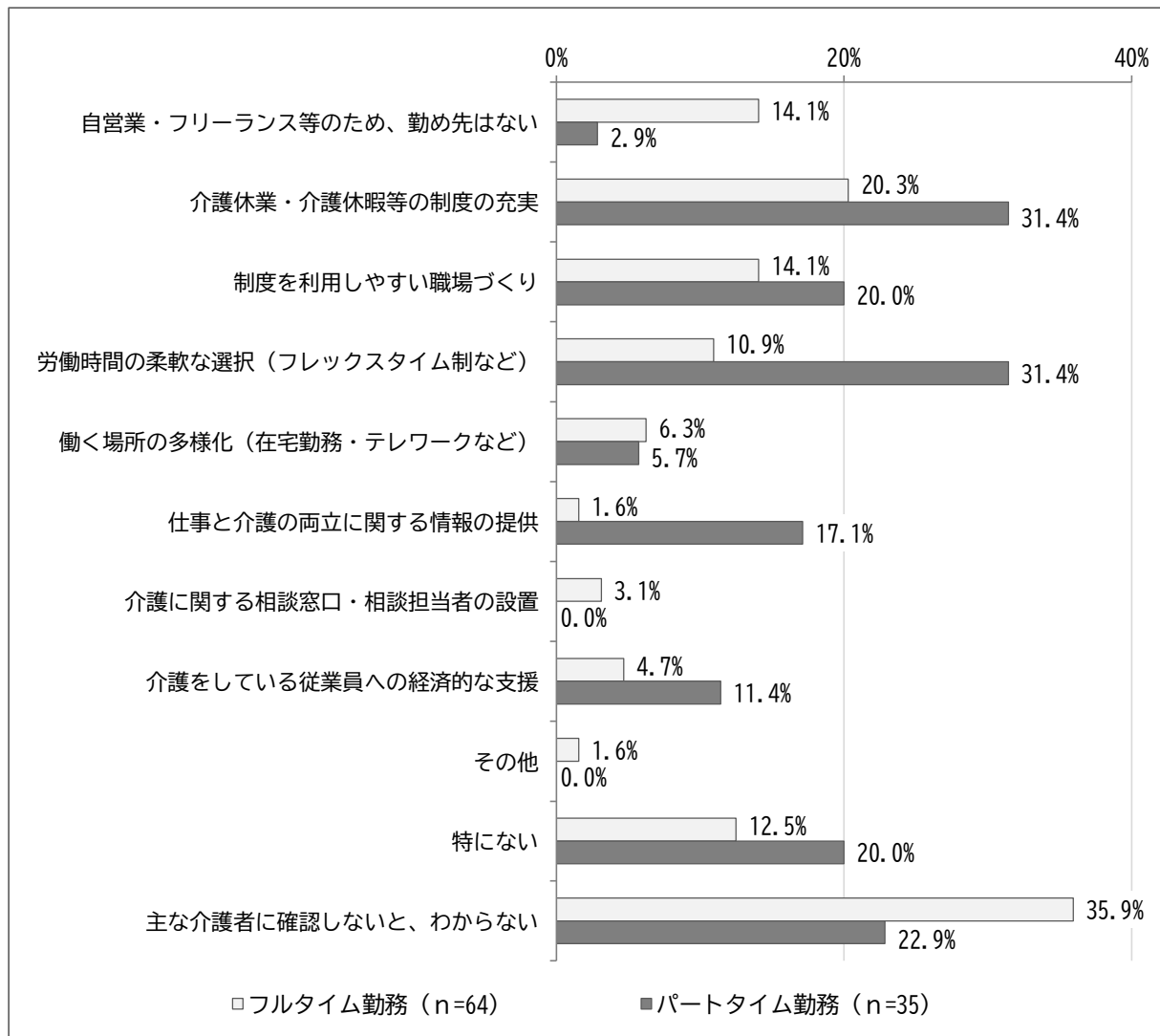
図表 2-21 就労継続見込み別・介護のための働き方の調整
（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



【就労状況別・効果的な勤め先からの支援】

効果的な勤め先からの支援を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「主な介護者に確認しないと、わからない」が35.9%と最も割合が高く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が20.3%、「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」・「制度を利用しやすい職場づくり」が14.1%となっています。「パートタイム勤務」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」・「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が31.4%と最も割合が高く、次いで「主な介護者に確認しないと、わからない」が22.9%、「制度を利用しやすい職場づくり」・「特にない」が20.0%となっています。

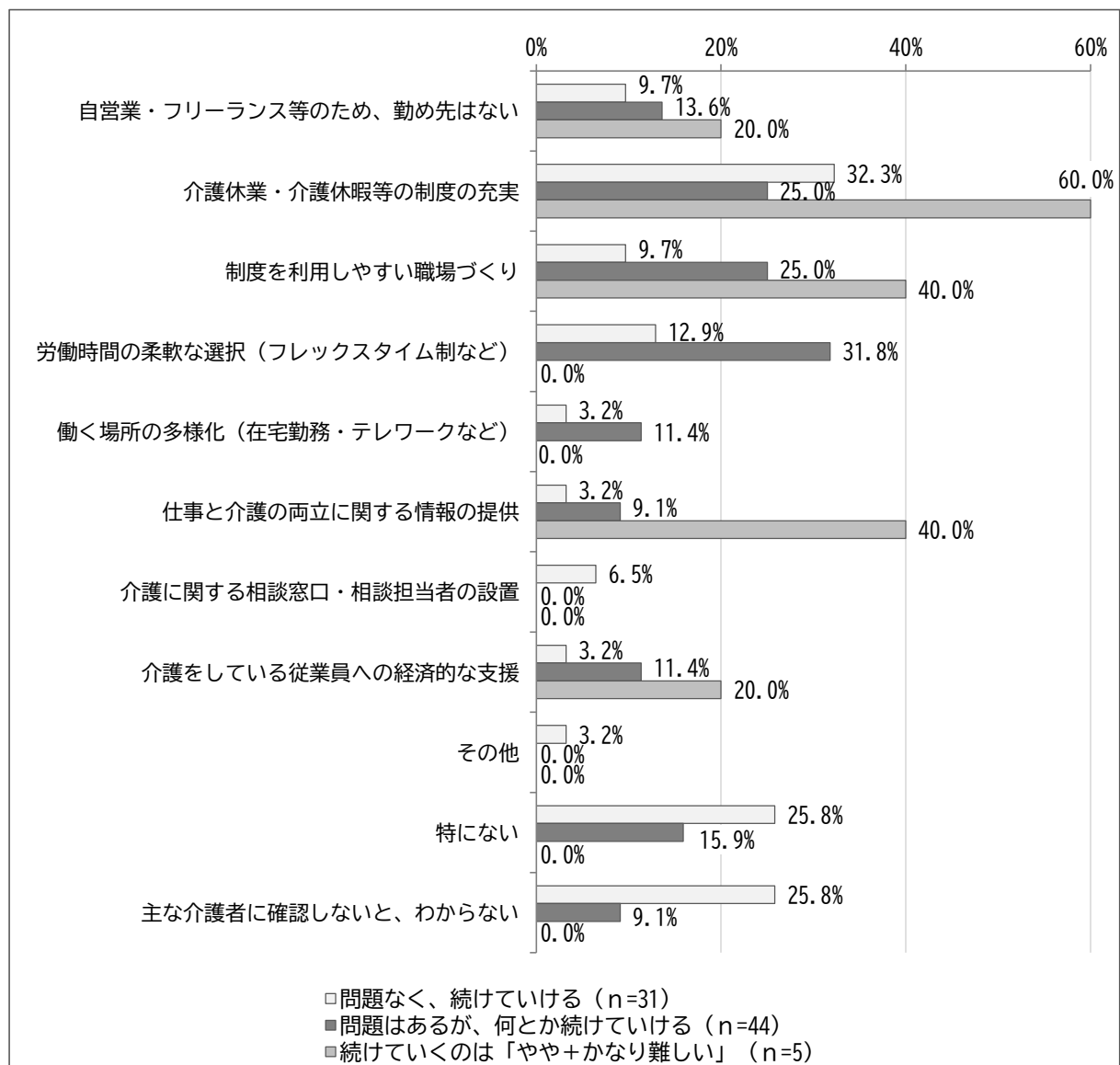
図表 2-22 就労状況別・効果的な勤め先からの支援



【就労継続見込み別・効果的な勤め先からの支援（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が32.3%と最も割合が高く、次いで「特にない」・「主な介護者に確認しないと、わからない」が25.8%となっています。「問題はあるが、何とか続けていける」では「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が31.8%と最も割合が高く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」・「制度を利用しやすい職場づくり」が25.0%となっています。「続けていくのは「やや＋かなり難しい」」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が60.0%と最も割合が高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」・「仕事と介護の両立に関する情報の提供」が40.0%となっています。

図表 2-23 就労継続見込み別・効果的な勤め先からの支援
（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



3 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

3.1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、特に「保険外の支援・サービス」に焦点を当てた集計を行っています。ここで把握された現状やニーズは、生活支援体制整備事業の推進のために活用していくことなどが考えられます。

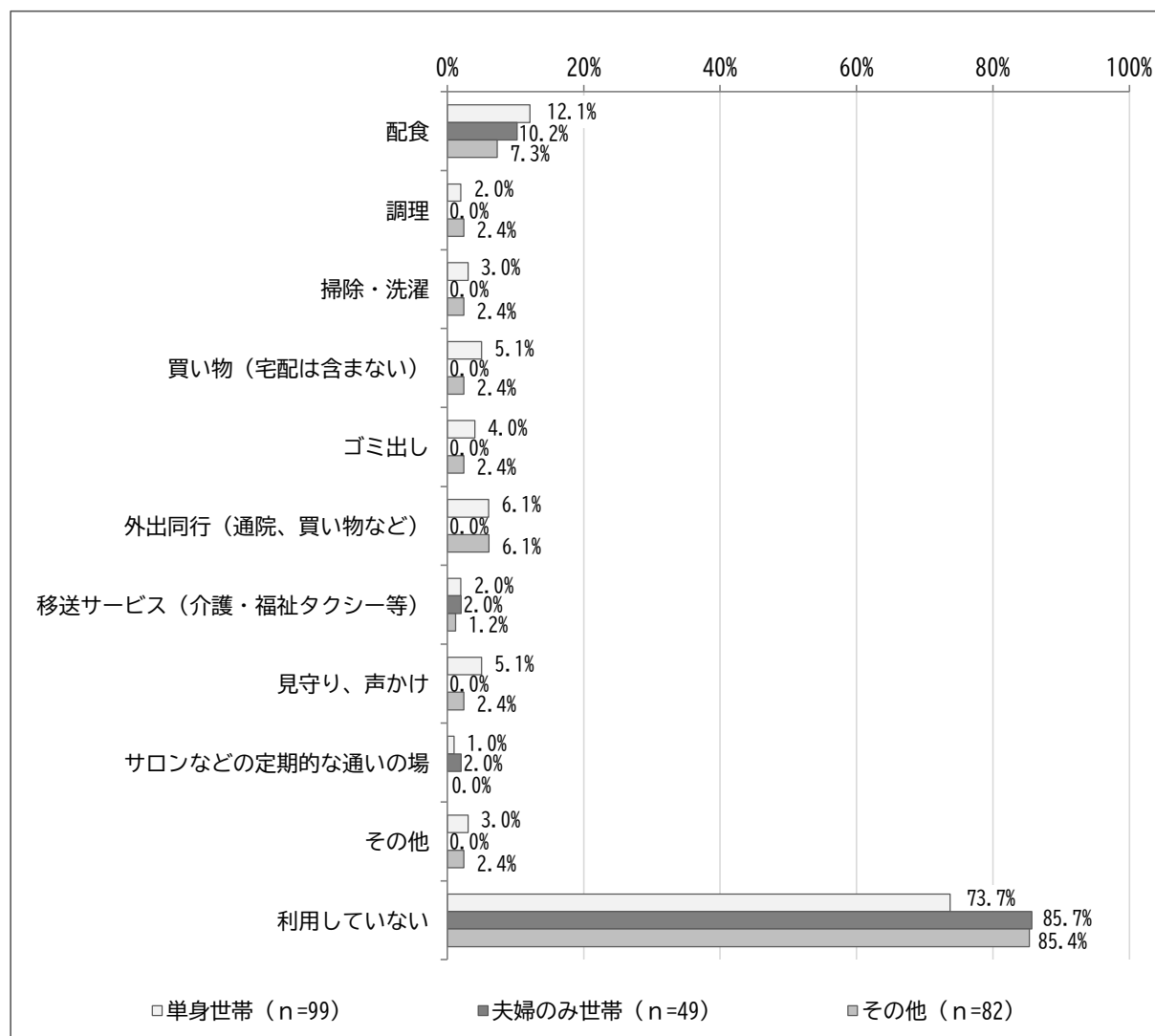
3.2 集計結果の傾向

(1) 世帯類型別の保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス

【世帯類型別・保険外の支援・サービスの利用状況】

保険外の支援・サービスの利用状況を世帯類型別にみると、いずれの世帯類型においても「利用していない」の割合が最も高くなっています。

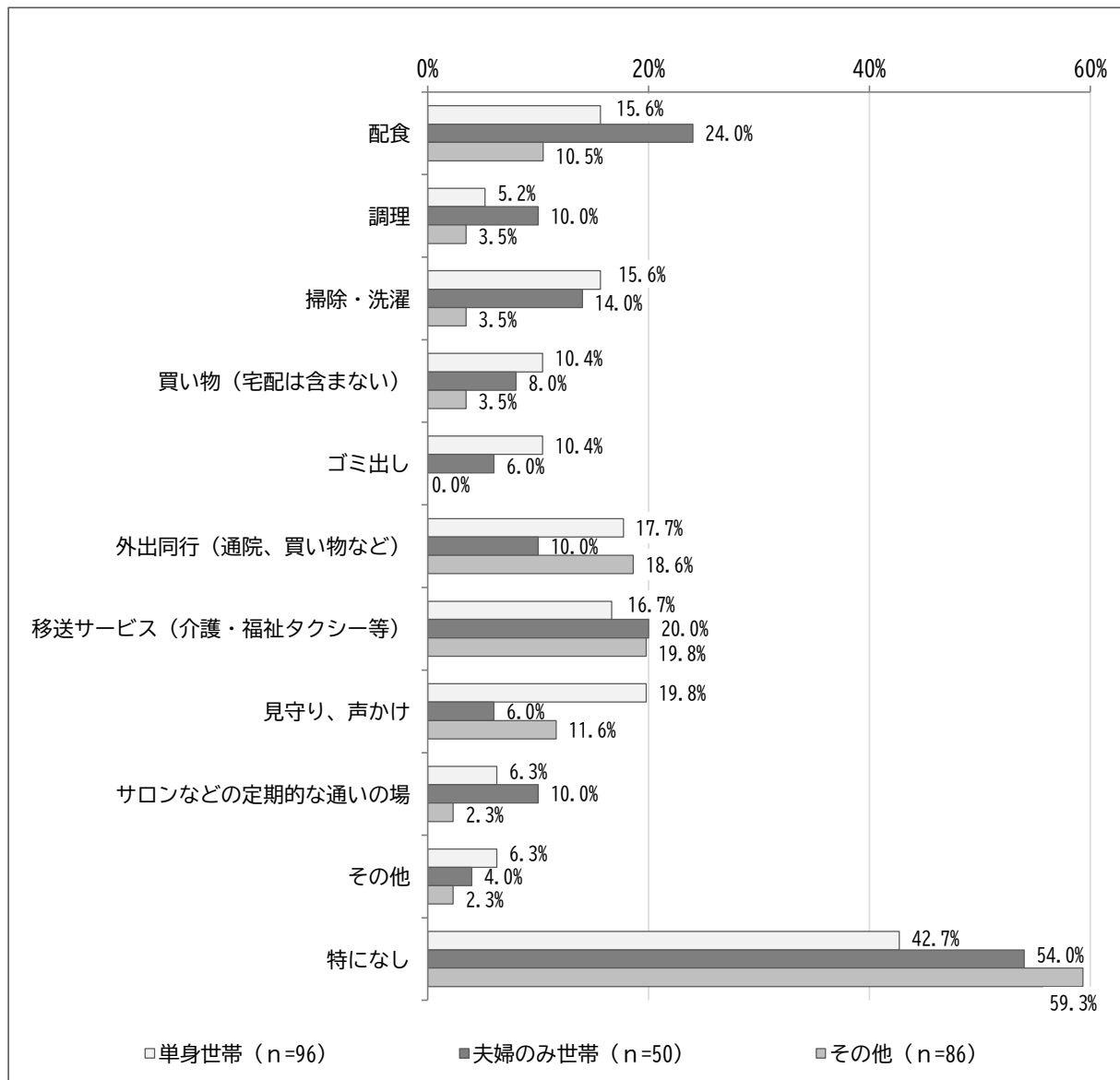
図表 3-1 世帯類型別・保険外の支援・サービスの利用状況



【世帯類型別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「特になし」が42.7%と最も割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が19.8%、「外出同行（通院、買い物など）」が17.7%となっています。「夫婦のみ世帯」では「特になし」が54.0%と最も割合が高く、次いで「配食」が24.0%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が20.0%となっています。「その他」では「特になし」が59.3%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が19.8%、「外出同行（通院、買い物など）」が18.6%となっています。

図表 3-2 世帯類型別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

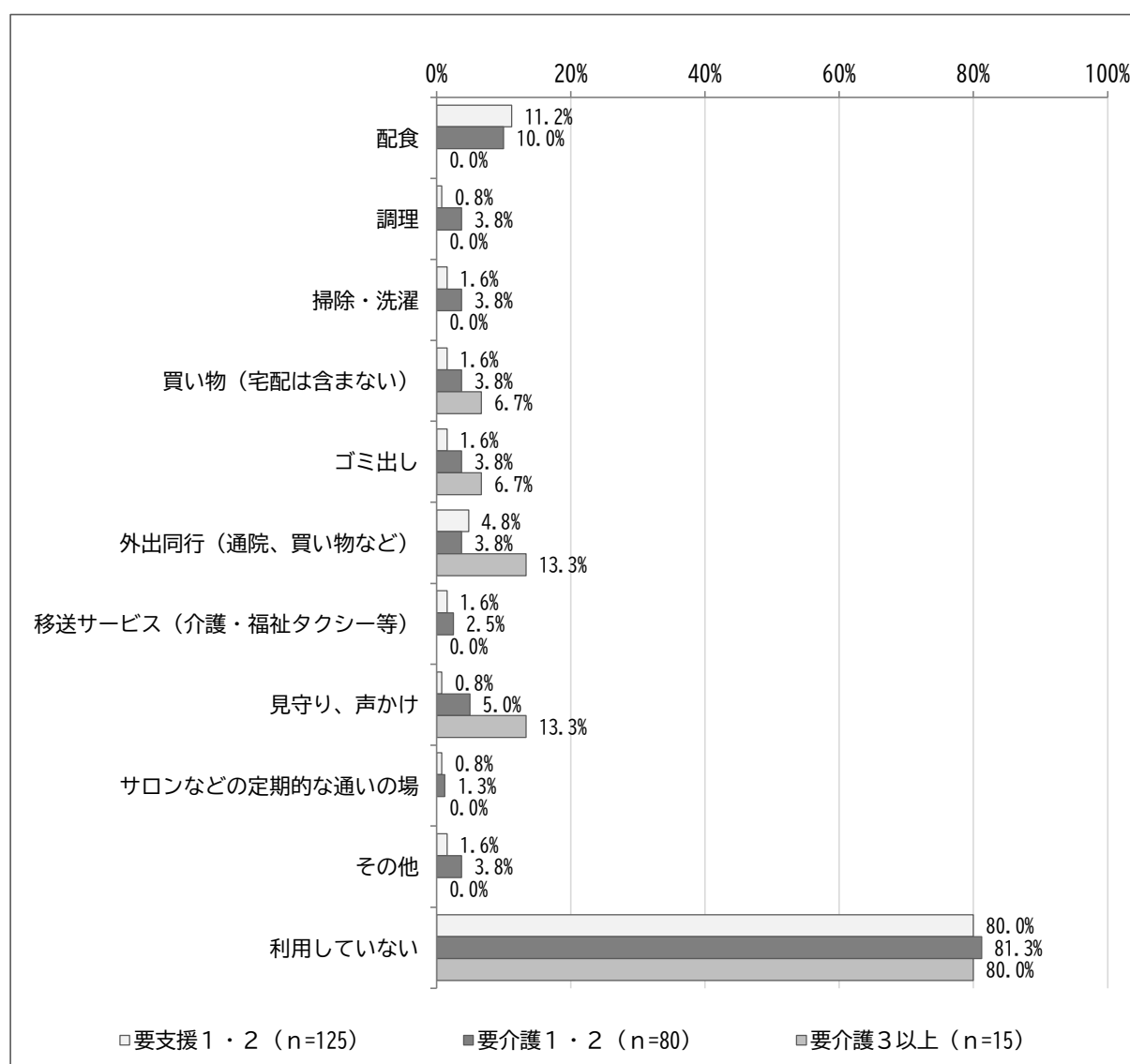


(2) 世帯類型×要介護度×保険外の支援・サービスの利用状況

【要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況】

保険外の支援・サービスの利用状況を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が80.0%と最も割合が高く、次いで「配食」が11.2%、「外出同行（通院、買い物など）」が4.8%となっています。「要介護1・2」では「利用していない」が81.3%と最も割合が高く、次いで「配食」が10.0%、「見守り、声かけ」が5.0%となっています。「要介護3以上」では「利用していない」が80.0%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」・「見守り、声かけ」が13.3%、「買い物（宅配は含まない）」・「ゴミ出し」が6.7%となっています。

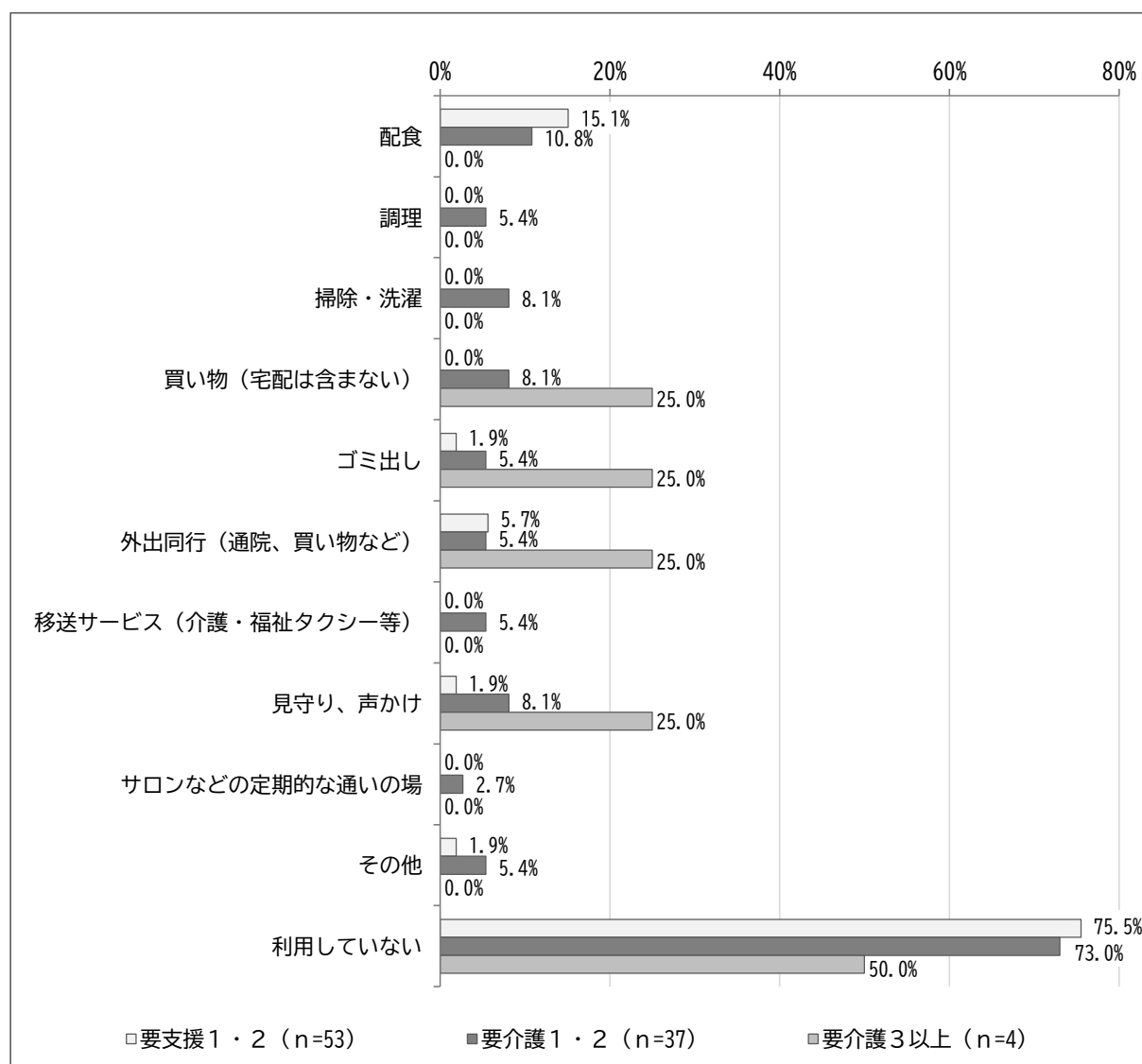
図表 3-3 要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況



【要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（単身世帯）】

単身世帯における、保険外の支援・サービスの利用状況を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が75.5%と最も割合が高く、次いで「配食」が15.1%、「外出同行（通院、買い物など）」が5.7%となっています。「要介護1・2」では「利用していない」が73.0%と最も割合が高く、次いで「配食」が10.8%、「掃除・洗濯」「買い物（宅配は含まない）」「見守り、声かけ」が8.1%となっています。「要介護3以上」では「利用していない」が50.0%と最も割合が高く、次いで「買い物（宅配は含まない）」「ゴミ出し」「外出同行（通院、買い物など）」「見守り、声かけ」が25.0%となっています。

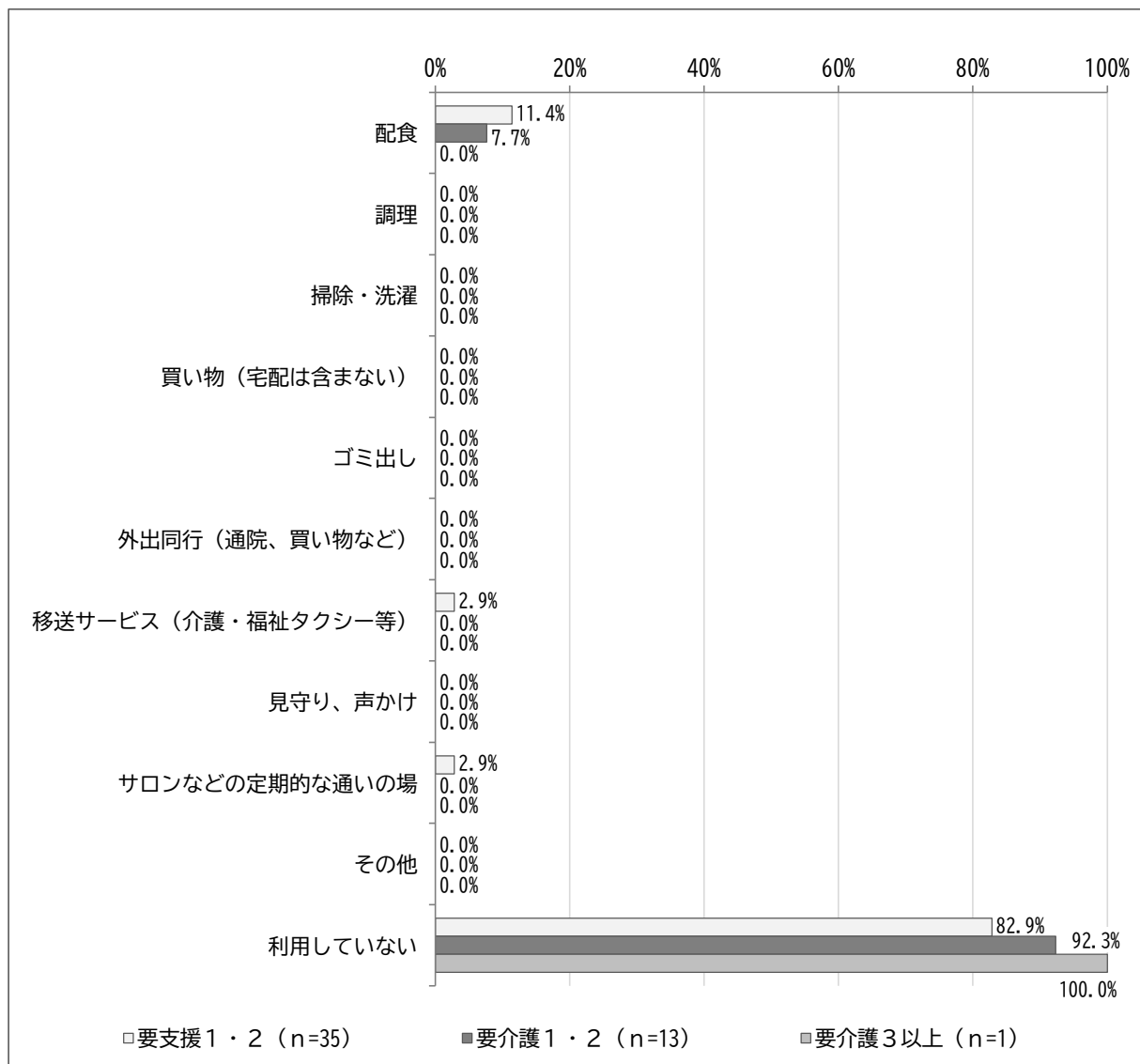
図表 3-4 要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（単身世帯）



【要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（夫婦のみ世帯）】

夫婦のみ世帯における保険外の支援・サービスの利用状況を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が82.9%と最も割合が高く、次いで「配食」が11.4%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」・「サロンなどの定期的な通いの場」が2.9%となっています。「要介護1・2」では「利用していない」が92.3%と最も割合が高く、次いで「配食」が7.7%となっています。「要介護3以上」では「利用していない」が100.0%となっています。

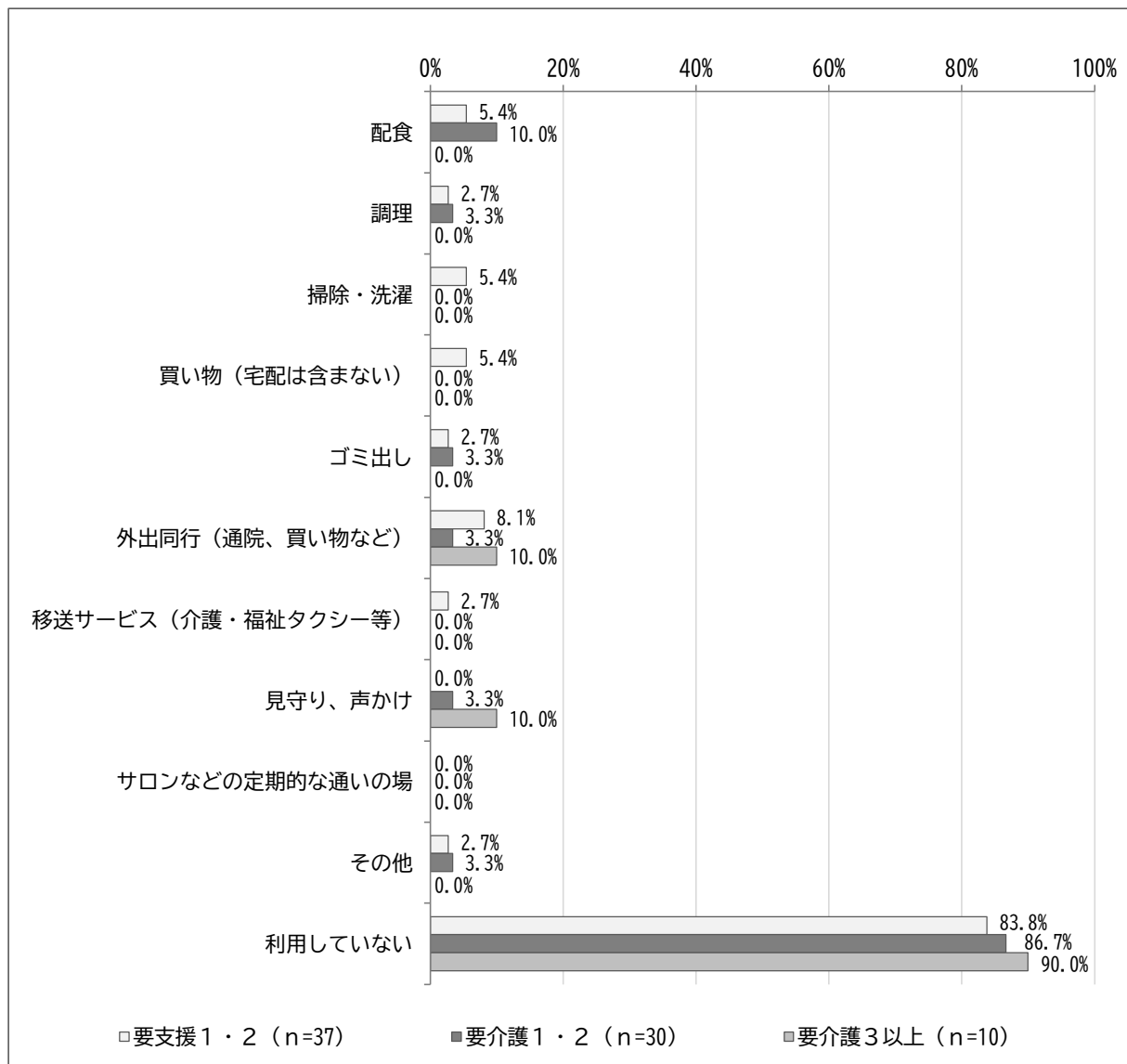
図表 3-5 要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（夫婦のみ世帯）



【要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（その他世帯）】

その他の世帯における、保険外の支援・サービスの利用状況を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が83.8%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が8.1%、「配食」・「掃除・洗濯」・「買い物（宅配は含まない）」が5.4%となっています。「要介護1・2」では「利用していない」が86.7%と最も割合が高く、次いで「配食」が10.0%、「調理」・「ゴミ出し」・「外出同行（通院、買い物など）」・「見守り、声かけ」・「その他」が3.3%となっています。「要介護3以上」では「利用していない」が90.0%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」・「見守り、声かけ」が10.0%となっています。

図表 3-6 要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（その他世帯）

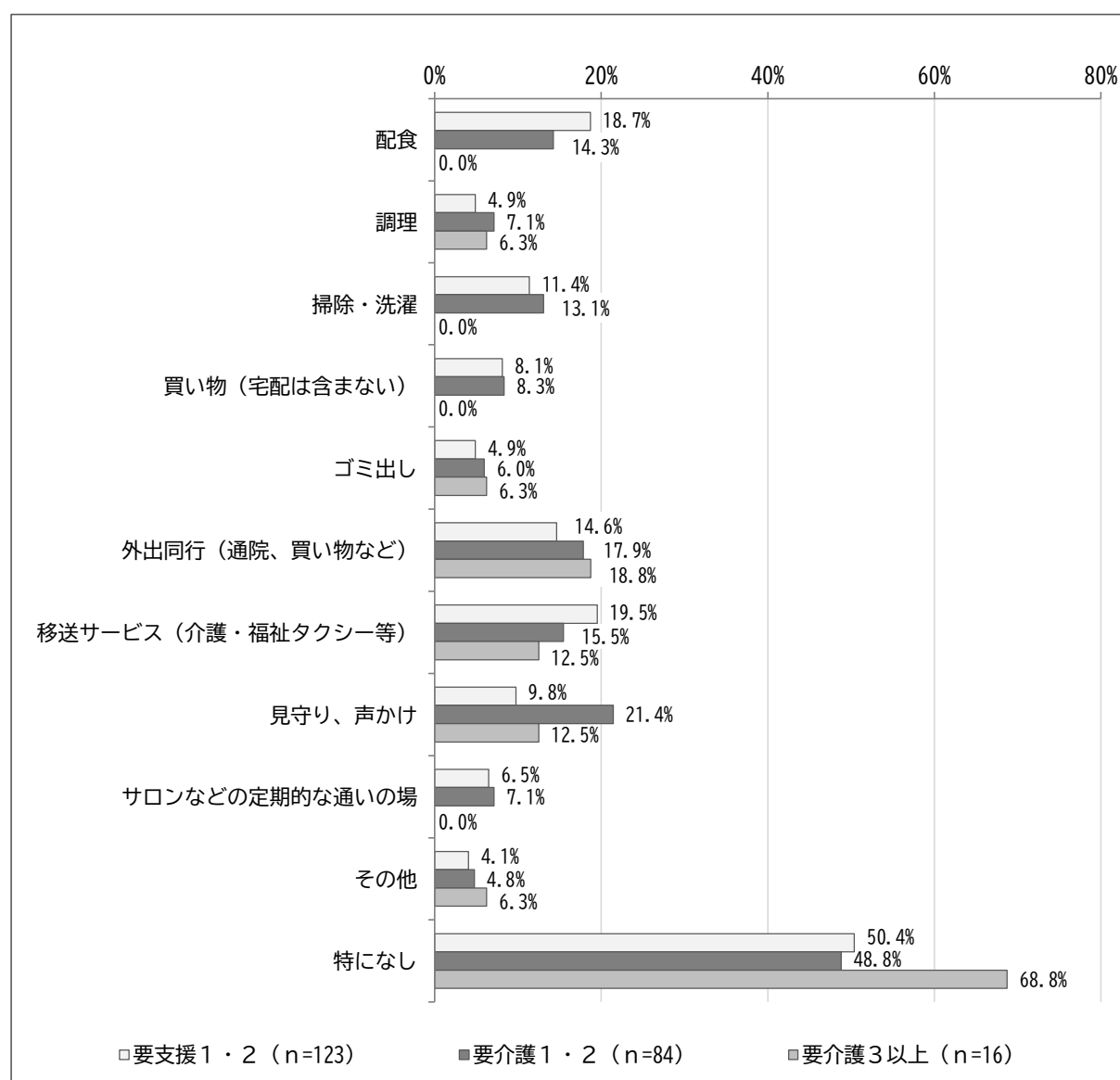


(3) 世帯類型×要介護度×在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「特になし」が50.4%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が19.5%、「配食」が18.7%となっています。「要介護1・2」では「特になし」が48.8%と最も割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が21.4%、「外出同行（通院、買い物など）」が17.9%となっています。「要介護3以上」では「特になし」が68.8%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が18.8%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」・「見守り、声かけ」が12.5%となっています。

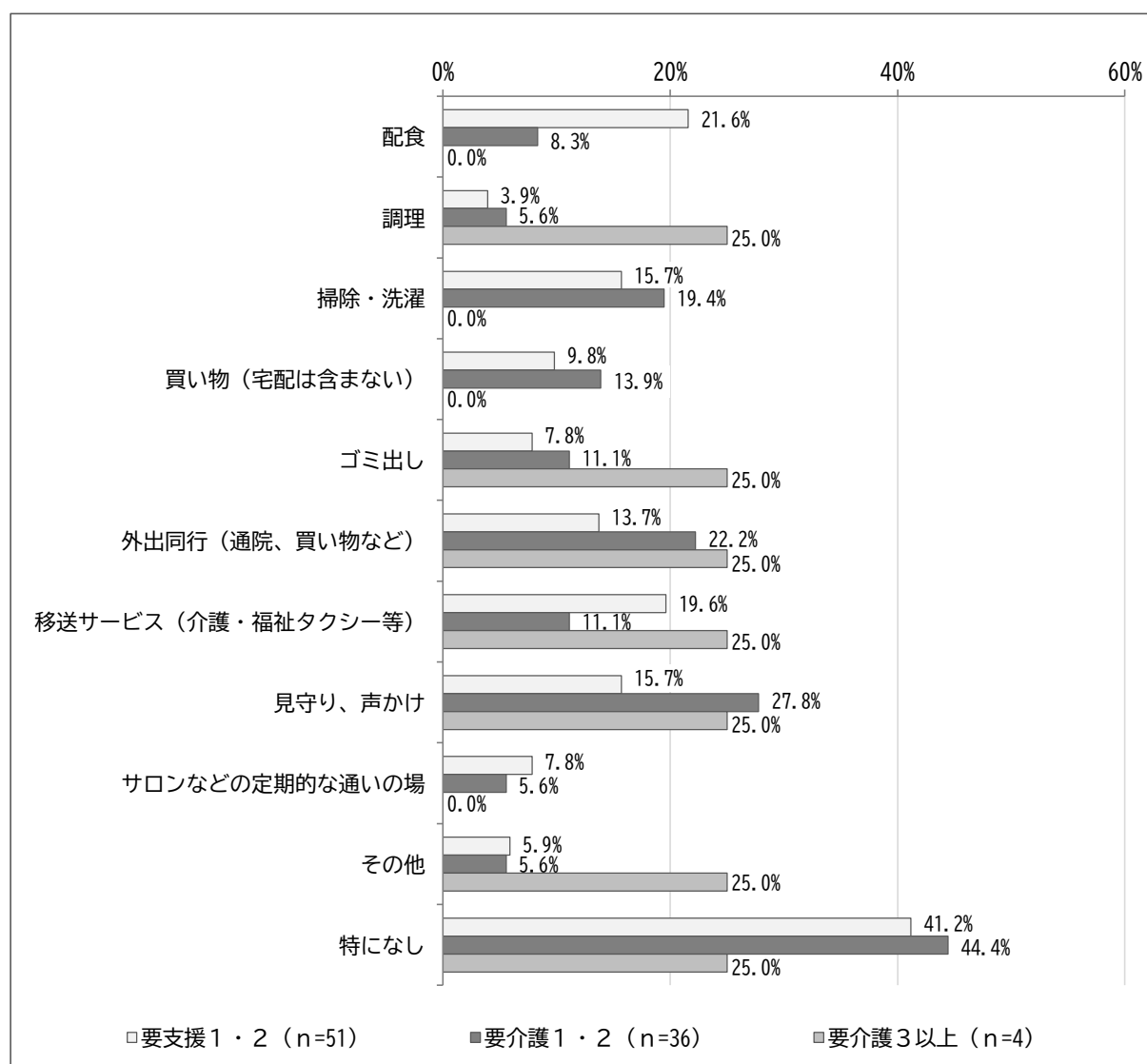
図表 3-7 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）】

単身世帯における、保険外の支援・サービスの必要性を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「特になし」が41.2%と最も割合が高く、次いで「配食」が21.6%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が19.6%となっています。「要介護1・2」では「特になし」が44.4%と最も割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が27.8%、「外出同行（通院、買い物など）」が22.2%となっています。「要介護3以上」では「調理」・「ゴミ出し」・「外出同行（通院、買い物など）」・「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」・「見守り、声かけ」・「その他」・「特になし」が25.0%と最も割合が高くなっています。

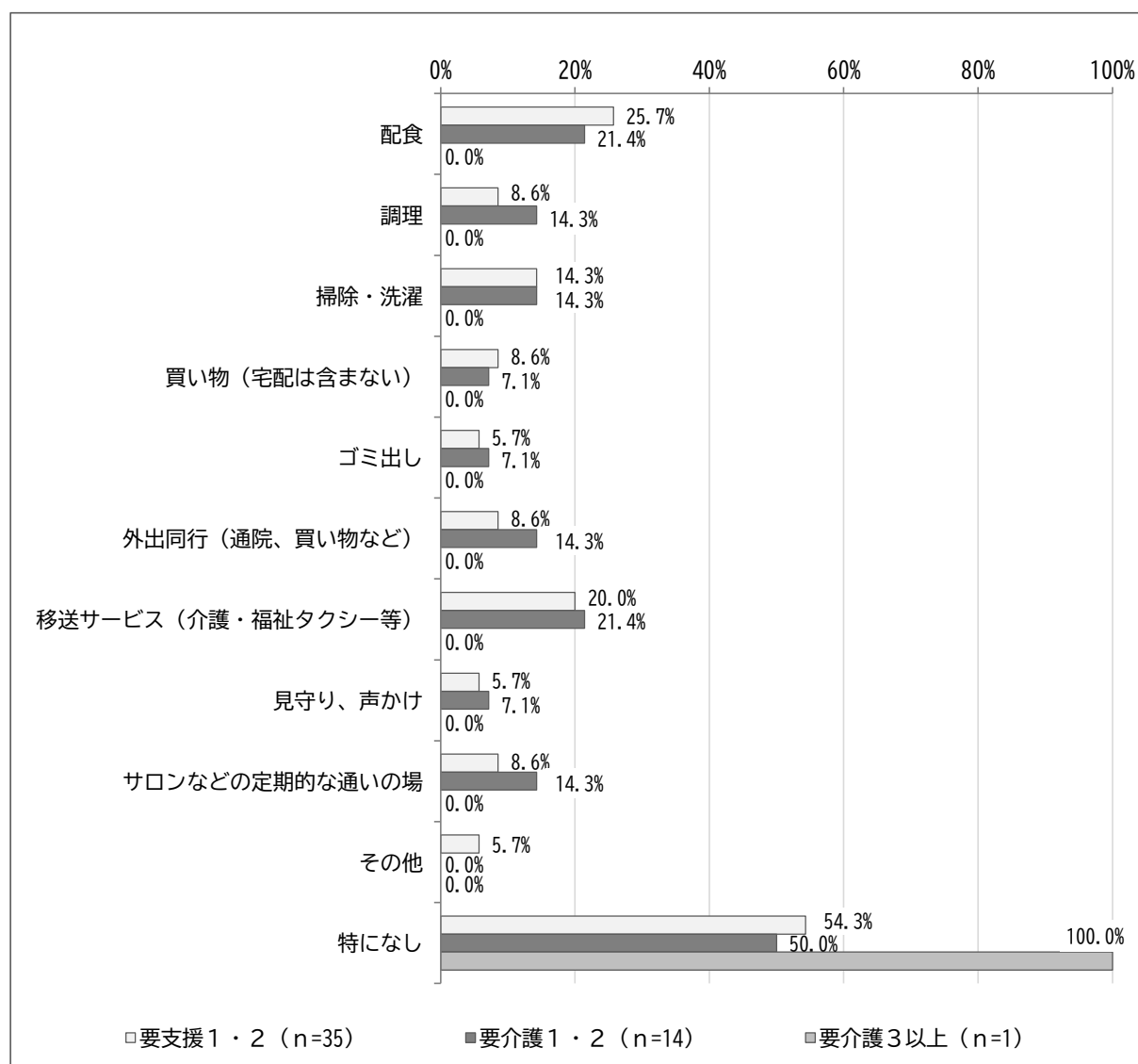
図表 3-8 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）



【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）】

夫婦のみ世帯における、保険外の支援・サービスの必要性を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「特になし」が54.3%と最も割合が高く、次いで「配食」が25.7%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が20.0%となっています。「要介護1・2」では「特になし」が50.0%と最も割合が高く、次いで「配食」・「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が21.4%、「調理」・「掃除・洗濯」・「外出同行（通院、買い物など）」・「サロンなどの定期的な通いの場」が14.3%となっています。「要介護3以上」では「特になし」が100.0%となっています。

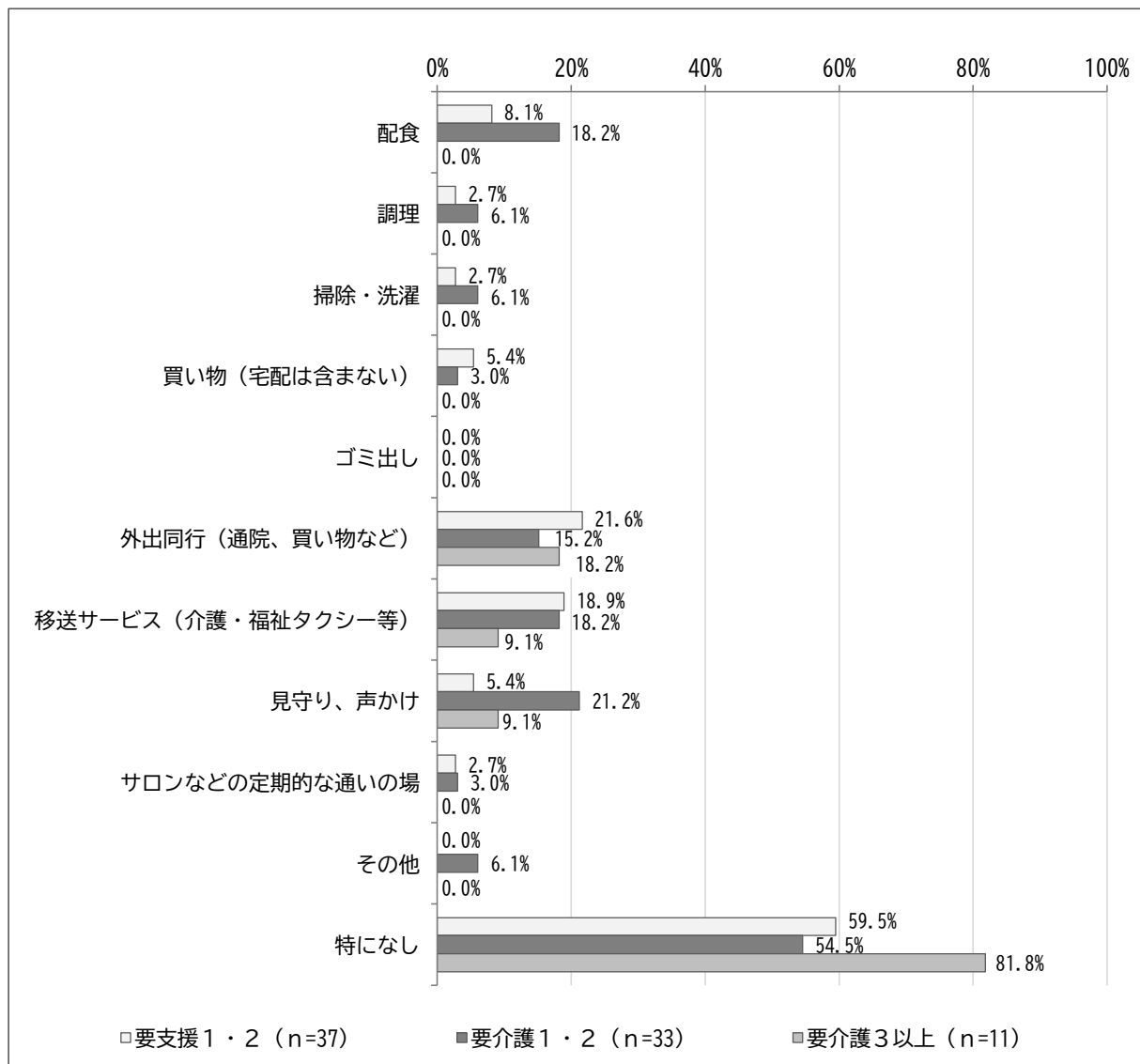
図表 3-9 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）



【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）】

その他の世帯における、保険外の支援・サービスの必要性を要介護度別にみると、「要支援 1・2」では「特になし」が 59.5%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が 21.6%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 18.9%となっています。「要介護 1・2」では「特になし」が 54.5%と最も割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が 21.2%、「配食」・「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 18.2%となっています。「要介護 3 以上」では「特になし」が 81.8%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が 18.2%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」・「見守り、声かけ」が 9.1%となっています。

図表 3-10 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）

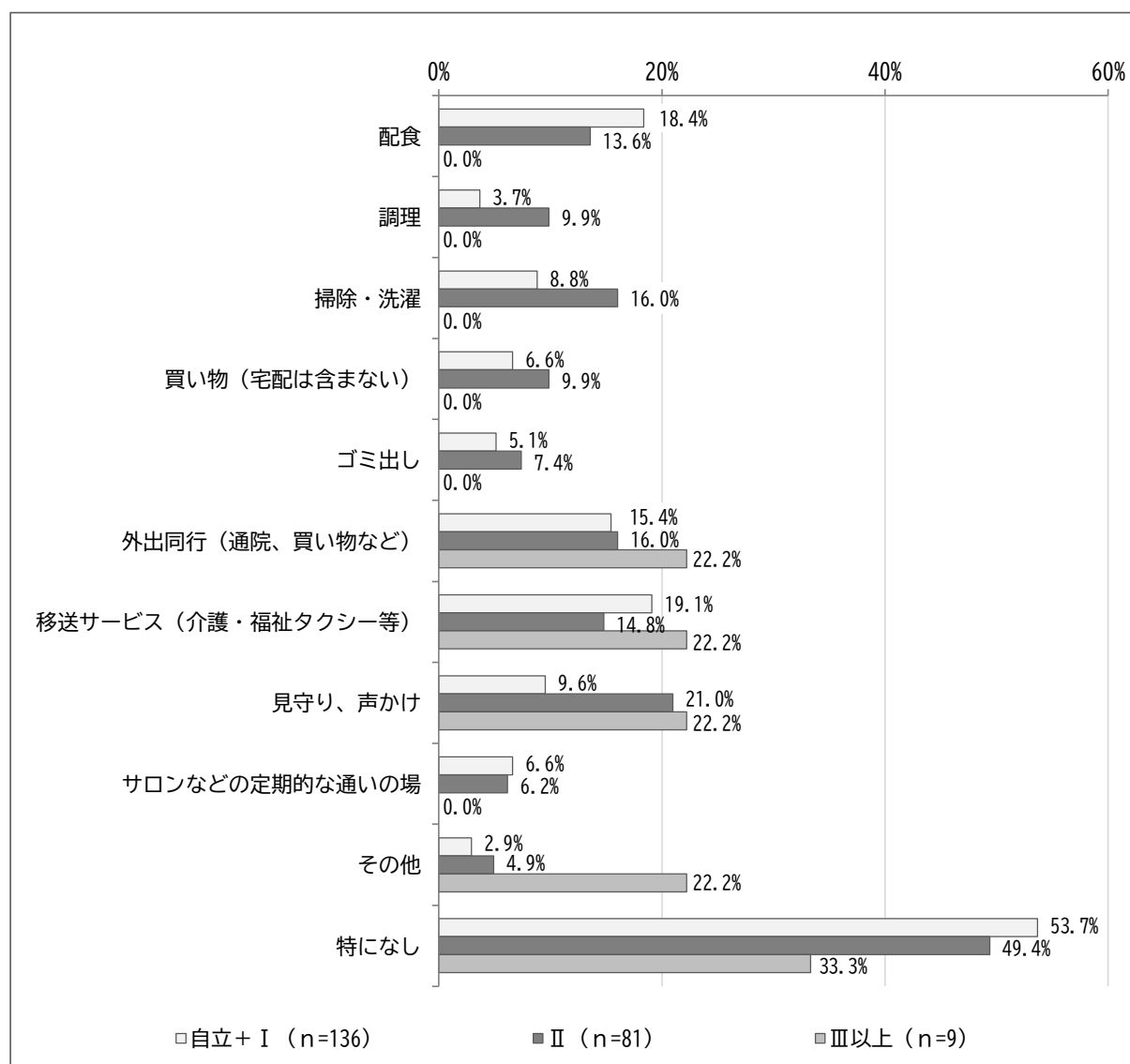


(4) 認知症自立度×在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

【認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「特になし」が 53.7%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 19.1%、「配食」が 18.4%となっています。「Ⅱ」では「特になし」が 49.4%と最も割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が 21.0%、「掃除・洗濯」・「外出同行（通院、買い物など）」が 16.0%となっています。「Ⅲ以上」では「特になし」が 33.3%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」・「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」・「見守り、声かけ」・「その他」が 22.2%となっています。

図表 3-11 認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



4 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

4.1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上のための、将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討につなげるため、特に世帯類型別の「サービス利用の特徴」や「施設等検討の状況」に焦点を当てた集計を行っています。
- 具体的には、世帯類型別の「家族等による介護の頻度」、「サービス利用の組み合わせ」、「施設等検討の状況」などの分析を行います。

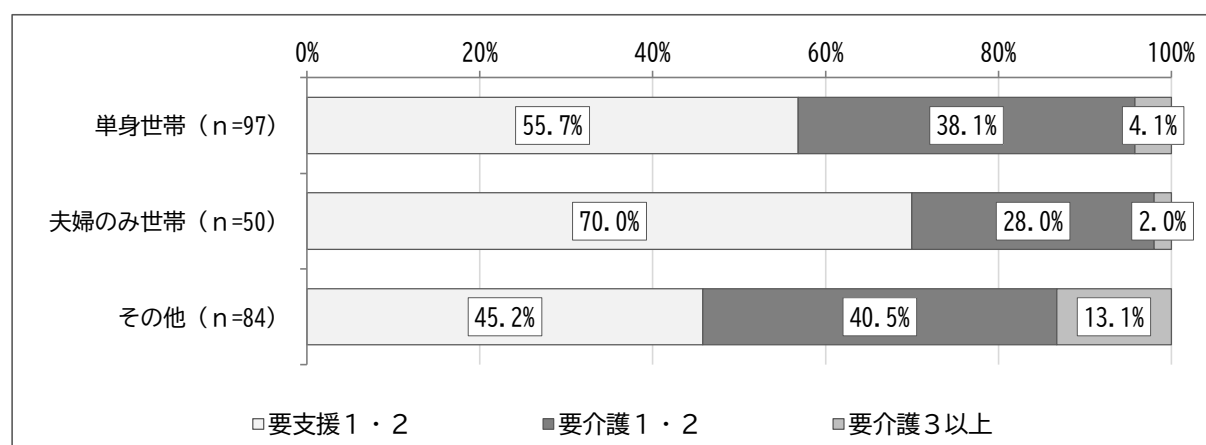
4.2 集計結果の傾向

(1) 世帯類型別の要介護度

【世帯類型別・要介護度】

本人の要介護度を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「要支援1・2」が55.7%と最も割合が高く、次いで「要介護1・2」が38.1%、「要介護3以上」が4.1%となっています。「夫婦のみ世帯」では「要支援1・2」が70.0%と最も割合が高く、次いで「要介護1・2」が28.0%、「要介護3以上」が2.0%となっています。「その他」では「要支援1・2」が45.2%と最も割合が高く、次いで「要介護1・2」が40.5%、「要介護3以上」が13.1%となっています。

図表 4-1 世帯類型別・要介護度

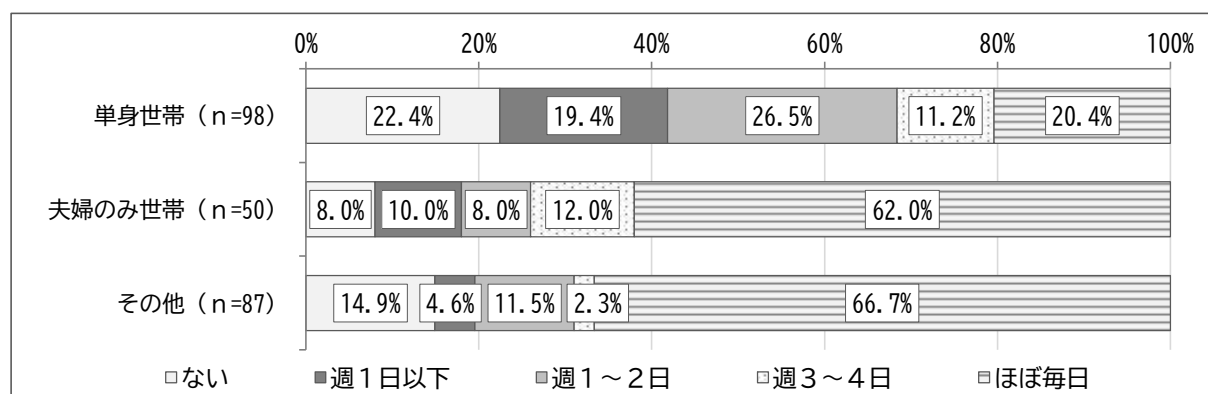


(2) 世帯類型別の家族等による介護の頻度

【世帯類型別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「週1～2日」が26.5%と最も割合が高く、次いで「ない」が22.4%、「ほぼ毎日」が20.4%となっています。「夫婦のみ世帯」では「ほぼ毎日」が62.0%と最も割合が高く、次いで「週3～4日」が12.0%、「週1日以下」が10.0%となっています。「その他」では「ほぼ毎日」が66.7%と最も割合が高く、次いで「ない」が14.9%、「週1～2日」が11.5%となっています。

図表 4-2 世帯類型別・家族等による介護の頻度

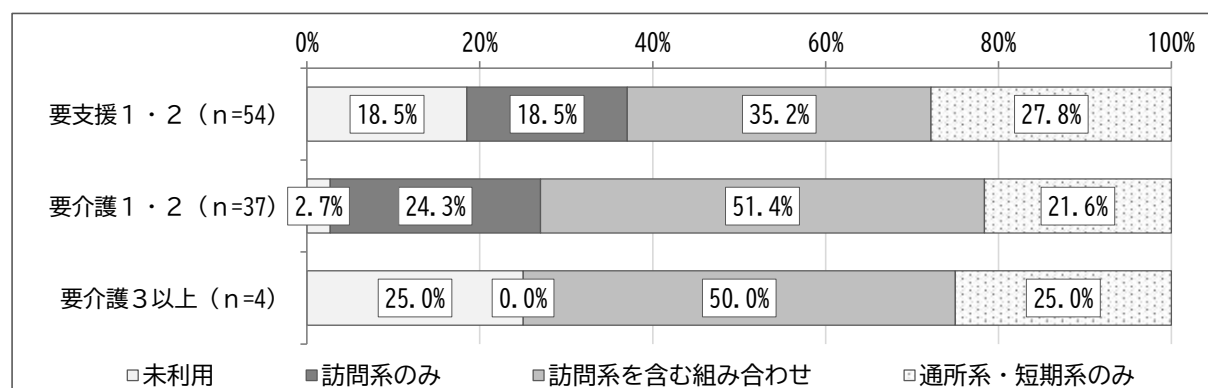


(3) 要介護度別・認知症自立度別の世帯類型別のサービス利用の組み合わせ

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）】

単身世帯における、サービス利用の組み合わせを要介護度別にみると、「要支援1・2」では「訪問系を含む組み合わせ」が35.2%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が27.8%、「未利用」・「訪問系のみ」が18.5%となっています。「要介護1・2」では「訪問系を含む組み合わせ」が51.4%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が24.3%、「通所系・短期系のみ」が21.6%となっています。「要介護3以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が50.0%と最も割合が高く、次いで「未利用」・「通所系・短期系のみ」が25.0%となっています。

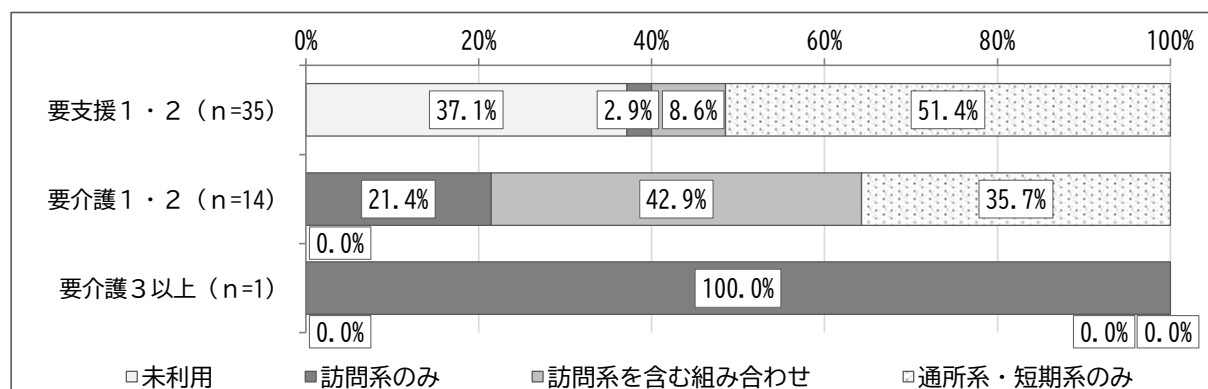
図表 4-3 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）】

夫婦のみ世帯における、サービス利用の組み合わせを要介護度別にみると、「要支援１・２」では「通所系・短期系のみ」が51.4%と最も割合が高く、次いで「未利用」が37.1%、「訪問系を含む組み合わせ」が8.6%となっています。「要介護１・２」では「訪問系を含む組み合わせ」が42.9%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が35.7%、「訪問系のみ」が21.4%となっています。「要介護３以上」では「訪問系のみ」が100.0%となっています。

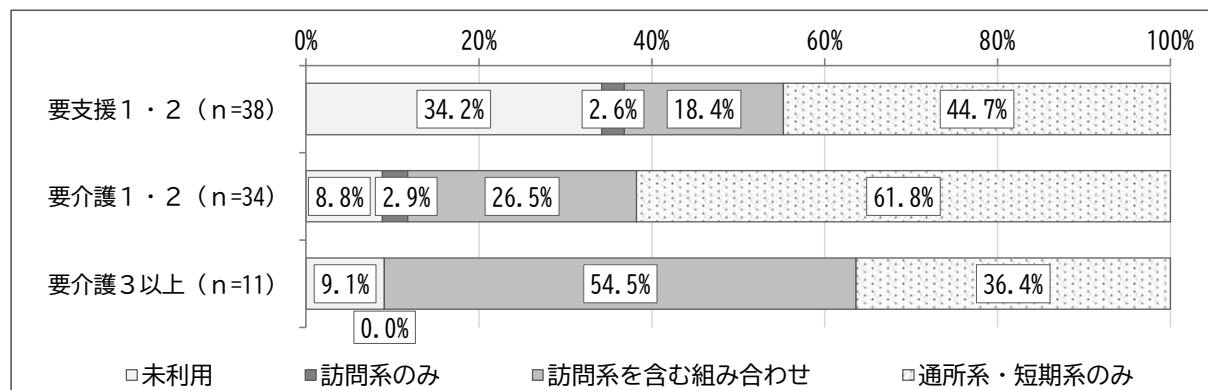
図表 4-4 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）】

その他世帯における、サービス利用の組み合わせを要介護度別にみると、「要支援１・２」では「通所系・短期系のみ」が44.7%と最も割合が高く、次いで「未利用」が34.2%、「訪問系を含む組み合わせ」が18.4%となっています。「要介護１・２」では「通所系・短期系のみ」が61.8%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が26.5%、「未利用」が8.8%となっています。「要介護３以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が54.5%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が36.4%、「未利用」が9.1%となっています。

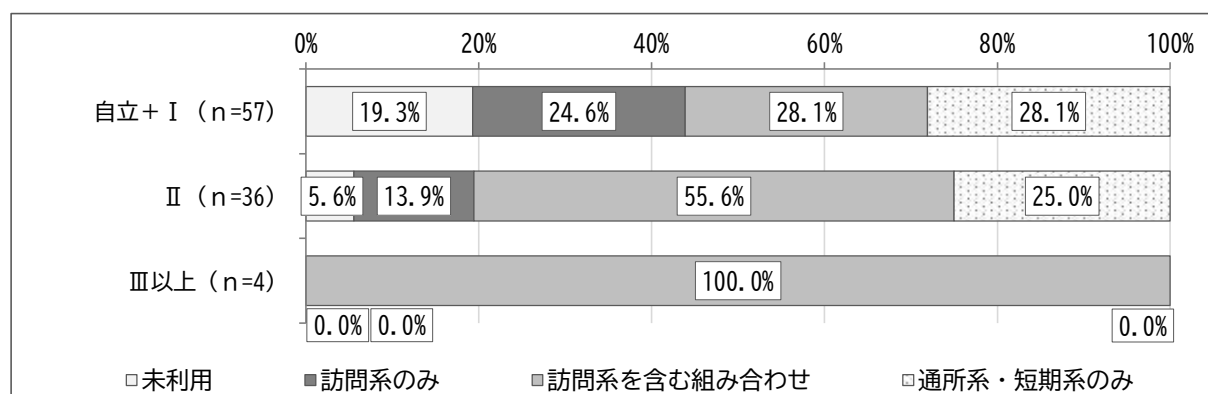
図表 4-5 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）】

単身世帯における、サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「訪問系を含む組み合わせ」・「通所系・短期系のみ」が28.1%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が24.6%、「未利用」が19.3%となっています。「Ⅱ」では「訪問系を含む組み合わせ」が55.6%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が25.0%、「訪問系のみ」が13.9%となっています。「Ⅲ以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が100.0%となっています。

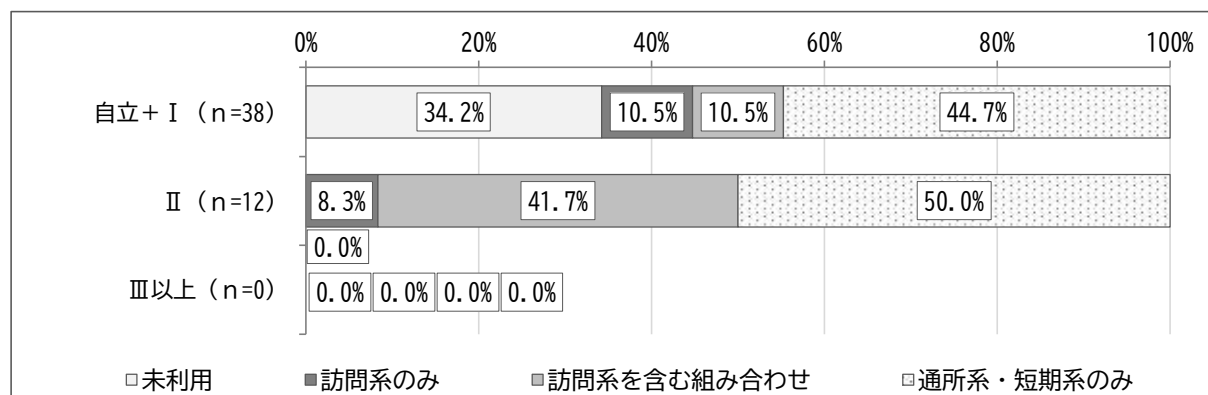
図表 4-6 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）】

夫婦のみ世帯におけるサービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「通所系・短期系のみ」が44.7%と最も割合が高く、次いで「未利用」が34.2%、「訪問系のみ」・「訪問系を含む組み合わせ」が10.5%となっています。「Ⅱ」では「通所系・短期系のみ」が50.0%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が41.7%、「訪問系のみ」が8.3%となっています。「Ⅲ以上」の回答はありませんでした。

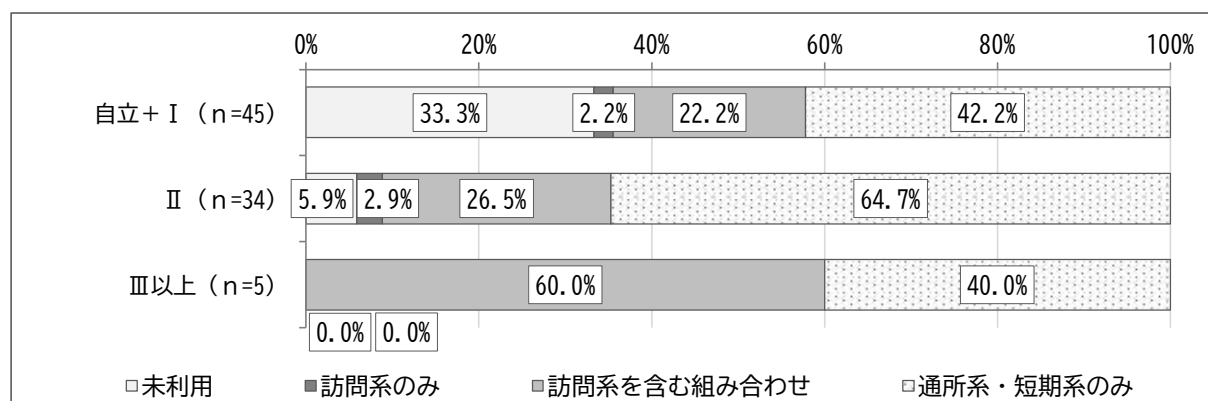
図表 4-7 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）】

その他の世帯におけるサービス利用の組み合わせを、認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「通所系・短期系のみ」が42.2%と最も割合が高く、次いで「未利用」が33.3%、「訪問系を含む組み合わせ」が22.2%となっています。「Ⅱ」では「通所系・短期系のみ」が64.7%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が26.5%、「未利用」が5.9%となっています。「Ⅲ以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が60.0%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が40.0%となっています。

図表 4-8 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



5 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

5.1 集計・分析の狙い

- ここでは、医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの検討につなげるための集計を行います。
- 具体的には、要介護度別の「主な介護者が行っている介護」や「訪問診療の利用の有無」、「訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ」などの分析を行います。

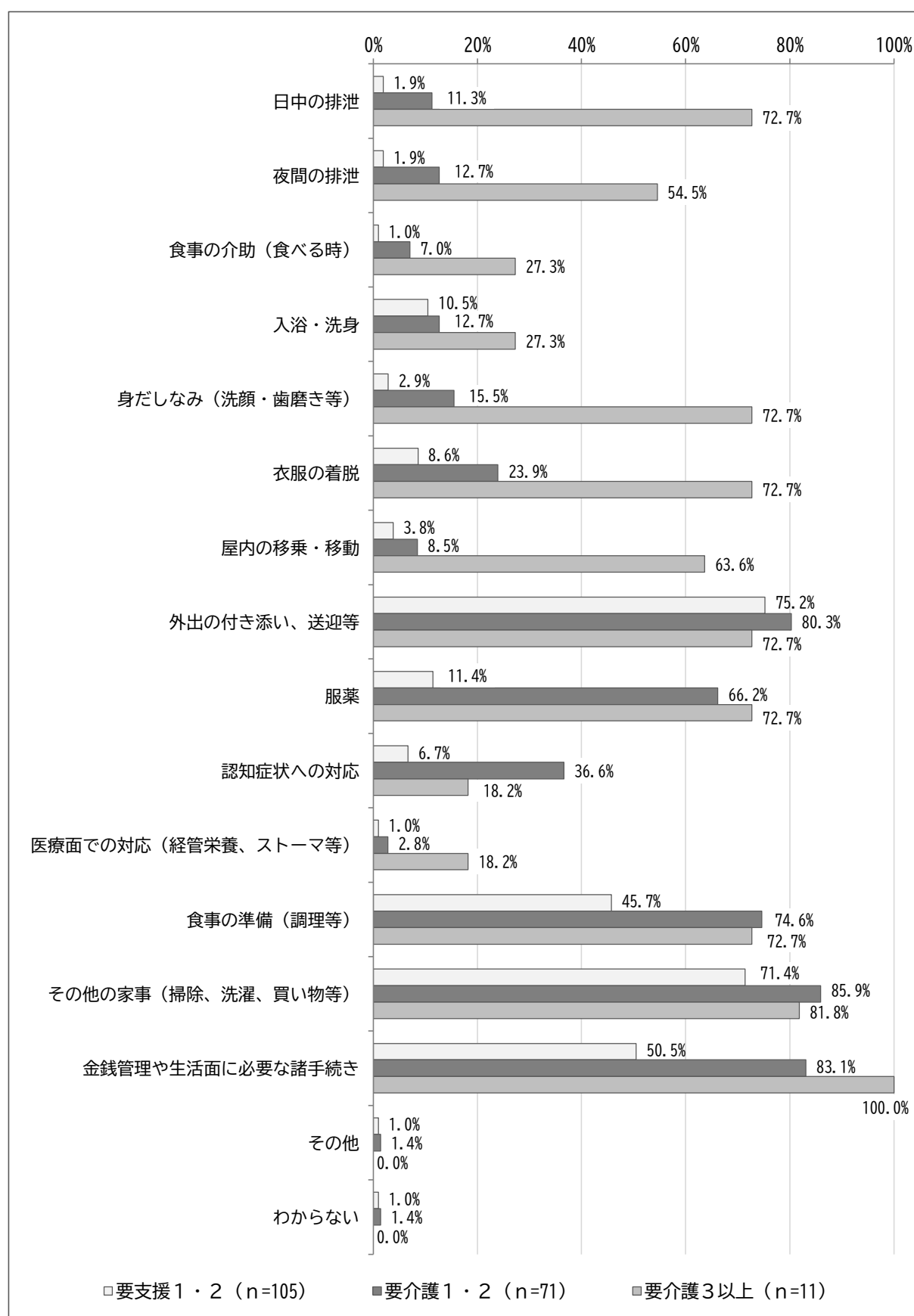
5.2 集計結果の傾向

(1) 要介護度別の主な介護者が行っている介護

【要介護度別・主な介護者が行っている介護】

介護者が行っている介護を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「外出の付き添い、送迎等」が75.2%と最も割合が高く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が71.4%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が50.5%となっています。「要介護1・2」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が85.9%と最も割合が高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が83.1%、「外出の付き添い、送迎等」が80.3%となっています。「要介護3以上」では「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が100.0%と最も割合が高く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が81.8%、「日中の排泄」・「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」・「衣服の着脱」・「外出の付き添い、送迎等」・「服薬」・「食事の準備（調理等）」が72.7%となっています。

図表 5-1 要介護度別・主な介護者が行っている介護



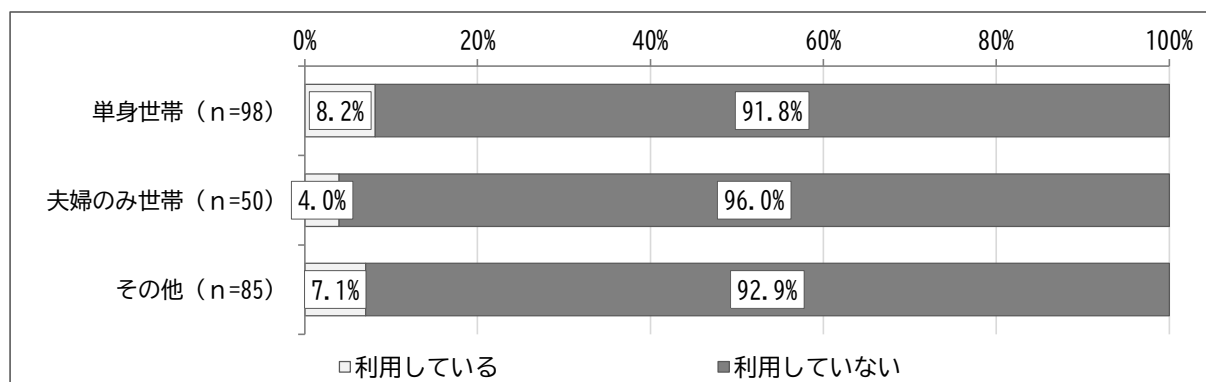
(2) 世帯類型別、要介護度別の訪問診療の利用割合

【世帯類型別・訪問診療の利用割合】

訪問診療の利用の有無を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「利用していない」が91.8%と最も割合が高く、次いで「利用している」が8.2%となっています。「夫婦のみ世帯」では「利用していない」が96.0%と最も割合が高く、次いで「利用している」が4.0%となっています。「その他」では「利用していない」が92.9%と最も割合が高く、次いで「利用している」が7.1%となっています。

いずれの世帯類型においても、「利用していない」が9割以上を占めています。

図表 5-2 世帯類型別・訪問診療の利用割合

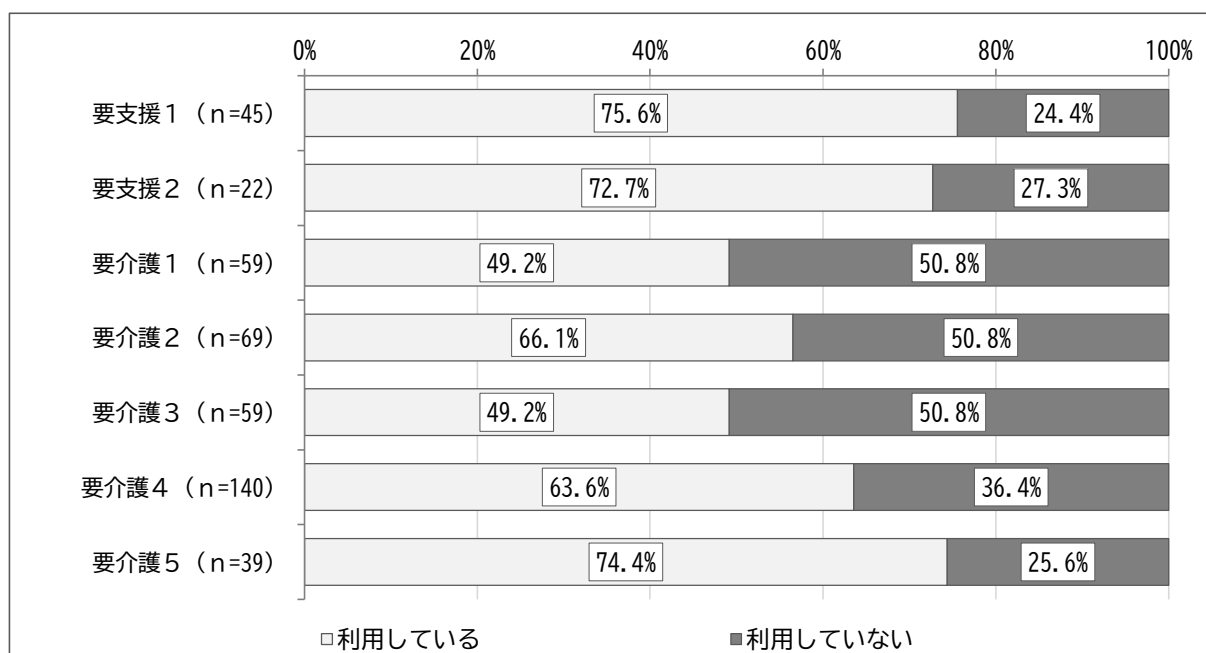


【要介護度別・訪問診療の利用割合】

訪問診療の利用の有無を要介護度別にみると、「要支援1」・「要支援2」・「要介護2」・「要介護4」・「要介護5」では「利用している」の割合が高く半数を超えています。

一方、「要介護1」・「要介護3」では「利用していない」の割合が高くなっています。

図表 5-3 要介護度別・訪問診療の利用割合

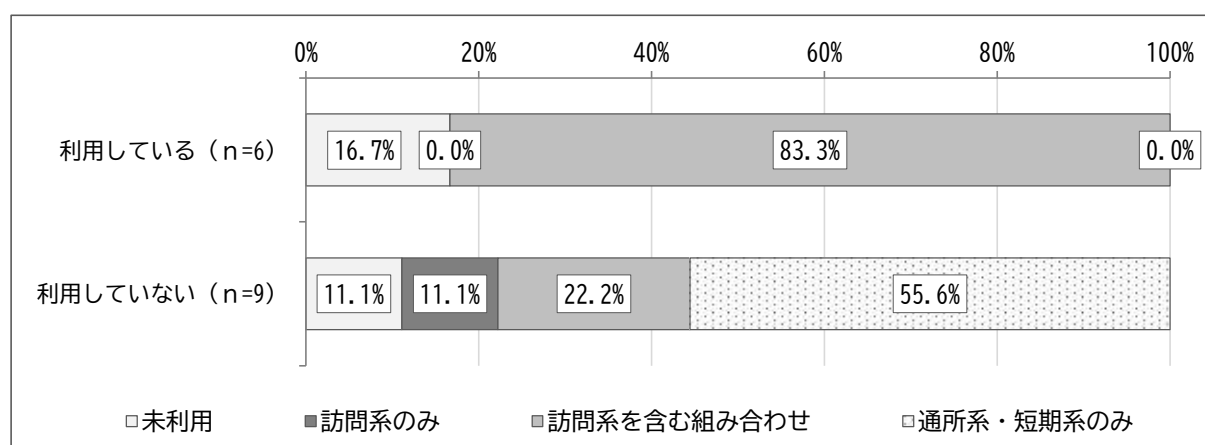


(3) 訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ

【訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ（要介護3以上）】

要介護3以上における、サービス利用の組み合わせを、訪問診療の利用の有無別にみると、訪問診療を「利用している」では「訪問系を含む組み合わせ」が83.3%と最も割合が高く、次いで「未利用」が16.7%となっています。訪問診療を「利用していない」では「通所系・短期系のみ」が55.6%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が22.2%、「未利用」・「訪問系のみ」が11.1%となっています。

図表 5-4 訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ（要介護3以上）

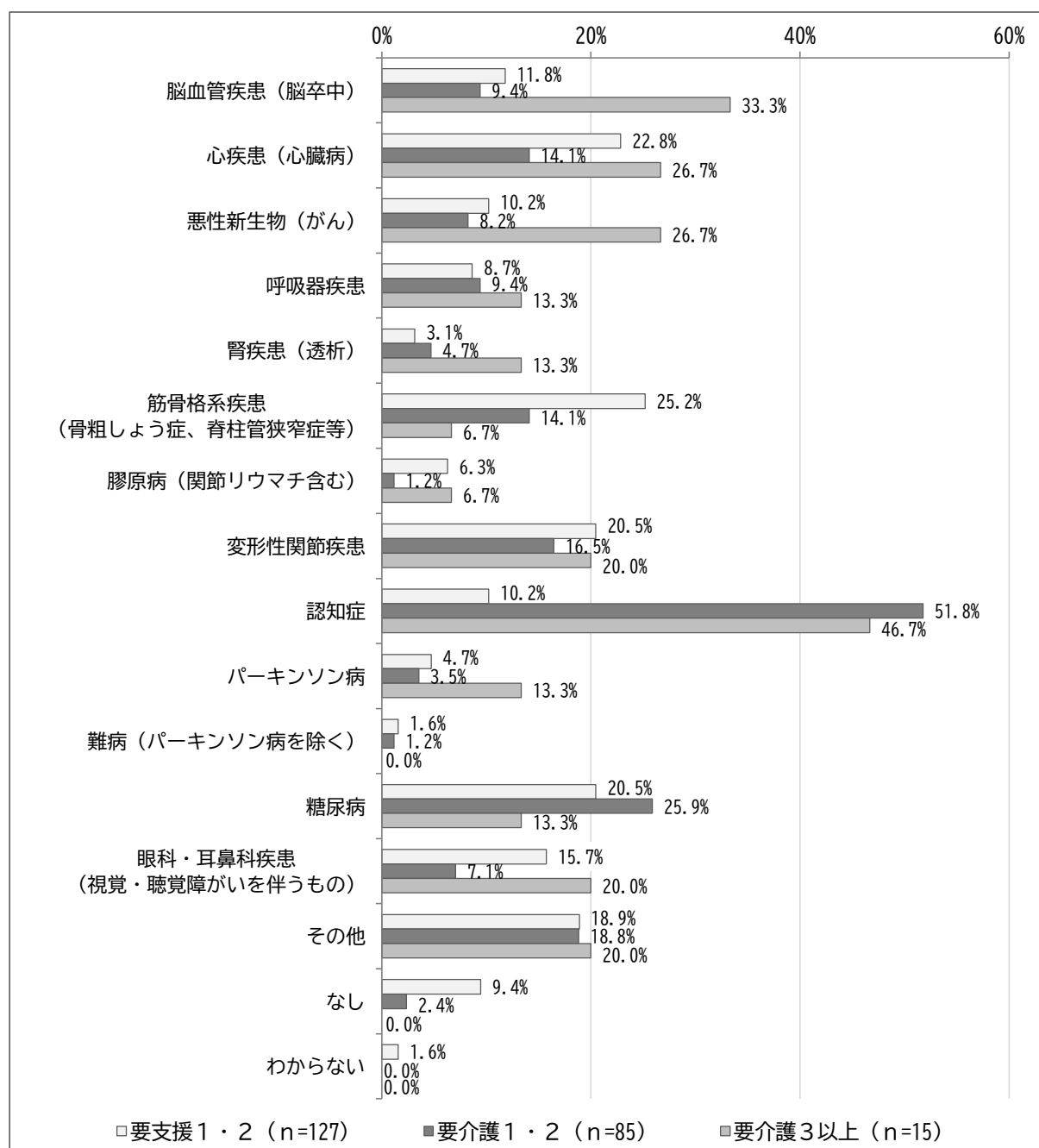


(4) 要介護度別の抱えている傷病

【要介護度別・抱えている傷病】

抱えている傷病を要介護度別にみると、「要支援１・２」では「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が 25.2%と最も割合が高く、次いで「心疾患（心臓病）」が 22.8%、「変形性関節疾患」「糖尿病」が 20.5%となっています。「要介護１・２」では「認知症」が 51.8%と最も割合が高く、次いで「糖尿病」が 25.9%、「その他」が 18.8%となっています。「要介護３以上」では「認知症」が 46.7%と最も割合が高く、次いで「脳血管疾患（脳卒中）」が 33.3%、「心疾患（心臓病）」、「悪性新生物（がん）」が 26.7%となっています。

図表 5-5 要介護度別・抱えている傷病

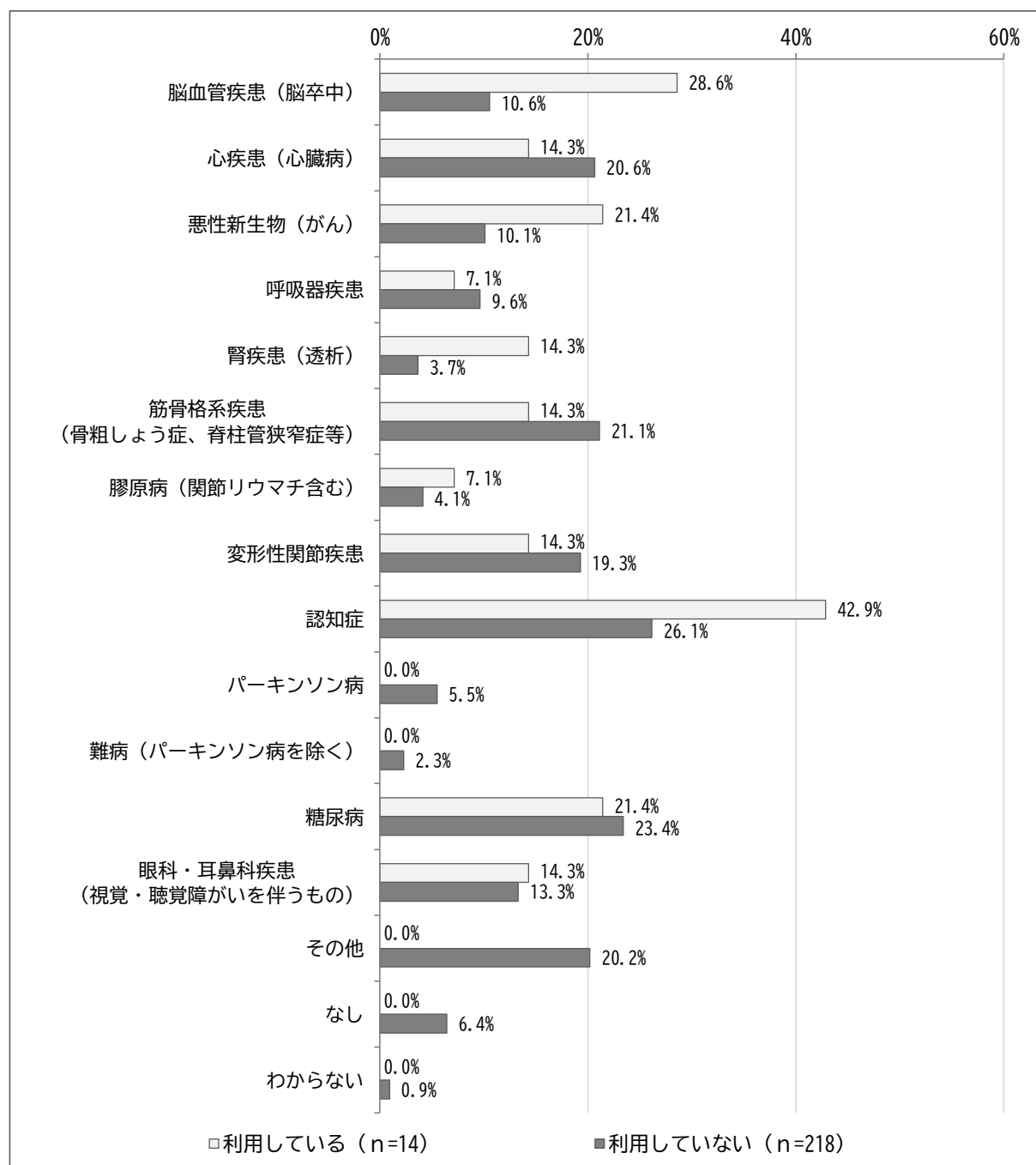


(5) 訪問診療の利用の有無別の抱えている傷病

【訪問診療の利用の有無別・抱えている傷病】

抱えている傷病を訪問診療の利用の有無別にみると、訪問診療を「利用している」では「認知症」が42.9%と最も割合が高く、次いで「脳血管疾患（脳卒中）」が28.6%、「悪性新生物（がん）」・「糖尿病」が21.4%となっています。訪問診療を「利用していない」では「認知症」が26.1%と最も割合が高く、次いで「糖尿病」が23.4%、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が21.1%となっています。

図表 5-6 訪問診療の利用の有無別・抱えている傷病



6 サービス未利用の理由など

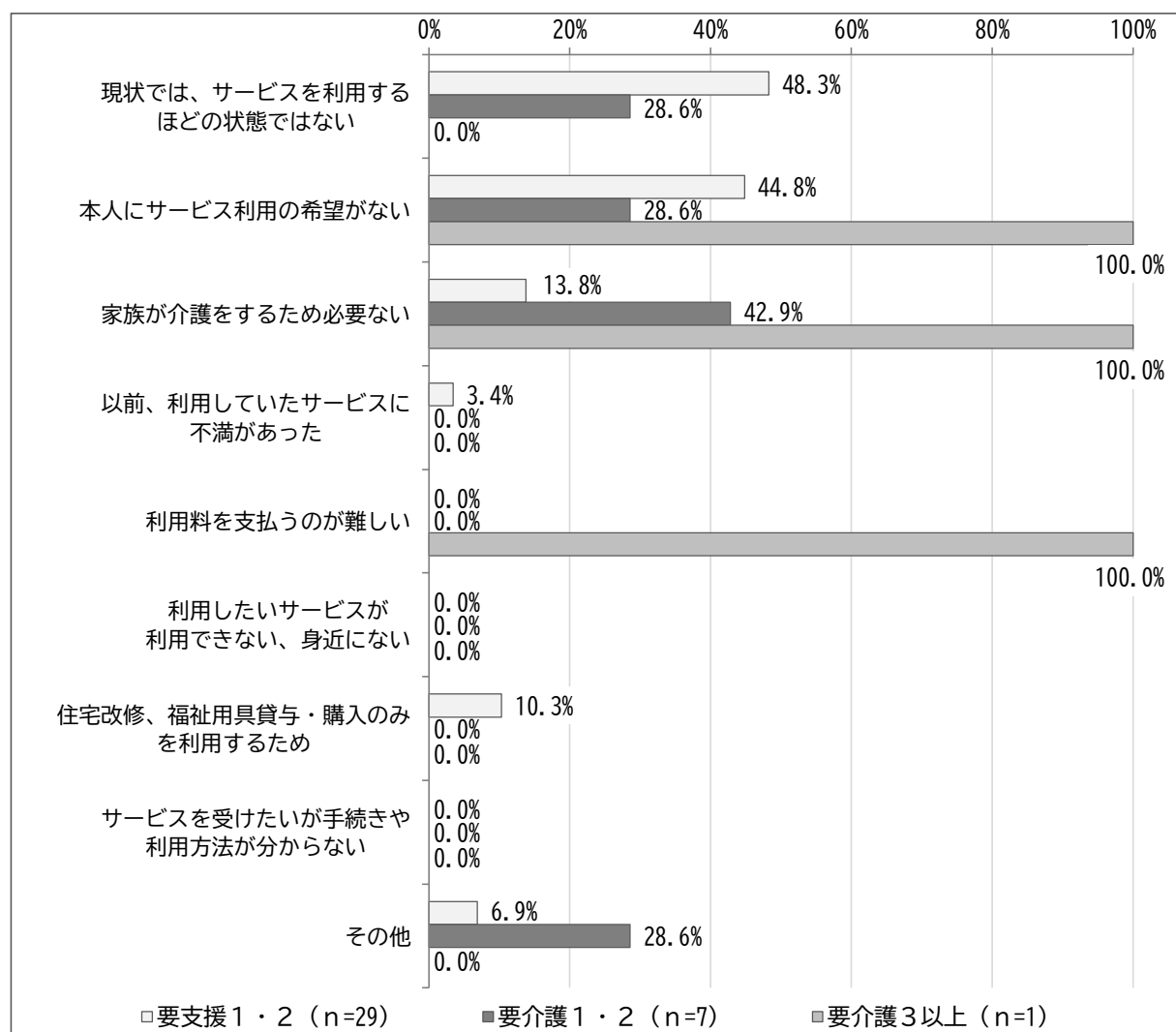
6.1 集計結果の傾向

(1) 要介護度別のサービス未利用の理由

【要介護度別のサービス未利用の理由】

サービス未利用の理由を要介護度別にみると、「要支援１・２」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が48.3%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が44.8%、「家族が介護をするため必要ない」が13.8%となっています。「要介護１・２」では「家族が介護をするため必要ない」が42.9%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」・「本人にサービス利用の希望がない」、「その他」が28.6%となっています。「要介護３以上」では「本人にサービス利用の希望がない」・「家族が介護をするため必要ない」・「利用料を支払うのが難しい」が100.0%となっています。

図表 6-1 要介護度別のサービス未利用の理由



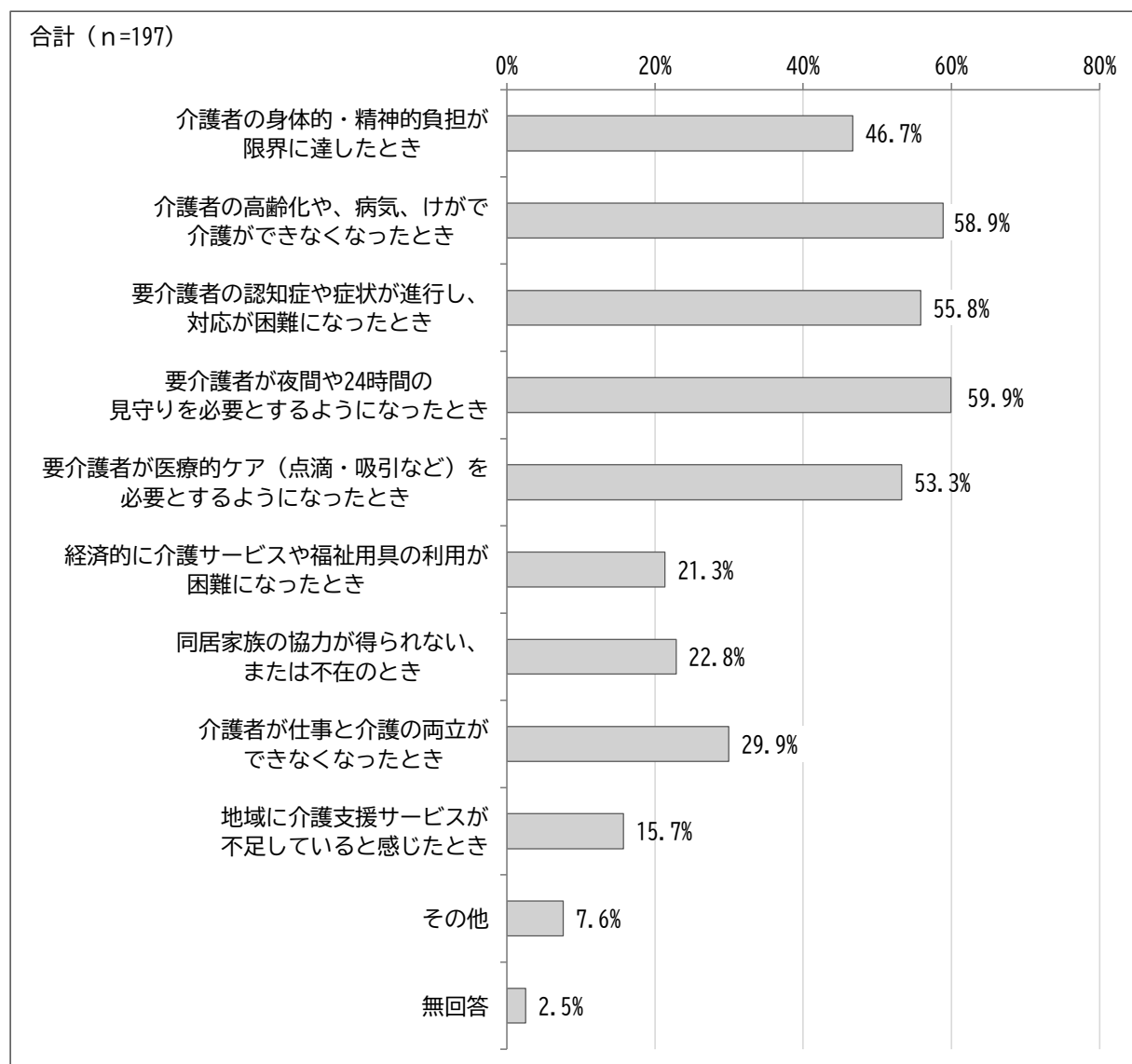
Ⅳ 独自設問

A票の問2で「ない」以外を回答したかた

A票：問8 在宅介護の継続が難しくなると考えるのはどのような状況ですか。
(複数選択可)

在宅介護の継続が難しくなると考える状況をみると、「要介護者が夜間や24時間の見守りを必要とするようになったとき」が59.9%と最も割合が高く、次いで「介護者の高齢化や、病気、けがで介護ができなくなったとき」が58.9%、「要介護者の認知症や症状が進行し、対応が困難になったとき」が55.8%となっています。

図表 在宅介護の継続が難しくなると考える状況



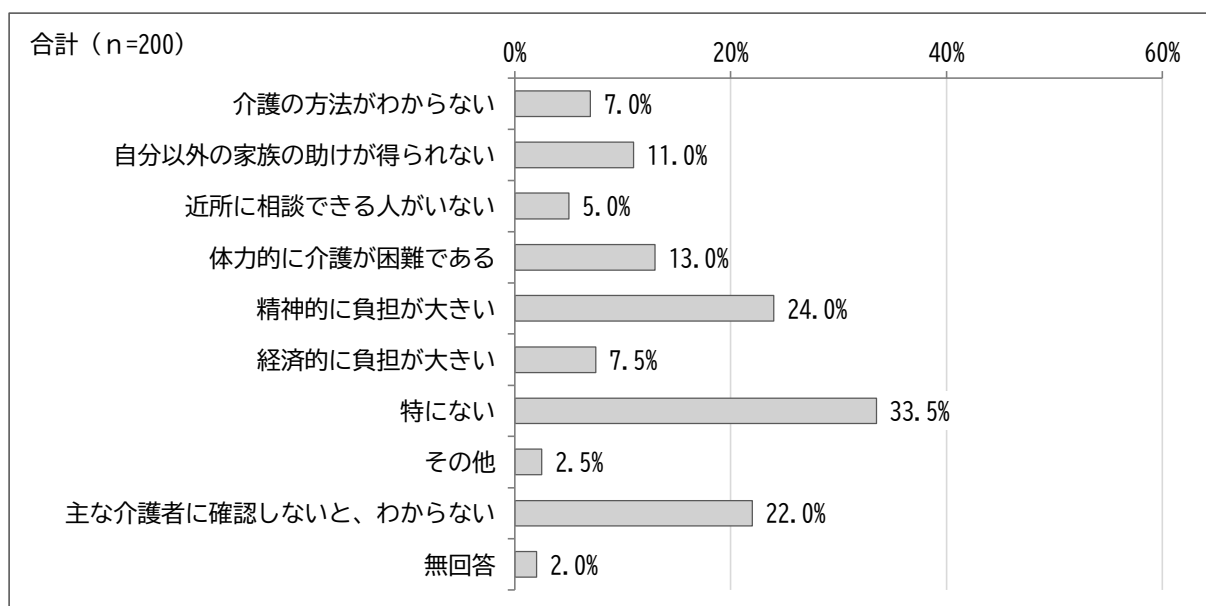
B票：問5 介護を行う上で困っていることは何ですか。（3つまで選択可）

介護を行う上で困っていることをみると、「特にない」が33.5%と最も割合が高く、次いで「精神的に負担が大きい」が24.0%、「体力的に介護が困難である」が13.0%となっています。（前回調査では選択肢が無い為「主な介護者に確認しないと、わからない」を除く。）

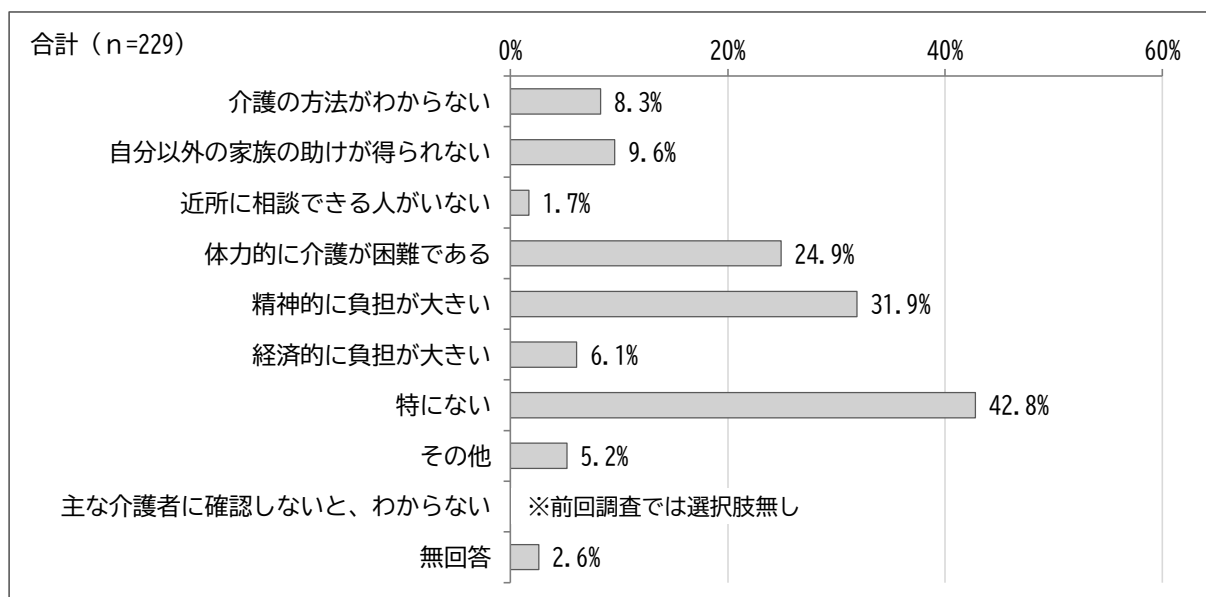
前回調査と比較すると、「体力的に介護が困難である」が11.9ポイント、「精神的に負担が大きい」が7.9ポイント減少しています。

図表 介護を行う上で困っていること

【令和8年度調査】



【令和5年度調査】



B票：問7 今後、どのような支援が必要だと感じますか。（複数選択可）

今後必要だと感じる支援についてみると、「介護者の身体的負担を軽減するサービス（訪問介護・ショートステイなど）」が34.5%と最も高く、次いで「主な介護者に確認しないと、わからない」が27.0%、「緊急時の対応支援（通報システム・緊急訪問サービスなど）」が22.5%となっています。

図表 今後必要だと感じる支援

